

“Zoom-Zoom” …

それは英語で「ブー、ブー」という車の走行音をあらわす、子供言葉です。

誰でも、子供の頃は、動くことに対するあこがれがありました。

車のエンジン音が響くと、ドキドキする感じ。

カラダがビュンビュン流れる時の、快感。

めまいがするよううれしさ。

きっと、みんな知っていたはずです。

でも、大人になると、ちょっと忘れていたりする。

それを、マツダは忘れません。

それが、私たちの“Zoom-Zoom”の意味。

小さい時に知っていた、

ウズウズするような走る喜びを忘れていない皆様のために、

素晴らしいクルマを作り続けます、という

私たちの新しいブランド・パーソナリティのコア・エッセンスです。

このたびは、BONGO TRUCKをお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、お車の正しい取り扱いや簡単なお手入れ方法について説明しています。ご使用前に必ずお読みください。

「必読！安全ドライブのために」のところは特に重要ですので、よく読んでおいてください。

安全にお車を使用していただくために守っていただきたいことを、下記の表示で区分して記載しています。これらは重要ですので、必ず読んでお守りください。

 警告	取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う可能性のあるもの
 注意	取り扱いを誤った場合、傷害を負ったり車両の損傷につながる可能性のあるもの

本書内で使用している下記の表示は次の内容を示しています。

 知識	知っておいていただきたいこと 知っておくと便利なこと
	イラストで表現している内容の禁止を意味しています。

お車に表示されている下記のマークは次の内容を示しています。必ず本書の説明を読んでご使用ください。

	詳しい説明を本書に記載しています。
---	-------------------

- グレードや仕様により異なる装備については☆をつけています。
- マツダ販売店で取り付けられた装備品は、付属の取扱説明書をご覧ください。
- お車の保証および点検、整備要領については、別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。
- 本書は別冊のメンテナンスノートとともに、いつもお車に保管してください。

- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために、本書をお車につけておいてください。
- お車の仕様変更などにより、本書の内容の一部が車両と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

目次

イラスト目次 4 ページ

詳細目次 8 ページ

1 必読！安全ドライブのために 11 ページ

安全のために知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことをまとめております。よく読んでお守りください。

2 安全装備 35 ページ

シートベルト、SRSエアバッグシステムなど安全装備の操作と取り扱い

3 操作と取り扱い 59 ページ

各部の開閉や調節、運転装置の取り扱いなどお車の基本操作と取り扱い

4 快適カーライフのために 117 ページ

ドライブをより快適にする装備の操作と取り扱い

5 万一のときは 185 ページ

車が故障したとき、事故にあったときの処置

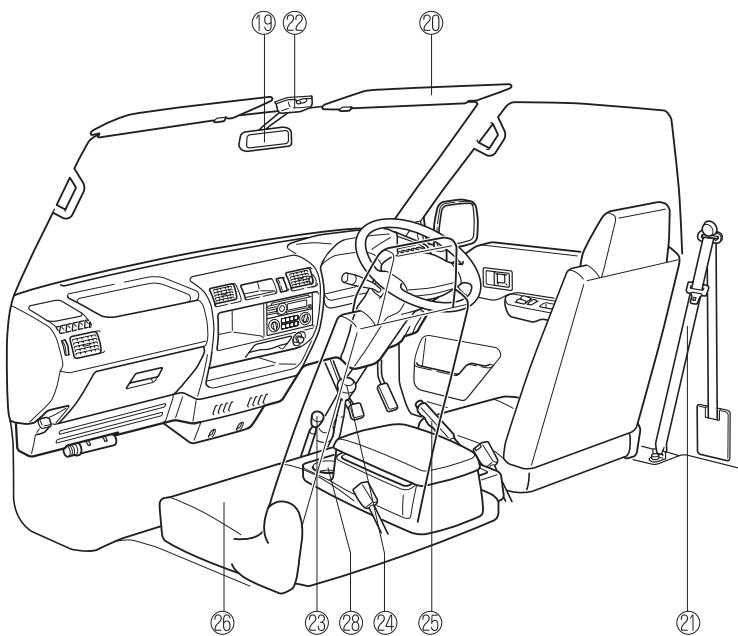
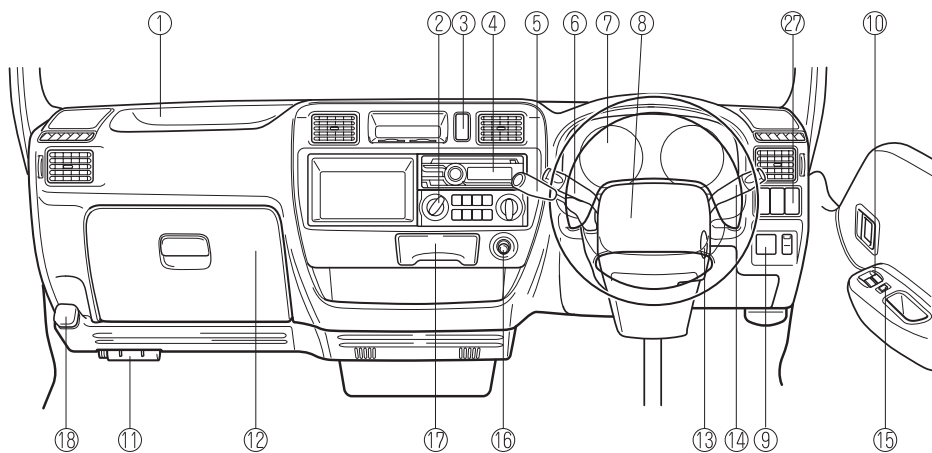
6 車との上手なつきあいかた 221 ページ

手入れの方法、真冬の取り扱いなど

サービスデータ 248 ページ

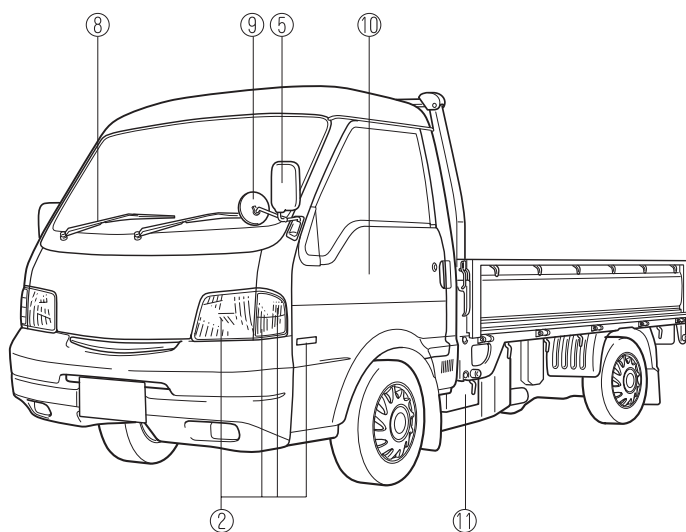
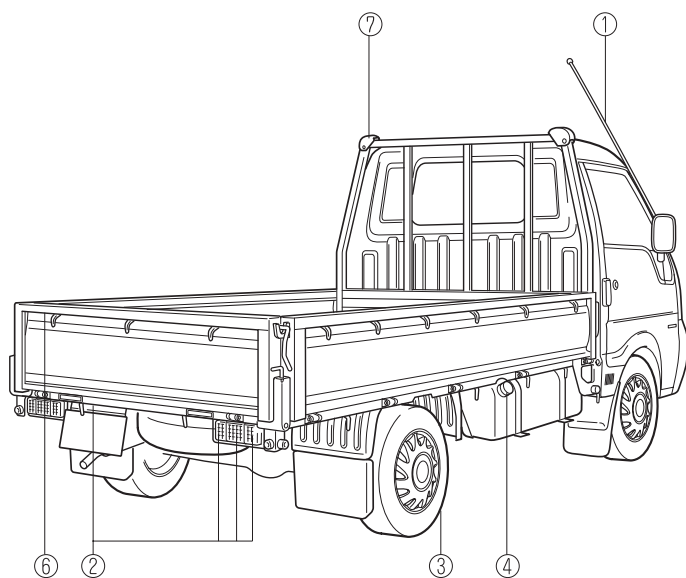
さくいん 258 ページ

イラスト目次



車種、グレード等により取り付け位置および装備が異なります。

① 助手席エアバッグ	52ページ
② エアコン	118ページ
③ 非常点滅灯スイッチ	96ページ
④ オーディオ	123ページ
⑤ セレクトレバー (オートマチック車)	101ページ
⑥ ワイパー/ウォッシャースイッチ	94ページ
⑦ メーター	78ページ
⑧ 運転席エアバッグ	52ページ
⑨ ドアミラー調節スイッチ	75ページ
⑩ パワーウインドースwitch	66ページ
⑪ 発炎筒	188ページ
⑫ グローブボックス	182ページ
⑬ エンジンスイッチ	97ページ
⑭ ランプスイッチ	91ページ
⑮ パワーウインドーロックスイッチ	67ページ
⑯ シガーライター	181ページ
⑰ 灰皿	181ページ
⑱ ウォッシャータンク	227ページ
⑲ ルームミラー	76ページ
⑳ サンバイザー	180ページ
㉑ シートベルト	38ページ
㉒ ルームランプ	180ページ
㉓ 4WDセレクトレバー (4WD車)	109ページ
㉔ チェンジレバー (マニュアル車)	100ページ
㉕ パーキングブレーキ	99ページ
㉖ シート	37ページ
㉗ ヘッドランプレベリングスイッチ	91ページ
㉘ カップホルダー	182ページ



車種、グレード等により取り付け位置および装備が異なります。

① アンテナ	123ページ
② 電球 (バルブ)	255ページ
③ タイヤ	257ページ
④ 燃料補給口	67ページ
⑤ ドアミラー	75ページ
⑥ 荷台	72ページ
⑦ ロードレストストッパー	74ページ
⑧ フロントワイパー	94ページ
⑨ フロントアンダーミラー	76ページ
⑩ ドア	63ページ
⑪ バッテリー	201ページ

詳細目次

1 必読！安全ドライブのために

お出かけ前に 12

お子さまを乗せるとき 17

運転するとき 19

オートマチック車を運転するとき 23

4WD車を運転するとき 25

駐停車するとき 27

こんなことにも注意 30

2 安全装備

シート 36

正しい運転姿勢 36

シート 37

シートベルト 38

正しい着用のしかた 38

3点式シートベルト 41

お子さまの安全 45

お子さま専用シートについて 45

SRSエアバッグシステム 49

SRSエアバッグシステムについて ... 49

ABS 56

ABSについて 56

3 操作と取り扱い

各部の開閉 60

キー 60

キーレスエントリーシステム
(リトラクタブルタイプキー) 61

ドア 63

パワードアロック 65

パワーウインドー 66

燃料補給口 67

エンジンカバー 70

サービスホールカバー 71

荷台 72

各部の調節 75

ドアミラー	75
フロントアンダーミラー	76
ルームミラー	76

メーター、警告灯、表示灯の見方 78

メーター	78
警告灯、表示灯	82
警報音	90

スイッチの使いかた 91

ランプスイッチ	91
方向指示器	93
ワイパー/ウォッシャースイッチ	94
ホーン	95
非常点滅灯スイッチ	96

運転装置の使いかた 97

電源ポジション (エンジンスイッチ)	97
エンジンの始動	98
エンジンの停止	99
ブレーキ	99
マニュアルトランスミッション	100
オートマチックトランス ミッション	101
オートマチック車を運転すると き	104
4WD	107

4 快適カーライフのために

空調 118

エアコンを上手に使用していただくために	118
吹き出し口	119
マニュアルエアコン	121

オーディオ 123

アンテナ	123
オーディオを上手に使用していただくために	123
オーディオの種類	132
AM/FMラジオ	134
CD一体型ラジオ	140
ポータブルオーディオ機器を使用 していただくために	165

室内装備 180

サンバイザー	180
室内照明	180
シガーライター	181
灰皿	181
カップホルダー	182
収納	182

5 万一のときは

故障したとき 186

路上で故障したとき	186
踏切内で動けなくなったとき	187

緊急用具の取り扱い 188

発炎筒	188
工具、ジャッキ	189
ジャッキの取り扱い	191
スペアタイヤ	194

パンクしたとき 196

タイヤ交換 196

オーバーヒートしたとき 199

オーバーヒートについて 199

バッテリーがあがったとき 201

バッテリーあがりについて 201

ヒューズ切れ、電球切れのとき 203

ランプ類、電気装置が作動しないとき 203
ヒューズの受け持つ装置 214

けん引について 218

けん引してもらうとき 218
故障車をけん引するとき 219

万一事故が起きたとき 220

6 車との上手なつきあいかた

点検、整備 222

点検整備について 222
定期点検 222
日常点検 223

車の手入れ 230

外装の手入れ 230
内装の手入れ 233
その他の手入れ 235

積雪、寒冷時の取り扱い 236

冬にそなえて 236
運転する前に 237
走行するときは 238
駐車するときは 239
タイヤチェーンの取り付け 240
寒冷地用ワイパーブレードについて 241

こんなときは 242

夏期の取り扱い 242
雨の日の運転 242

環境保護のために 243

経済的な運転 243
廃棄物を処理するときは 246

1 必読！安全ドライブのために

安全のために知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことをまとめております。よく読んでお守りください。

お出かけ前に	12
お子さまを乗せるとき	17
運転するとき	19
オートマチック車を運転するとき	23
4WD車を運転するとき	25
駐停車するとき	27
こんなことにも注意	30

点検は必ず実施する



安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

日常点検としてバッテリー液の量を定期的に点検する

バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

→33ページ「バッテリーの取り扱いに気を付ける」

点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。

日常点検としてタイヤを定期的に点検する

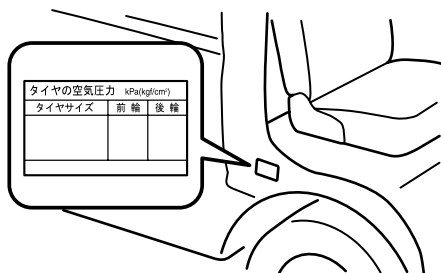
タイヤの点検は法律で義務付けられています。

タイヤは以下の点検をしてください。

- タイヤの空気圧
- タイヤのき裂・損傷
- タイヤの溝の深さ、異常摩耗

点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

タイヤの空気圧は必ず指定空気圧に調整する



タイヤの空気圧		kPa(kg/cm ²)	
タイヤサイズ		前輪	後輪

タイヤの空気圧が不足したまま走行しないでください。タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。また、タイヤの空気圧が不足したまま高速走行すると、タイヤがバースト (破裂) するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤの側面などにき裂や損傷のあるタイヤを装着しない

- 異常があるタイヤを装着しないでください。
 - 異常があるタイヤを装着すると、走行中にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、パンクやバースト（破裂）などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行中、異常な振動を感じた場合はマツダ販売店で点検を受け、正常なタイヤと交換してください。
- 異常のあるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・走行安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど、故障の原因になるおそれがあります。
- 道路の路肩などにタイヤの側面を接触させたり、凹凸やわだちの乗り越しは避けてください。タイヤの損傷、き裂などをまねくおそれがあります。

摩耗限度をこえたタイヤは装着しない

タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が現れているタイヤを使用しないでください。そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

→227ページ「タイヤの点検」

※ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になり、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない

- 指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しないでください。
→248ページ「燃料」
有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、高濃度アルコール含有燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。
 - エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。
 - エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。
 - ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。
- バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。
→67ページ「燃料補給口」

燃料補給時の注意

- 必ずエンジンを止めてください。火災につながるおそれがあります。
- 燃料を補給するときは、必ず次の点を守ってください。身体に静電気を帯びたまま作業をすると、放電による火花で燃料に引火、爆発し重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ・ 燃料補給作業は必ず一人で行ない、補給口に他の人を近づけないでください。
 - ・ 静電気を除去するため、フューエルキャップを開ける前には、車体または給油機などの金属部分に触れてください。
 - ・ 再帯電を防ぐため、燃料を補給する人は給油中に車内のシートに座らないでください。
- 補給口にはタバコなどの火気を近づけないでください。火災につながるおそれがあります。
- 給油ノズルは確実に給油口へ差し込んでください。給油ノズルが確実に差し込まれていないと、オートストップの作動が遅れ、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのオートストップ作動後は、追加給油しないでください。オートストップ作動後に追加給油すると、燃料があふれ出るおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取りはずしてください。急に開けると、燃料が噴き出すことがあるため火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。
- フューエルキャップは、確実に閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。

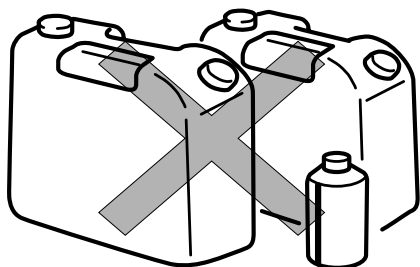
- 純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。
- ドアや窓を必ず閉めて燃料を補給してください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。
- 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。人体に有害な成分を含んでいる燃料があります。特にアレルギー体質の方は、注意してください。

荷物を積むときは固定する



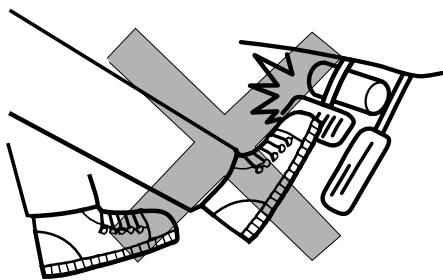
荷物を積むときは、そのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定してください。走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

可燃物、危険物は積まない



燃料のはいった容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

運転席足元には物を置かない

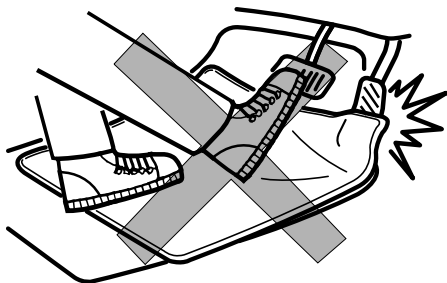


運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまったりすると、ブレーキやアクセルペダルが正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

収納スペース使用時の注意

フタのついていない収納スペースに物を入れるときは、収納のしかたに注意してください。収納の状態により、急加速時に内部の物が飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアマットは車に合ったものを使用する



車に合ったものを、フロアカーペットの上をしっかり固定して使用してください。フロアマットを敷くときは次の点を守ってください。フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかるなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

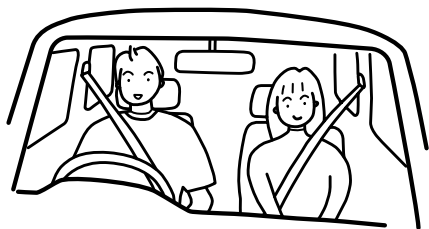
- 大きすぎるフロアマットは使用しない
- フロアマットは重ねて使用しない

正しい運転姿勢に調節する

走行前には、シートの位置を正しい運転姿勢がとれるように調節してください。

→36ページ「正しい運転姿勢」

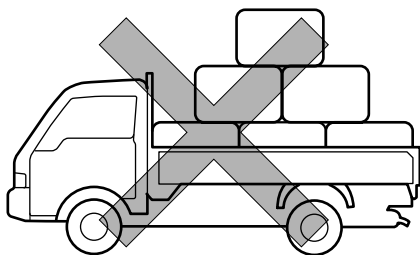
シートベルトは全員着用する



走行する前に運転者はもちろん同乗者にも必ずシートベルトを正しく着用させてください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されないため車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

→38ページ「正しい着用のしかた」

最大積載量以上の荷物を積まない



過積載は法律で禁止されています。最大積載量以上の荷物を積まないでください。過積載をすると、車両各部の損傷を早め、寿命を縮めるだけでなく、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

積載時には次の点を守ってください。

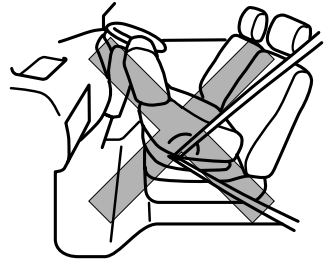
- 積載物のかたよりを避け、均等に積んでください。
- 積載物に縄やシートをかけるときは、確実に固定し、荷くずれや落下のないようにしてください。
- 積載物を高く積みすぎないでください。旋回時に横転するおそれがあります。法律で定められた高さ以下としてください。
- 積載物はなるべく車両後端から出さないでください。法律で定められた長さ以下としてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷台より長い積載物を積むときはウマを使ってください。ロードレストと車両後端の2点支持は避けてください。

→74ページ「ロードレストストッパー」

お子さまにもシートベルトを着用させる

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトが首や顔などに当たったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。
- お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

チャイルドシートは正しく取り付ける



警告ラベル



- エアバッグの作動可能な助手席には、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。
助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないことを示しています。
- ベビーシート、チャイルドシートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。取り付けかたは、それぞれの商品に付属している取扱説明書に従って取り付けてください。

お子さまを乗せるとき

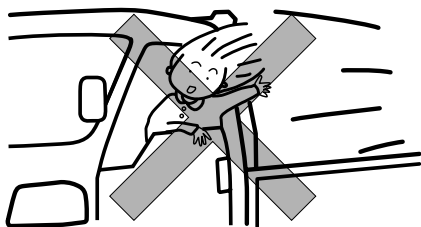
ドア、窓ガラスの開閉は大人が操作する



お子さまにはドア、窓ガラスの開閉をさせないでください。手、足、首などをはさんだりして重大な傷害につながるおそれがあります。

- パワーウィンドーロックスイッチはロックの位置にしてください。
→66ページ「パワーウィンドー」
- ドアを閉めたあとは必ず施錠してください。

窓から手や顔を出させない



走行中はお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物に当たったり、急ブレーキを踏んだとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

車から離れるときはお子さまと一緒に連れていく



車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下の車内はたいへん高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。症状がひどくなると脳に障害が残ったり、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

走行中はエンジンを止めない

走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

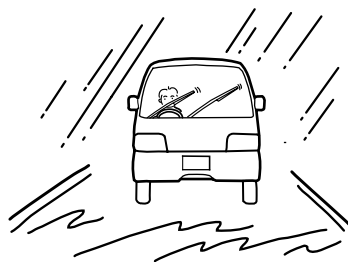
坂道ではエンジンブレーキを使う

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。

下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。また、ぬれた路面や積雪路、凍結路では急激なエンジンブレーキの使用（シフトダウン）は避けてください。スリップするおそれがあります。

エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力で低速ギヤほどよく効きます。

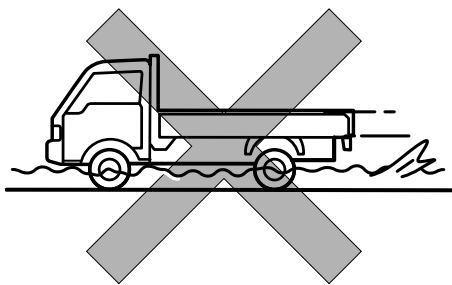
すべりやすい路面では慎重に運転する



ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態（ハイドロプレーニング現象）になるおそれがあります。

また、すべりやすい路面を走行中、急にアクセルペダルから足をはずすと、エンジン回転が不規則に上昇することがありますが異常ではありません。

冠水した道路を走行しない

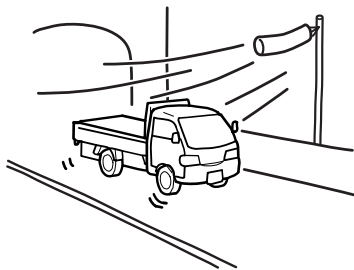


冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んだエンジンの破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

水たまりを走行したあとや洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効が悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

横風が強いときは慎重に運転する



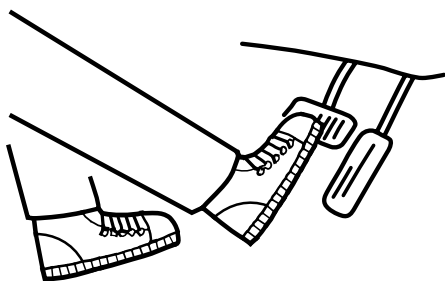
横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に半クラッチ操作を行わないでください。

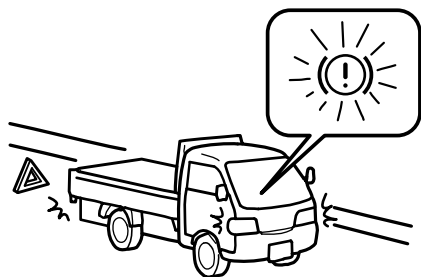
- クラッチやブレーキの部品が早く摩耗します。
- ブレーキが過熱し、効が悪くなるおそれがあります。

ブレーキ操作は右足で



- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
- アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

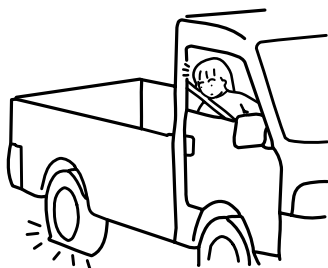
警告灯が点灯/ 点滅したら車を止める



走行中に警告灯が点灯/点滅したときは、ただちに安全な場所に停車し、適切な処置を行なってください。警告灯の点灯/点滅を無視して運転を続けるとエンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

→82ページ「警告灯、表示灯」

パンクやバースト (破裂) してもあわてない



走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかりと持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。

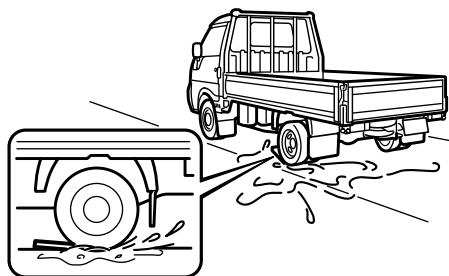
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。

次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

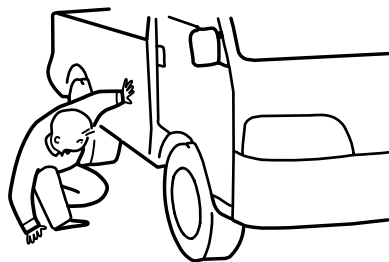
スタックした状態から脱出するときは注意する

ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなることをスタックといいます。



- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをDまたはRにいて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー/セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する



安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液や燃料の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。

異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。

そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

マツダ販売店で点検を受けてください。

- 普段と違う音や臭い、振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じる時。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 車の下に油のあとが残っているとき。

オートマチック車の特性

101ページの「オートマチックトランスミッション」もあわせてお読みください。

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り替えを自動化した車で、その分操作の負担が軽くなります。運転は楽になりますが、安易に運転することは禁物です。

オートマチック車の特性を理解し、正しい操作をする習慣をつけてください。

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、N以外にはっていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリープ現象といいます。

- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかりと踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、急加速させることができます。

この操作をキックダウンといいます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

エンジンをかける前に

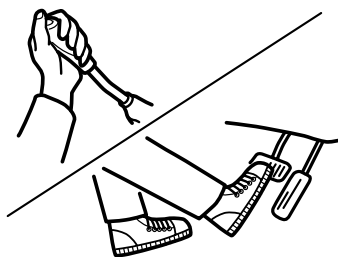
正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。

ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。

エンジンをかけるときは

安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるPにいれ、ブレーキを効かせた状態でエンジンをかけてください。

発進するときは



- アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなり、クリープ現象が強くなります。
- マニュアル車では発進時の速度をクラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行ないますので、アクセル操作は慎重に行なってください。

オートマチック車を運転するとき

走行するときは

- 走行中はセレクトレバーをNにいれないでください。トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用（シフトダウン）は避けてください。タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車するときは

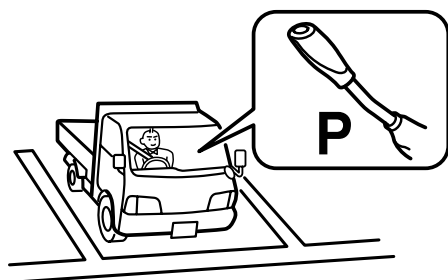
- 停車中、むやみにアクセルペダルを踏まないでください。セレクトレバーがP、N以外にはいつているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認してください。意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にいれ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

後退するときは

- 後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーをRにいれたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーをNにもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

駐車するときは

- 駐車するときは、セレクトレバーをPにいい、パーキングブレーキをかけてください。パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーをPにいいただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンのかけたまま駐車しないでください。万一セレクトレバーがP以外にはいつていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーをPにいれるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーをPにいいると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。



そのほかに気をつけること

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進することは行わないで下さい。エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

4WD車の特性

4WDは、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面ですぐれた走行性を発揮します。

→107ページ「4WD」

オフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。

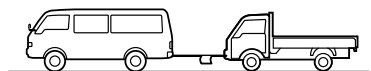
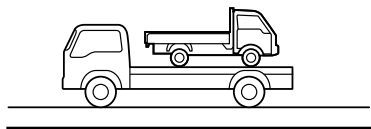
- アクセル、クラッチ、ハンドル、ブレーキなどの急な操作は、駆動系部品の損傷やスタック（立ち往生）につながるおそれがあります。4WD車であっても、一般の車と同じく慎重に操作し、安全運転に心がけてください。
- 4輪駆動での急旋回はしないでください。前後輪の回転差のためにおきる4WD特有のブレーキング現象が発生し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 60km/h以上の高速走行および乾燥した舗装道路では、後輪駆動（2WD）で走行してください。4輪駆動（4WD）で走行すると、駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイル漏れや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 4WD車には、駆動状態を検出する機能があり、4WD表示灯で駆動状態を確認することができます。4輪駆動から後輪駆動に切り替え操作をしても、4WD表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認後、直進状態で加減速またはシフトチェンジをして後輪駆動に切り替えて下さい。それでも切り替わらないときは周囲の安全を確認後、後退をして後輪駆動に切り替えてください。積載状態やタイヤの摩耗状態によっては、切り替わりにくい場合があります。
- 前輪駆動装置の潤滑のため、月に1度は4輪駆動で走行してください。

タイヤについて

タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。また、駆動系部品に悪影響をあたえないために、次の点を守ってください。

- タイヤを交換するときは前後輪を同時に交換してください。
- 前後輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。
特に、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤを装着するときは、スタッドレスタイヤとノーマルタイヤを混ぜて使用しないでください。
また、磨耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤを混ぜて使用すると、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ等）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどして、オイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。
- タイヤの偏摩耗を防ぐため、定期的にタイヤローテーションを行なってください。
→235ページ「タイヤの位置交換（タイヤローテーション）」
- タイヤの空気圧は定期的に点検し、タイヤ間で空気圧の差が著しくならないように規定値に調節してください。
適正空気圧は運転席ドアを開けたボディ側に貼付されているラベルで確認してください。
- 前後輪とも必ず指定されたサイズの純正ホイールを装着してください。
- タイヤチェーンは後輪に取り付けてください。
- タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以上で走行しないでください。
- 積雪路、凍結路以外では、タイヤチェーンを装着して走行しないでください。

けん引してもらうときは

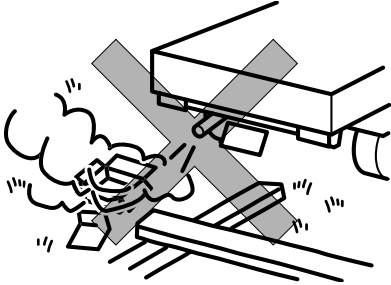


4WD車をけん引してもらうときは、まずマツダ販売店へご相談の上、次の点に注意してください。

- 駆動装置が故障したと思われるときは、前後輪を持ち上げてけん引してください。
- 前輪または後輪を持ち上げてけん引してもらうときは、後輪駆動にし、一度電源ポジションをACCまたはOFFにしてください。
- 後輪を持ち上げてけん引してもらうときはハンドルを直進の状態にして固定してください。

→218ページ「けん引してもらうとき」

燃えやすい物のそばに車を止めない



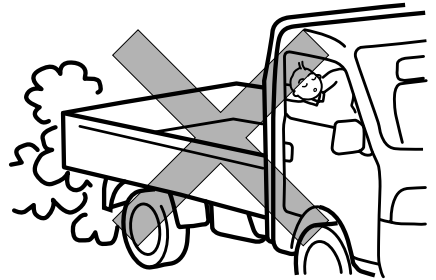
車を止める時には、次の点を守ってください。

- 走行したあとは排気管が高温になっているため、枯れ草など、燃えやすいものがそばにあると火災につながるおそれがあります。
- 壁やベニヤ板などが後方にある場合は、間隔を十分とってから停車してください。排気ガスにより変色、変形したり、そのまま放置しておくと火災につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

仮眠するときはエンジンを止める



エンジンをかけたまま仮眠しないでください。無意識にチェンジレバー/セレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気管が損傷していたり、換気の悪い場所では、知らない間に排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

→32ページ「一酸化炭素中毒に気をつける」

長時間停車するときは空調を外気導入にする

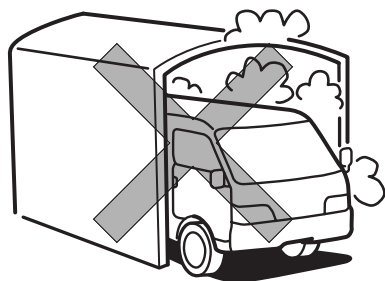
エンジンをかけたまま長時間停車するときは、空調を手動で外気導入にしてください。空調を内気循環にすると、車内の圧力が下がり排気ガスが入り易くなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

→32ページ「一酸化炭素中毒に気をつける」

→118ページ「エアコンを上手に使用していただくために」

駐停車するとき

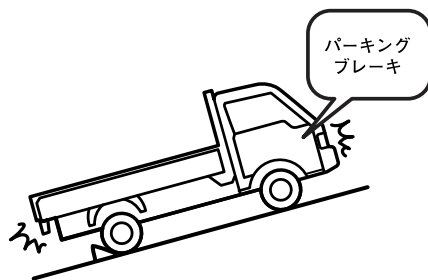
換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない



換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。ガレージの中や積雪した場所、その他周囲が囲まれた換気の悪い場所では、排気ガスが行き場を失い車内へはいりやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

→32ページ「一酸化炭素中毒に気をつける」

坂道駐車はパーキングブレーキをしっかりかける



坂道での駐車は、パーキングブレーキをしっかりかけ、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいらしてください。

また、4WD車は4WDセレクトレバーを2H、4H、4Lのいずれかにいらしてください。

→109ページ「4WDセレクトレバー」

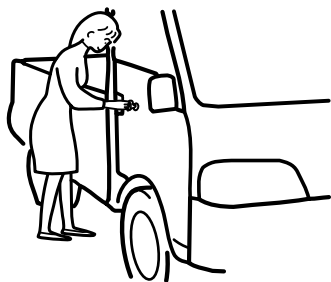
4WDセレクトレバーをNにしたまま駐車しないでください。Nにするとチェンジレバーを1またはRにしても歯止めの役目をしないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車の移動はエンジンをかける

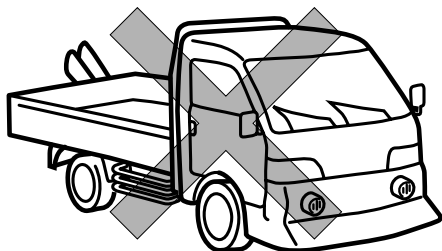
車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときは必ず パーキングブレーキを かけ、施錠する



車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

違法改造はしない



車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分でエンジン調整や配線などをしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品の装着をするときは、マツダ販売店にご相談ください。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

- ホイール、ホイールナットは純正品以外を装着しないでください。純正品以外のものを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、駆動系部品に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
- タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。また、駆動系部品に悪影響をあたえないために、次の点を守ってください。
 - ・ 前後輪とも指定されたサイズ、同一種類のものを使用してください。特にスノータイヤなどの冬用タイヤを装着するときは注意してください。
 - ・ タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
くわしくはマツダ販売店にご相談ください。
 - ・ 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後5～7年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する

タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、電子機器類に悪影響がでるおそれがありますので、マツダ販売店にご相談ください。

また、不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ると、ブレーキ (ABS)、エアバッグの誤作動、エンジン不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

SRSエアバッグシステムの注意

49ページの「SRSエアバッグシステム」をよくお読みください。

お車に乗る前に

SRSエアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

用品の交換、取り付けなどについて

- ハンドルを交換しないでください。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしないでください。万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリ用品、手荷物などの物を置いたりしないでください。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

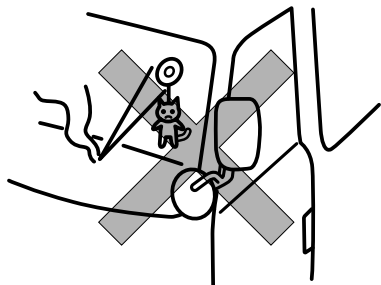
次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。これらの作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部の修理
- オーディオなど用品の取りはずし、取り付け

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを手勝手に取りはずしたり、位置を変えないでください。ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

アクセサリーを取り付けない



窓ガラスやその周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになったり、吸盤がレンズの働きをして、火災が起こるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

一酸化炭素中毒に気をつける

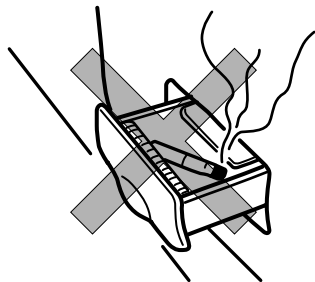
自動車から出る排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は、無色/無臭の有毒な気体です。体内に入ると、一酸化炭素中毒を起こします。

一酸化炭素中毒の初期症状は、目まい/吐き気/頭痛などの体調不良ですが、症状が進むと意識不明になって動けなくなります。また、症状によっては死亡に至ることがあります。

万一、排気管などに腐食や損傷があったり、排気音に異常を感じたときは、マツタ販売店で点検を受けてください。また、車内で排気ガスの臭いがしたときは、すべての窓を全開にするか、空調を手動で外気導入にして新鮮な外気をとり入れてください。

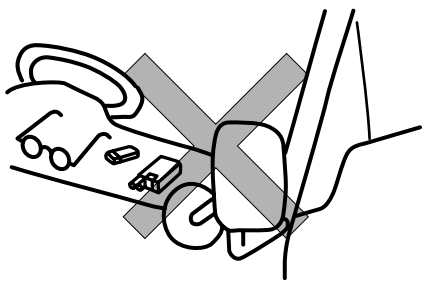
そのまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

タバコの吸いがらは火を消す



タバコ、マッチなどは完全に火を消してから灰皿に入れ、使用後は確実に閉めてください。開けたまま放置すると火災につながるおそれがあります。

ライターやメガネを車内に放置しない



炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

エンジンルーム内のファンやベルトに気をつける

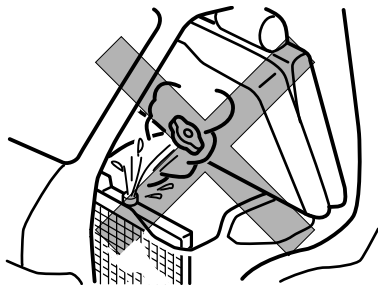


エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れないようにしてください。特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まってもファンが回転することがあるため、手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

エンジンルーム内に物を置き忘れない

- エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンカバーを開めるときは、シートベルトやフロアマットなどをはさまないように注意してください。

ラジエーターが熱いときはキャップをはずさない



エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けないでください。エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

バッテリーの取り扱いに気をつける

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

- バッテリーを取り扱うときは必ず保護メガネを着用してください。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

こんなことにも注意

- バッテリーを取り扱うときはバッテリー液をこぼさないでください。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。
- バッテリーの近くでお子さまを遊ばせないでください。
バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。
- バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけないでください。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、+ 端子や- 端子に工具などの金属部分が触れないようにしてください。また、ブースターケーブルの接続、取りはずしときは、+ 端子がボディーや- 端子に触れないように十分注意してください。
- 換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわないでください。
バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

発進時には安全を十分確認する

発進時は周囲の状況に十分注意してください。

- 信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

運転中は携帯電話を使用しない



運転しながらハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

2 安全装備

シート 36

正しい運転姿勢 36

シート 37

シートベルト 38

正しい着用のしかた 38

3点式シートベルト 41

お子さまの安全 45

お子さま専用シートについて 45

SRSエアバッグシステム 49

SRSエアバッグシステムについて 49

ABS 56

ABSについて 56

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節してください。



警告

■ シート各部の調節は、必ず走行前に行なってください。

走行中に行なうと、運転姿勢が不安定になったり、前方不注意になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 背もたれと背中の中にクッションなどを入れないでください。

正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 背もたれは必要以上に倒さないでください。

急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。



注意

シートを調整する際は、調整する人やまわりの人が手や足などをはさまれないように注意してください。

シート

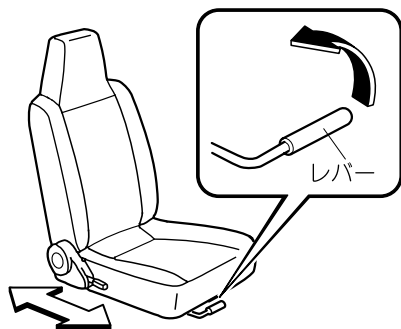


警告

■ 操作後は確実にロックされていることを確認してください。
走行中シートが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

前後調節 (スライディング)

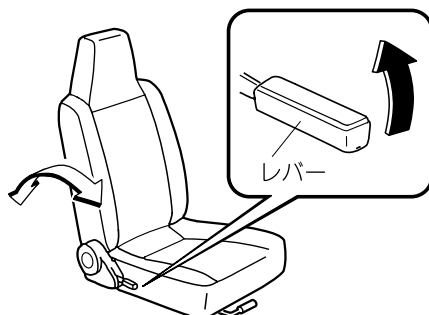
運転席のみ調節ができます。



調節後はシートを前後に軽くゆさぶって、確実にロックされていることを確認してください。

角度調節 (リクライニング)

運転席のみ角度調節ができます。



調節後は背もたれを前後に軽くゆさぶって、確実にロックされていることを確認してください。



注意

後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

正しい着用のしかた

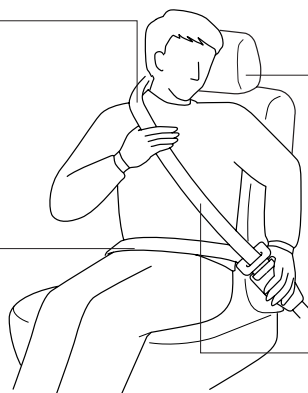
車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

ベルトが首、あご、顔などにあたらず、肩に十分かかるようにします。

上体を起こし、シートに深く腰かけます。

ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

ベルトにねじれがないか確認します。



警告

着用について

■シートベルトは全員が着用してください。

着用しないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。

お子さまを乗せる際は、必ずお子さま専用シートを使用してください。

■1つのシートベルトを同時に2人以上で使用しないでください。

2人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトの改造や交換をしないでください。また、クリップなどでシートベルトにたるみをつけないでください。

万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ベルトがねじれた状態で使用しないでください。

ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 3点式シートベルトを腕の下に通して着用しないでください。

ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、身体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 背もたれは必要以上に倒さないでください。

急ブレーキ時や衝突時に、身体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。

シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。

ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。



■ シートベルトのバックルの中に異物を入れないでください。

異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

■ お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。

お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。





警告

■シートベルトが首や顔などに当たったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。

ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

■シートベルトにほつれ、すりきずなどの異常があるときは、マツダ販売店で交換してください。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用してください。

有機溶剤を使用したり、染色、漂白するとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトを掃除するときは、絶対に分解しないでください。

分解すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

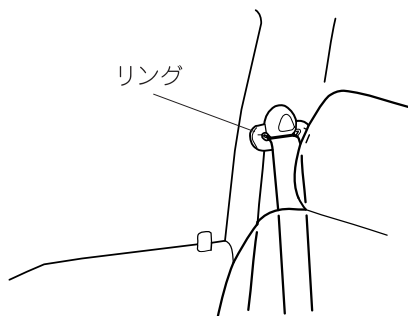
■事故などにあったときは、衝撃でシートベルト本来の機能が損なわれているおそれがありますので、必ずマツダ販売店で交換してください。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。



注意

シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。



3点式シートベルト

シートベルト警告灯



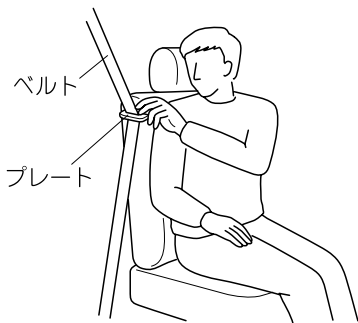
点灯するとき

電源ポジションがONのとき、運転席シートベルトを着用していないと点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

→38ページ「正しい着用のしかた」

着用するとき

- 1 プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。



- 2 ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。

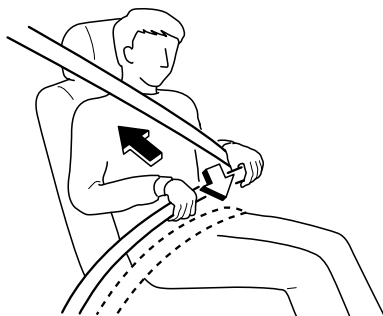
知識

ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

- 3 ベルトにねじれがないかを確認してから、プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。

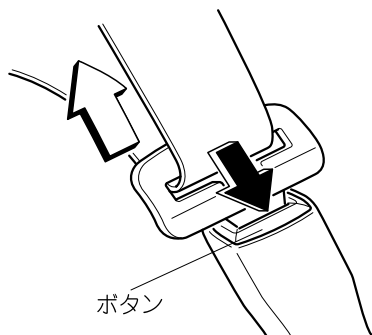


- 4 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみが無いようにベルトを引いて身体に密着させます。



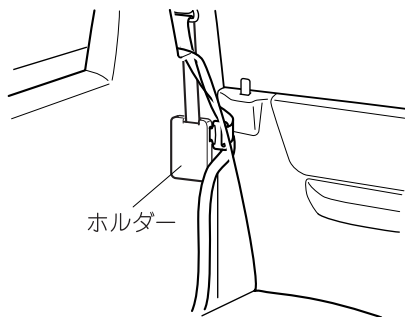
はずすとき

はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。



知識

助手席シートベルトを使用しないときは、プレートホルダーに固定することができます。



緊急時固定機構 (ELR) 付 シートベルト

3点式シートベルトにはELR (緊急時固定機構) が装備されています。

シートベルトは身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリテンショナー付シートベルト

シートベルトには、プリテンショナー機構が装備されています。

車両前方から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。



警告

■ シートベルトは正しく着用してください。

正しく着用していないと、プリテンショナー機構の効果が十分に発揮できないため、万一の場合重大な傷害につながるおそれがあります。

■ プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしないでください。

正常に作動しなくなったり誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ プリテンショナー機構が装備された車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。

プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

- プリテンショナー機構は、車両前方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。
- プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物(カス)が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- プリテンショナー機構は一度作動すると、2回目以降の衝突では作動しません。
- プリテンショナー付シートベルトは、一度作動すると再使用できません。事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。

エアバッグ警告灯/ プリテンショナー警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
 - ・ 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
 - ・ 点灯し続けるとき。

点滅するとき

点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。



警告

■ エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。
衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

ロードリミッター付シートベルト

ロードリミッターは、車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。

運転席/助手席シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。



警告

■シートベルトは正しく着用してください。

正しく着用していないと、ロードリミッターの効果が十分に発揮できないため、万一の場合重大な傷害につながるおそれがあります。



知識

ロードリミッター付シートベルトは、一度作動すると再使用できません。事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。

お子さま専用シートについて

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。

車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、またはISOFIX対応タイプの2種類があります。

シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、助手席のシートベルトを使用してシートに固定します。

この車両は、ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジが装備されていないため、ISOFIX対応タイプのチャイルドシートを取り付けることができません。

お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

警告

- お子さまの首や顔などにシートベルトがあたったり、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートをお使いください。

お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。

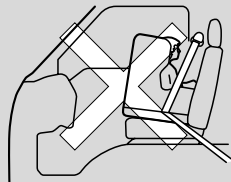
- お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従って、正しく取り付けてください。

正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

- 助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。

エアバッグの作動可能な助手席には、後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり、重傷を負う可能性があります。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。

助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。この警告ラベルは、助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないことを示しています。



警告ラベル



2.安全装備 お子さまの安全



知識

ISOはInternational Organization for Standardization (国際標準化機構) の略です。

お子さま専用シートの種類

UNECE 44 法規に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の5種類に分類されます。



知識

- UNECE はUnited Nations Economic Commission for Europe (国連欧州経済委員会) の略です。
- UNECE 44法規は、お子さま専用シートに関する国連法規です。

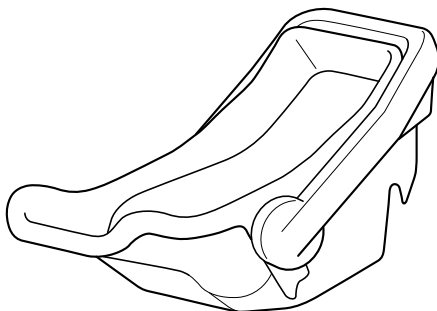
グループ	体重
0	10kgまで
0+	13kgまで
I	9～18kg
II	15～25kg
III	22～36kg

本書では、シートベルト固定タイプの一般的なお子さま専用シート3種類について説明します。

次のイラストは取り付け例です。取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

ベビーシート

UNECE 44法規のグループ0、0+ に相当



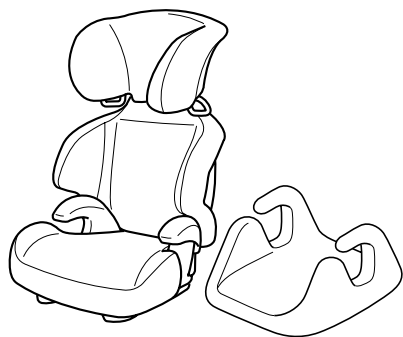
チャイルドシート

UNECE 44 法規のグループIに相当



ジュニアシート

UNECE 44 法規のグループII、IIIに相当



シート位置別お子さま専用シート選択の目安

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

**警告**

■ お子さま専用シートを取り付けるときは、必ず選択の目安表を確認してください。
誤った取り付けをすると正しく固定されず、急ブレーキや衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安 (ISOFIX対応タイプ)

ISOFIX対応タイプのチャイルドシートは使用できません。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安 (シートベルト固定タイプ)

質量グループ	着座位置 (または他の場所)
	助手席
0 (10kgまで)	X
0+ (13kgまで)	X
I (9～18kgまで)	L*1
II (15～25kgまで)	L*1
III (22～36kgまで)	L*1

上表の記号について：
L=この質量グループに対応しているお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
X=お子さま専用シートを取り付けることはできません。

*1 マツダ純正のお子さま専用シートを前向きに取り付けることができます。

SRSエアバッグシステムについて

SRSとはSupplemental Restraint System (サブルメンタルレストレイントシステム) の略で、補助乗員保護装置の意味です。

エアバッグは、電源ポジションがONのとき車両前方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。

SRSエアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

警告

お車に乗る前に

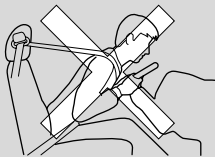
■ 運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

SRSエアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

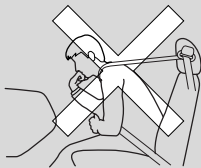
■ ハンドル中央部に手を置いたり、顔や身体を近づけたりしないでください。

エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



■ シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけないでください。

エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



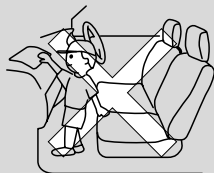


警告

お子さまを乗せるときは

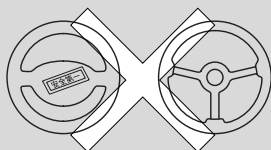
お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。

お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

こんなことにも注意

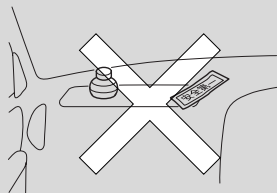
■ ハンドルを交換しないでください。

また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしないでください。万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



■ インstrumentパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリ用品、手荷物などの物を置いたりしないでください。

また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



■ 車両前部にグリルガードなどを装着しないでください。

SRSエアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

警告

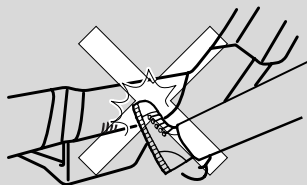
■サスペンションの改造をしないでください。

車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

■SRSエアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRSエアバッグシステムの回路診断をしないでください。

正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- インストルメントパネル中央部の足元にあるカバー内に、SRSエアバッグセンサーがあります。次の点を必ず守ってください。守らないとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ・ カバーを蹴ったり、強い衝撃をあたえないでください。
 - ・ 水などをかけないでください。
 - ・ カバーを取りはずさないでください。



メンテナンスについて

■事故後は必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

■次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店にご相談ください。

これらの作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部の修理
- オーディオなど用品の取りはずし、取り付け

■車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店にご相談ください。

不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。



注意

エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。

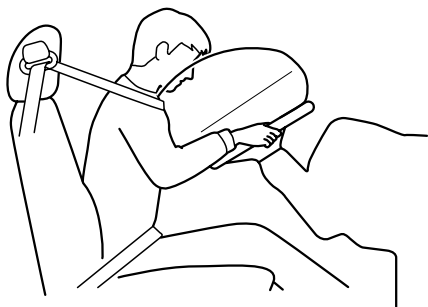


知識

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物(カス)が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツタ販売店で交換してください。
- 車をおゆずりになる場合は、必ず次のオーナーにSRSエアバッグシステム装備車であることをお伝えください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにガラスが破損することがあります。

運転席エアバッグ

運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。



助手席エアバッグ

助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。

助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。



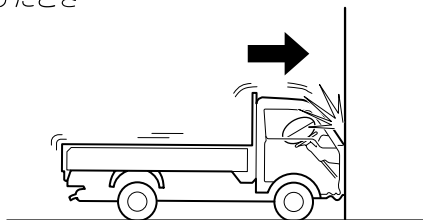
作動するとき、しないとき

運転席/助手席エアバッグは正面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。

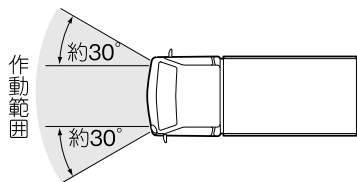
運転席/助手席エアバッグが作動するとき

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

約22km/h以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき

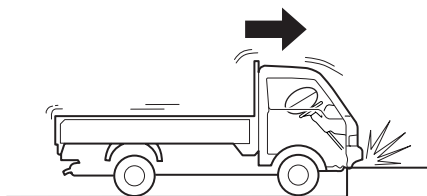


正面衝突など車両の前方左右約30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき

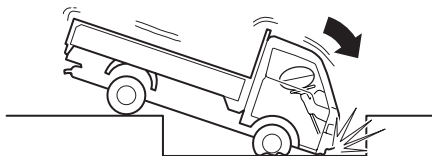


次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

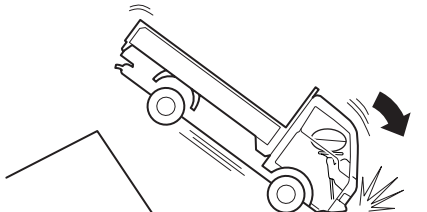
中央分離帯や縁石などに衝突したとき



深い穴や溝に落ちたとき



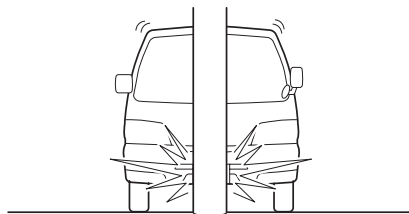
ジャンプなどで地面にぶつかったとき



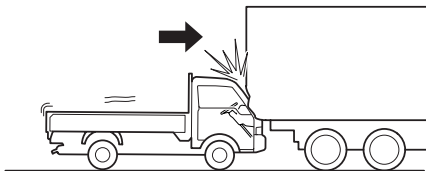
運転席/助手席エアバッグが作動しにくいとき

次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

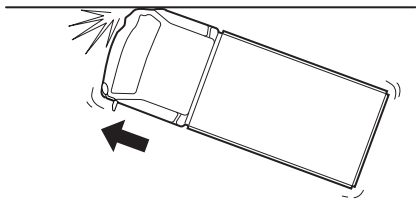
立木や電柱に衝突したとき



トラックの下などに潜り込んだとき



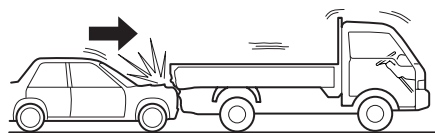
斜め前方に衝突したとき



運転席/助手席エアバッグが作動しないとき

次のようなときには作動しません。

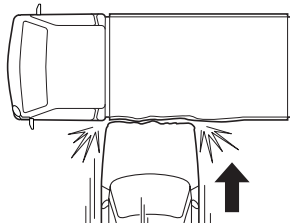
後ろ方向から衝突されたとき



横転や転覆したとき



横方向から衝突されたとき



エアバッグ警告灯/ プリテンショナー警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
 - ・ 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
 - ・ 点灯し続けるとき。

点滅するとき

点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。



警告

■ エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。
衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

EDR(イベントデータレコーダー)

本車両は、SRSエアバッグ制御のためのコンピュータを搭載しています。そのコンピュータは、SRSエアバッグシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、以下のデータを記録・蓄積するEDRを装備しています。

記録するデータ

EDRは下記のような情報を記録します。

- エアバッグ作動に関する情報(加速度波形等)
- エアバッグシステムの故障診断情報



知識

EDRは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

マツダおよびマツダが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。

なお、マツダおよびマツダが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

ABSについて

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。



警告

■ABSを過信せず安全運転に心がけてください。

ABSが作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABSが装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ジャリ道、新雪道を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。



注意

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABSが正常に作動しないことがあります。



知識

- ABSは低速(約10km/h以下)では作動しませんが通常のブレーキ性能は確保されています。
- エンジン始動時や発進直後にモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ABS装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはならないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。

万一の危険な状況では、次のようにしてください。

- 1 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
- 2 ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これはABSが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 3 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。

ABS警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- システムに異常があるときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。



知識

- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急制動時やすべりやすい路面での制動時には、車輪がロックすることがあります。
- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

MEMO

3 操作と取り扱い

各部の開閉 60

キー	60
キーレスエントリーシステム (リトラクタブルタイプキー)	61
ドア	63
パワードアロック	65
パワーウインドー	66
燃料補給口	67
エンジンカバー	70
サービスホールカバー	71
荷台	72

各部の調節 75

ドアミラー	75
フロントアンダーミラー	76
ルーフミラー	76

メーター、警告灯、表示灯の 見方 78

メーター	78
警告灯、表示灯	82
警報音	90

スイッチの使いかた 91

ランプスイッチ	91
方向指示器	93
ワイパー/ウォッシャースイッチ	94
ホーン	95
非常点滅灯スイッチ	96

運転装置の使いかた 97

電源ポジション (エンジンスイッチ) ...	97
エンジンの始動	98
エンジンの停止	99
ブレーキ	99
マニュアルトランスミッション	100
オートマチックトランス ミッション	101
オートマチック車を運転するとき	104
4WD	107

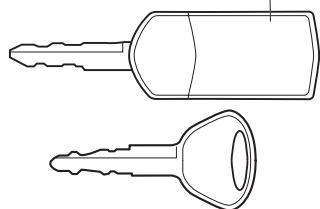
3.操作と取り扱い 各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動/停止のほか、ドア、フューエルキャップの施錠/解錠に使用します。

キーは2本あります。

リトラクタブルタイプキー



キーナンバープレート

キーナンバープレート

お客様以外のかたにキーナンバーを知られないために、キーナンバープレートにキーナンバーを打刻しています。



知識

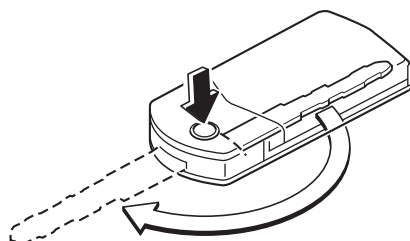
- キーナンバープレートは車両以外の安全な場所に、大切に保管しておいてください。
- 万一、キーを紛失したときは、マツタ販売店でキーナンバーをもとにキーを作ることができます。
- 車両をおゆずりになるときは、次にお使いになるかたのために、すべてのキーと一緒に、キーナンバープレートを車両につけてお渡してください。

リトラクタブルタイプキー

リトラクタブルタイプキーは、キーとリモートコントローラーが一体となっています。

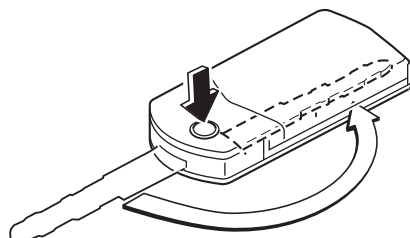
キーを使わないときは、キー部分を格納することができます。

取り出しかた



格納のしかた

- 1 ボタンを押してキーをまわします。
- 2 ボタンをはなした後、カチッと音がするまでキーを押し込みます。



キーレスエントリーシステム (リトラクタブルタイプ キー)

リモートコントローラーを使用すると、車室の周囲1m以内ですべてのドアの施錠/解錠ができます。

⚠ 注意

リモートコントローラーは次のようなことに注意してください。故障につながるおそれがあります。

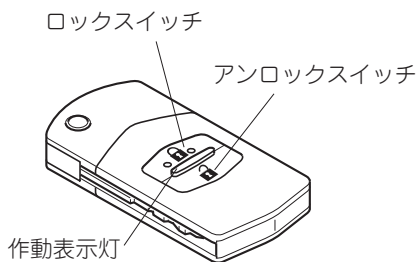
- 強い衝撃をあてたり、ぬらしたりしないでください。
- 分解しないでください。
- 直射日光が当たる所や、高温になる所に放置しないでください。

📖 知識

- リモートコントローラーを紛失された場合は、盗難、事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスエントリーシステムは作動しません。
- いずれかのフロントドアが開いているときは、ロックスイッチを押しても施錠しません。
- キーレスエントリーシステムの作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。
- 車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。
- 別売りのリモートコントローラーを購入される場合、お手持ちのコントローラーとあわせて、同じ車両で3個まで使用することができます。
マツダ販売店にご相談ください。

施錠/解錠

ロックスイッチを押すと施錠、アンロックスイッチを押すと解錠されます。スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。



3.操作と取り扱い 各部の開閉

知識

- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約30秒以内にいずれかのフロントドアを開けなかった場合、自動的に施錠されます。

電池の交換

リモートコントローラーのスイッチを押しても作動しないときや、作動範囲が狭く不安定になったとき、作動表示灯が点灯しなくなったときは、電池切れが考えられます。次の手順で電池を交換してください。

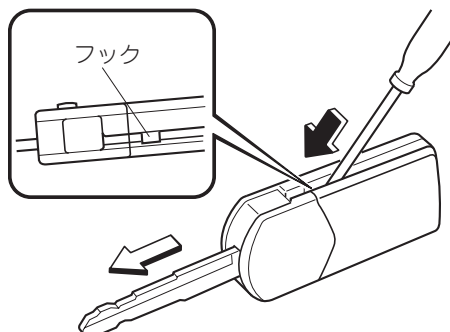
電池の規格: リチウム電池CR1620

注意

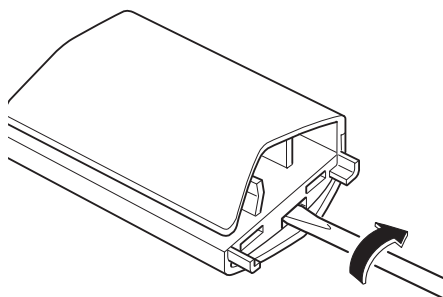
- 電池の+ 側と- 側は必ず正しく取り付けてください。液漏れなどにつながるおそれがあります。
- 電池を交換するときは内部回路や電極に触れたり、電極を曲げたりしないように注意してください。また、リモートコントローラーの内部にゴミなどを付着させないでください。故障につながるおそれがあります。
- 電池を交換してもキーレスエントリーシステムが作動しないときは、マツダ販売店にご相談ください。

- [1] キーを取り出します。
→60ページ「リトラクタブルタイプ
キー」

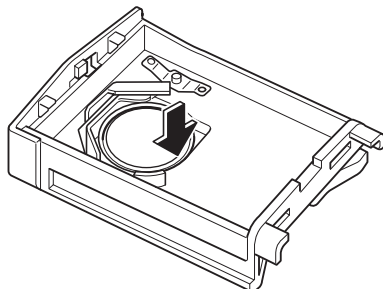
- [2] マイナスドライバーなどを使ってフックを押し、キー部分とリモートコントローラー部分を取りはずします。



- [3] マイナスドライバーなどを慎重に使用して、ゆっくりとカバーを開きます。



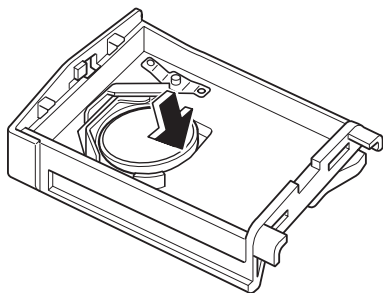
- [4] 電池の端を押して、電池を取り出します。



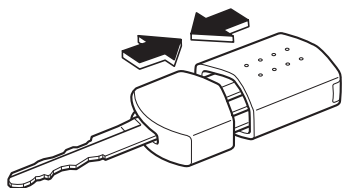
知識

指で押して取り出しにくい場合は、ドライバーなどで押すと取り出しやすくなります。

- 5 新しい電池の+ 側を下にして、電池を差し込み取り付けます。



- 6 カバーを閉めます。
- 7 リモートコントローラーとキーの向きを合わせ、カチッと音がするまで押し込みます。



注意

リモートコントローラーとキーはカチッと音がするまで確実に押し込んでください。取り付けが不完全な場合、外れるおそれがあります。

ドア

警告

- ドアを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認してください。

半ドアのまま走行すると、走行中に不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。

ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

ドアを開閉するときは、強風や傾斜地等周囲の状況を確認して開閉してください。指をはさんだり、ドアが通行人に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

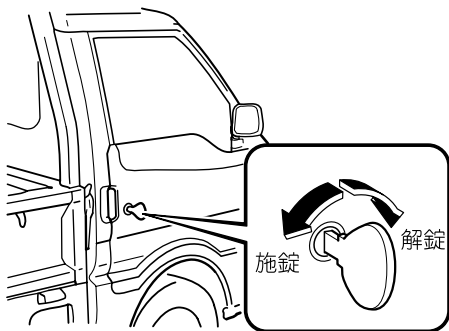
知識

車から離れるときは、必ずエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

3.操作と取り扱い 各部の開閉

キーによる施錠/解錠

キーを差し込み、まわします。



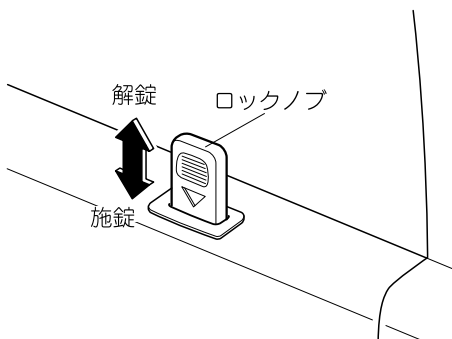
リモートコントローラーによる 施錠/解錠 (リトラクタブルタイプキー)

リモートコントローラーを操作すると、施錠/解錠できます。

→61ページ「キーレスエントリーシステム
(リトラクタブルタイプキー)」

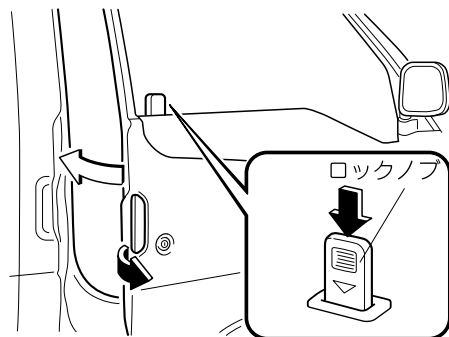
ロックノブによる施錠/解錠

ロックノブを操作します。



キーを使わない施錠

車内のロックノブを施錠側にし、車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めます。



知識

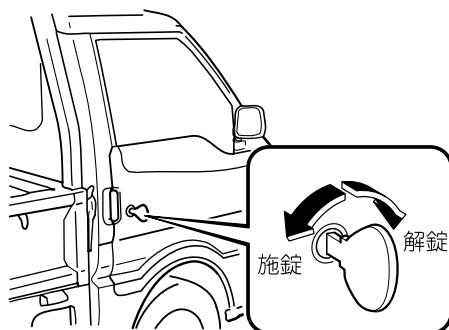
キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

パワードアロック

運転席ドアを施錠/解錠すると、助手席のドアの施錠/解錠ができます。

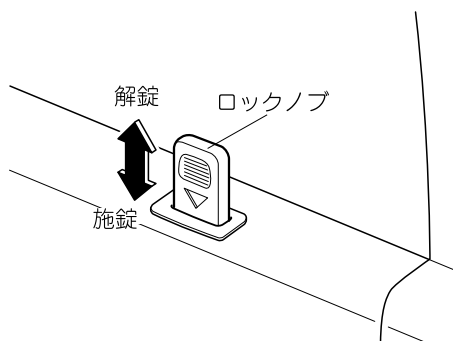
キーによる施錠/解錠

運転席ドアにキーを差し込み、まわします。



ロックノブによる施錠/解錠

運転席ドアのロックノブを操作します



リモートコントローラーによる施錠/解錠 (リトラクタブルタイプキー)

リモートコントローラーを操作すると、施錠/解錠できます。

→61ページ「キーレスエントリーシステム
(リトラクタブルタイプキー)」

3.操作と取り扱い 各部の開閉

パワーウィンドー

電源ポジションがONのとき、パワーウィンドースイッチを操作すると窓ガラスの開閉ができます。



警告

■窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意してください。

また、特にお子さまには十分気をつけてください。

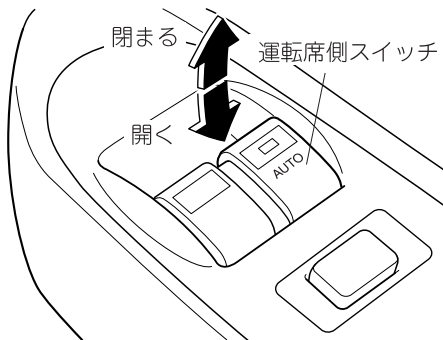
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

■お子さまにパワーウィンドースイッチの操作をさせないでください。

万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

運転席窓ガラスの開閉

スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。



自動開閉機構

スイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。

途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。

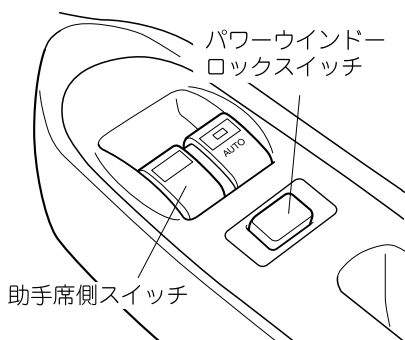
助手席窓ガラスの開閉

運転席ドアにあるパワーウィンドーロックスイッチをアンロックの位置にしていると開閉できます。

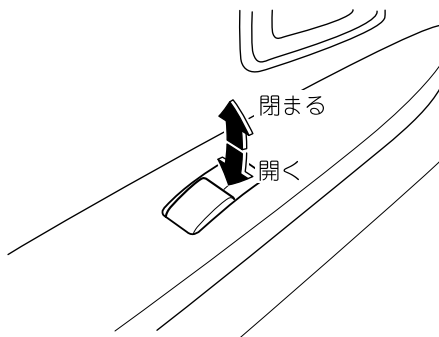


知識

運転席ドアにある助手席側スイッチからも操作できます。

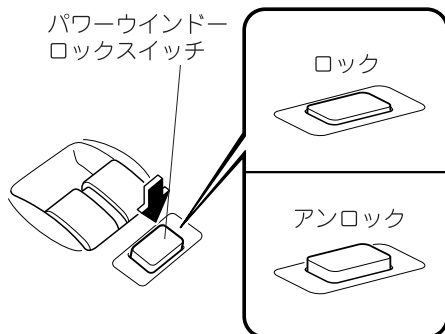


スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。



パワーウィンドーロックスイッチ

- ロックの位置のとき
運転席窓ガラスのみ開閉できます。
- アンロックの位置のとき
全ての窓ガラスの開閉ができます。



警告

- お子さまが同乗しているときは、パワーウィンドーロックスイッチをロックの位置にしておいてください。

お子さまが誤って操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

燃料補給口



警告

- 燃料補給時には必ずエンジンを止めてください。

火災につながるおそれがあります。

- 燃料を補給するときは、必ず次の点を守ってください。

身体に静電気を帯びたまま作業をすると、放電による火花で燃料に引火、爆発し重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 燃料補給作業は必ず一人でできない、補給口に他の人を近づけないでください。
- 静電気を除去するため、フューエルキャップを開ける前には、車体または給油機などの金属部分に触れてください。
- 再帯電を防ぐため、燃料を補給する人は給油中に車内のシートに座らないでください。

- 燃料補給口にはタバコなどの火気を近づけないでください。

火災につながるおそれがあります。

- 給油ノズルは確実に給油口へ差し込んでください。

給油ノズルが確実に差し込まれていないと、オートストップの作動が遅れ、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

- 給油ノズルのオートストップ作動後は、追加給油しないでください。

オートストップ作動後に追加給油すると、燃料があふれ出るおそれがあります。

3.操作と取り扱い 各部の開閉



警告

■ ドアや窓を必ず閉めて燃料を補給してください。

火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。

■ 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。

人体に有害な成分を含んでいる燃料があります。特にアレルギー体質の方は、注意してください。



注意

● 指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しないでください。

→248ページ「燃料」

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、高濃度アルコール含有燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。

- ・ エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。
- ・ エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。
- ・ ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。
- 燃料補給作業中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。
- 燃料を補給する際には、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



知識

バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。バイオ燃料混合ガソリンは、日本工業規格 (JIS) や「揮発油等の品質の確保に関する法律」が定めたガソリンの規格に合致しており、製品として使用に問題ないことが確認されています。バイオ燃料混合ガソリンの商品名としては「バイオ・ガソリン」、および「いい！スリー」の2つがあり、いずれの製品も使用できます (商品マーク参照)。



燃料補給口は車の運転席ドア後方にあります。

燃料計の指針が“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。

フューエルキャップの開閉

⚠ 警告

■ フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取りはずしてください。

急に開けると、燃料が噴き出すことがあるため火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。

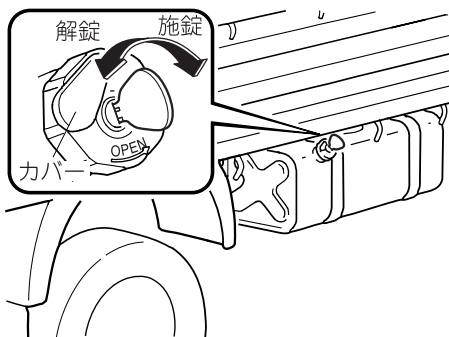
■ フューエルキャップは、確実に閉めてください。

キャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。

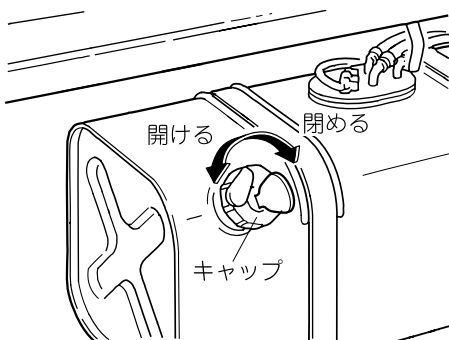
⚠ 注意

純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。

- ① カバーをスライドさせて、キーを差し込みまわします。



- ② キャップを左側にまわすと開き、右側にまわすと閉まります。



3.操作と取り扱い 各部の開閉

エンジンカバー

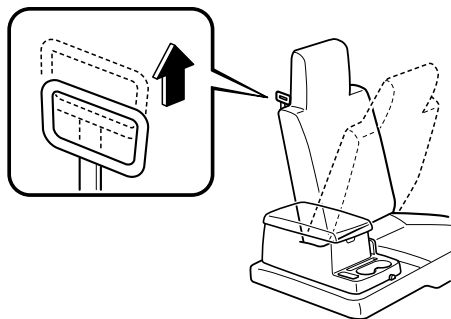
エンジンルームの点検や、エンジンの点検/整備を実施するときに開けてください。

⚠ 注意

エンジンカバーの開閉はシートを手で支えながら確実に行ってください。
確実に支えていないと、シートが倒れたときに手や指などをはさみ、けがをするおそれがあります。

開けるとき

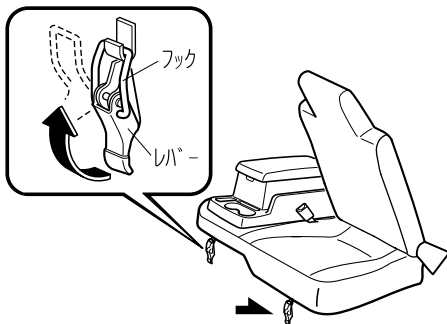
- 1 車を安全な場所に移動し、エンジンを止めます。
- 2 レバーを引いて助手席シートの背もたれを前に倒します。



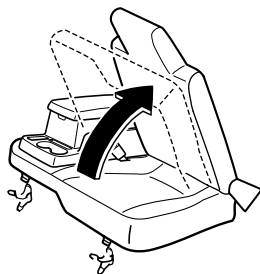
⚠ 注意

背もたれを前に倒すときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、背もたれが急に倒れけがをするおそれがあります。

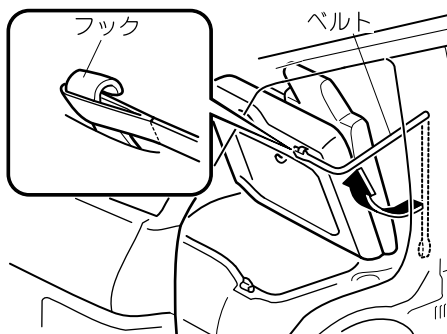
- 3 カバーをめくり、レバーを引き上げてフックをはずします。



- 4 シートクッションを持ち上げます。



- 5 助手席左側にあるベルトをシートクッションのフックにかけて、固定します。



閉めるとき

開けるときと逆の手順で行ないます。
もどした後は、シートクッションと背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

- エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンカバーを閉めるときは、シートベルトやフロアマットなどをはさまないように注意してください。

サービスホールカバー

エンジンルームの点検や、エンジンの点検/整備を実施するときに開けてください。

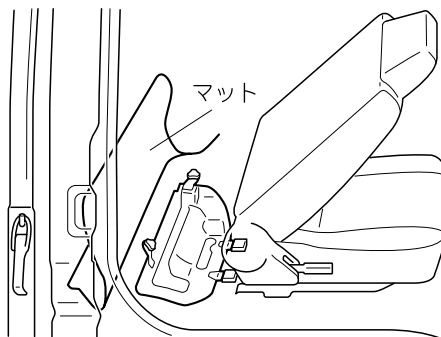
開けるとき

- 1 運転席シートをいちばん前にスライドさせます。
→37ページ「前後調節 (スライディング)」
- 2 運転席シートの背もたれを前に倒します。

⚠ 注意

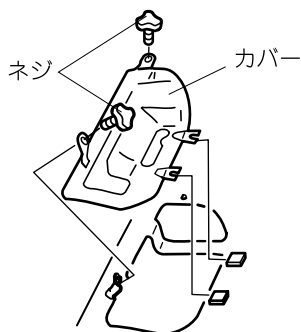
背もたれを前に倒すときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、背もたれが急に倒れ、けがをするおそれがあります。

- 3 マットをめくります。



3.操作と取り扱い 各部の開閉

- 4 ネジをゆるめて、カバーを取りはずします。



閉めるとき

開けるときと逆の手順で行ないます。
シートをもどした後は、シートと背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。
置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷台

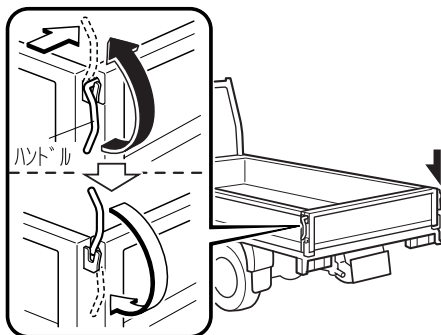
⚠ 注意

- ゲートの開閉操作は、ゲートを手で支えながら確実に行ってください。確実に手で支えていないと、ゲートやハンドルで手や指などをはさみ、けがをするおそれがあります。
- リヤゲートチェーンを使用してゲートを開いているときはリヤゲートの上に重い荷物を置かないでください。チェーンが切れるおそれがあります。

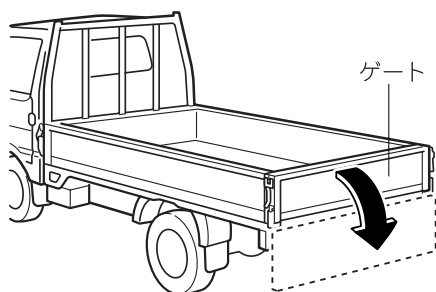
開けるとき

リヤゲート

- 1 左右のハンドルを上を持ち上げ、内側へ押し込んでから下げます。

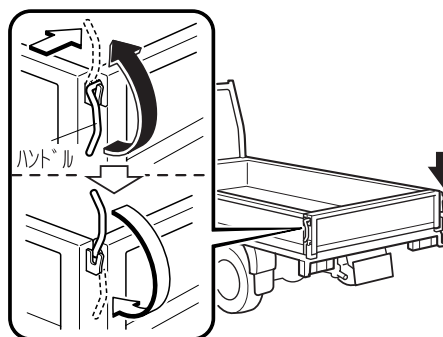


- [2] ゲートをゆっくりおろします。

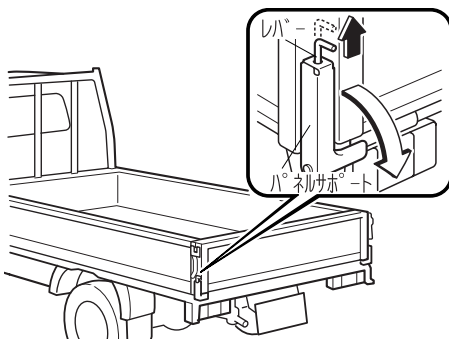


サイドゲート

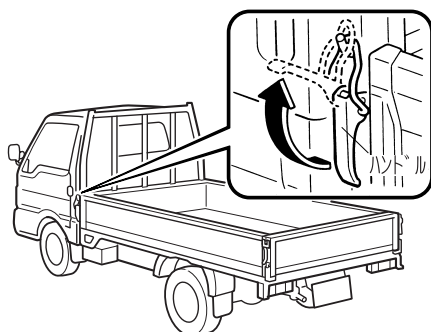
- [1] ハンドルを上を持ち上げ、内側へ押し込んでから下げます。



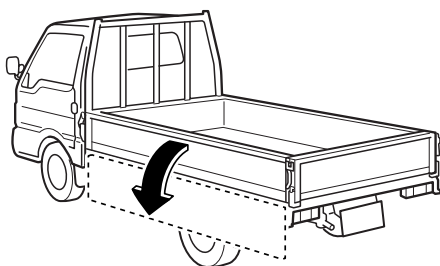
- [2] レバーを引き上げたままパネルサポートを下げます。



- [3] ハンドルを持ち上げ、ロックを解除します。



- [4] ゲートをゆっくりおろします。



閉めるとき

開けるときと逆の手順で行ないます。



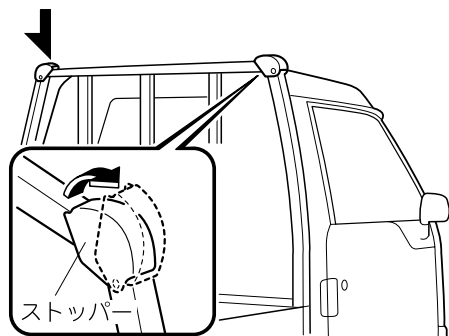
知識

ゲートを閉めるときは、チェーンがゲートの間にはさまっていないことを確認してから閉めてください。

3.操作と取り扱い 各部の開閉

ロードレストストッパー

ロードレスト（鳥居）に荷物を立てかけるとき、荷物がずれ落ちないようにします。使用するとき、ストッパーを引き上げます。走行する前に荷物をロープなどでしっかり固定してください。

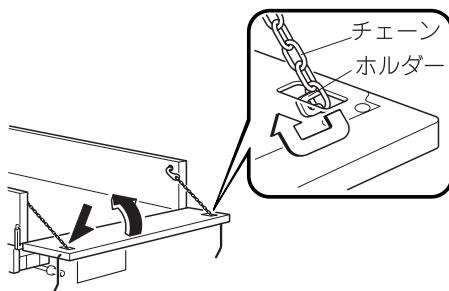


知識

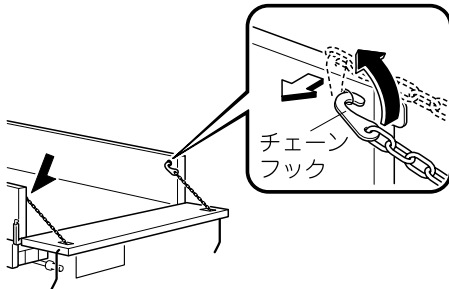
- 長尺物はなるべくボディー後端から出さずに、ウマを使って鳥居に立てかけてください。
- ウマは、キャビンのルーフと長尺物の間が十分とれる位置、高さに置いて使ってください。鳥居とボディー後端の2点支持はしないでください。

チェーンのはずしかた

- 1 リヤゲートを少し持ち上げて、チェーンをリヤゲート側のホルダーから取りはずします。



- 2 チェーンフックを上向きにひねり、先端をはずします。



ドアミラー



警告

■ 調節は走行前に行なってください。

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

ドアミラーに映る像の距離感覚は、実際より遠くに見えます。車線変更するときは、必ず肩越しに目視して後続車との距離を確認してください。

角度調節

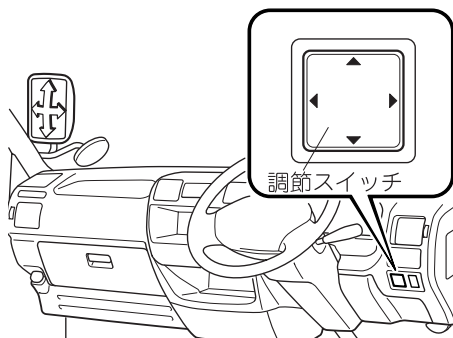
運転席側

ミラー本体を手で動かして、後方が十分確認できるように調節します。

助手席側

電源ポジションがACCまたはONのとき調節ができます。

調節スイッチを押して、後方が十分確認できるように調節します。



格納するとき

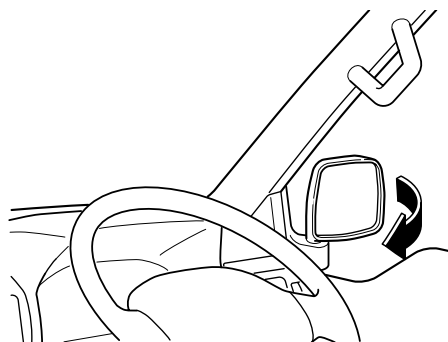


注意

ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができなくなります。

運転席側

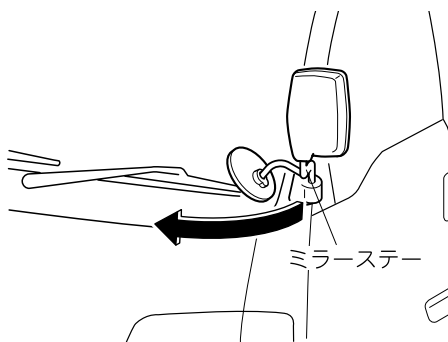
ミラー本体を手で倒して格納します。



走行前には、ミラー本体を手で持ち、もとの位置にもどします。

助手席側

ミラーステーを手で持ち、ロックするところまでミラーをまわして格納します。

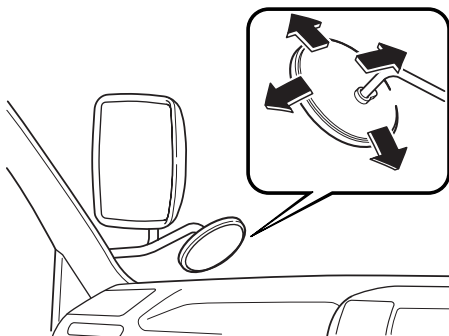


走行前には、ミラーステーを手で持ち、ロックするところまでまわします。

3.操作と取り扱い 各部の調節

フロントアンダーミラー

フロント下部付近を確認できます。
ミラー本体を手で動かして調節します。



ルームミラー



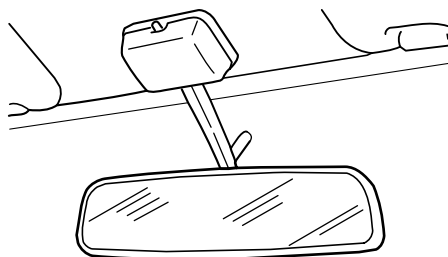
警告

■ 調節は走行前に行なってください。

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ミラー本体を動かして、後方が十分確認できるように角度を調節します。

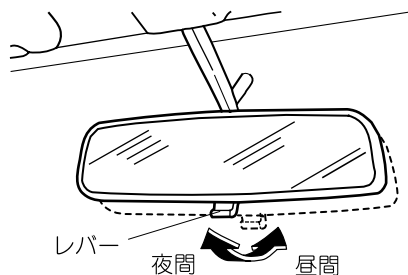
Aタイプ



Bタイプ

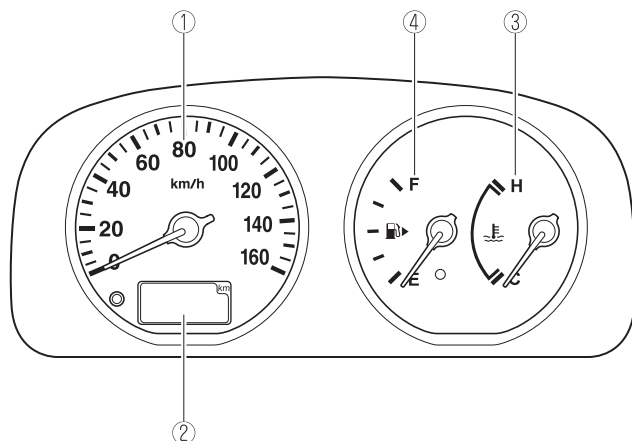
通常は、レバーを前方に押した状態にします。

夜間など、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを後方に引いて調節します。



メーター

メーターはグレードや仕様により異なります。

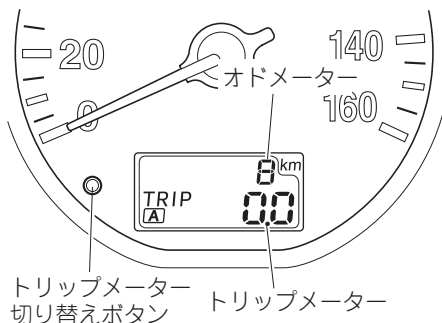


① スピードメーター	79ページ
② オドメーター/トリップメーター	79ページ
③ 水温計	79ページ
④ 燃料計	80ページ

スピードメーター

走行速度をkm/hで示します。

オドメーター/トリップメーター



オドメーター

走行した総距離をkm単位で示します。

トリップメーター

一定区間の走行距離をkm単位で示します。
(右側の数字は100m単位です。)

2種類 (TRIP A, TRIP B) の区間距離を計測することができます。たとえば、TRIP A モードで給油してからの距離を測りながら、TRIP B モードで出発してからの距離を測ることができます。

オドメーター/トリップメーターが表示されているとき、トリップメーター切り替えボタンを押すごとに、TRIP A, TRIP B が切り替わります。

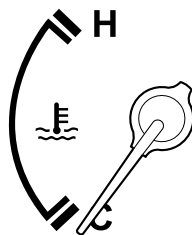
トリップメーターを“0.0”にもどすときは、それぞれのモードのとき、トリップメーター切り替えボタンを1秒以上押します。

知識

- オドメーター/トリップメーターは、電源ポジションをACCまたはOFFにしている場合でも、次のようなときは表示されます。
 - 電源ポジションをONからACCまたはOFFにした後の約10分間。
 - ドアを閉めた状態から開けた状態にした後の約10分間。
- 次のようなときは、トリップメーターの表示が“0.0”にもどります。
 - 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたとき。
 - 走行距離が999.9kmを超えたとき。

水温計

電源ポジションがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

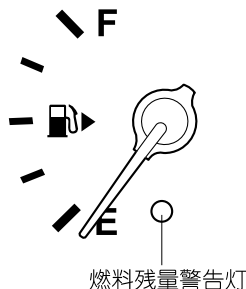


注意

指針が“H”付近を示したときはオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。そのまま走行を続けると、エンジンの故障につながるおそれがあります。
→199ページ「オーバーヒートについて」

燃料計

燃料の残量を示します。



指針が“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。

→67ページ「燃料補給口」



知識

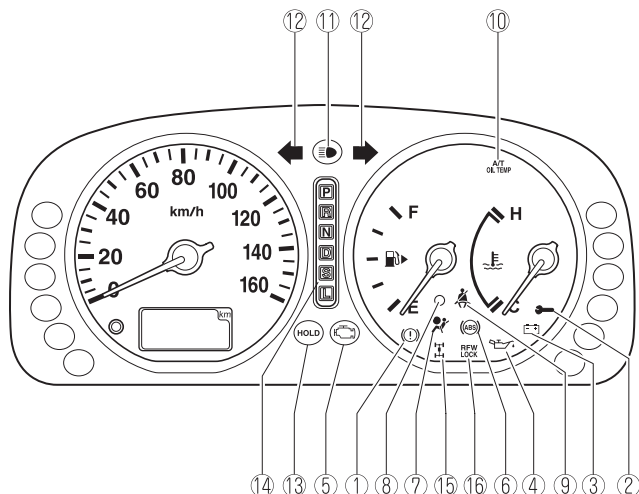
- 燃料補給後は、指針が安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- 燃料残量警告灯横の矢印 (🛢️➡️) は燃料補給口が運転席側にあることを示します。
- 燃料タンク内の燃料残量が9L前後になった時に点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動する為、警告灯の点灯タイミングが変わる場合があります。



メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯、表示灯

メーターはグレードや仕様により異なります。



- ① ブレーキ警告灯 83ページ
- ② 故障警告表示灯 83ページ
- ③ 充電警告灯 84ページ
- ④ 油圧警告灯 84ページ
- ⑤ エンジン警告灯 85ページ
- ⑥ ABS警告灯 85ページ
- ⑦ エアバッグ警告灯/
プリテンショナー
警告灯 86ページ
- ⑧ 燃料残量警告灯 86ページ
- ⑨ シートベルト警告灯 87ページ
- ⑩ AT油温警告灯
(オートマチック車) 87ページ
- ⑪ ヘッドランプ上向き
表示灯 87ページ

- ⑫ 方向指示/
非常点滅表示灯 87ページ
- ⑬ ホールドモード表示灯
(オートマチック車) 88ページ
- ⑭ セレクトレバー位置表示灯
(オートマチック車) 88ページ
- ⑮ 4WD表示灯 (4WD車) 88ページ
- ⑯ R.F.W.ロック表示灯
(4WD車) 89ページ

ブレーキ警告灯

電源ポジションがONにあり、次のようなとき点灯します。

- パーキングブレーキをかけているとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。



処置方法

パーキングブレーキを解除してください。解除しても点灯したままのときは、ブレーキ液の不足が考えられます。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。



警告

■ ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しないでください。

ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効が悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。

故障警告表示灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- ブレーキスイッチに異常があると点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。



警告

■ 故障警告表示灯が点灯したまま走行しないでください。

ブレーキランプスイッチやエンジン制御システムなどが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

メーター、警告灯、表示灯の見方

充電警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
- エンジン回転中、充電装置に異常があると点灯します。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。



警告

■ 充電警告灯が点灯したまま走行しないでください。

エンジンが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。

油圧警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

- エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止め、エンジンオイルの量を点検してください。エンジンオイルの量が不足しているときは補充してください。

エンジンオイルの量が不足していないのに点灯するときや、補充しても点灯し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。



注意

油圧警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



知識

エンジンオイルの点検、補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エンジン警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
- エンジン制御システムに異常があると点灯し続けます。高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受けてください。



知識

点検を受けるときは、エンジン警告灯が点灯したときの走行状態をマツダ販売店にご連絡ください。

ABS警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- システムに異常があるときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。



知識

- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急制動時やすべりやすい路面での制動時には、車輪がロックすることがあります。
- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

メーター、警告灯、表示灯の見方

エアバッグ警告灯/ プリテンショナー警告灯



点灯するとき

- 電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
 - ・ 電源ポジションをONにしても点灯しないとき。
 - ・ 点灯し続けるとき。

点滅するとき

点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。



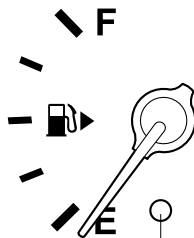
警告

- エアバッグ警告灯/プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しないでください。

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

燃料残量警告灯

電源ポジションがONのとき、燃料が少なくなると点灯します。



燃料残量警告灯



知識

- 燃料タンク内の燃料残量が9L前後になった時に点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動する為、警告灯の点灯タイミングが変わる場合があります。

処置方法

燃料を補給してください。
→67ページ「燃料補給口」

シートベルト警告灯



点灯するとき

電源ポジションがONのとき、運転席シートベルトを着用していないと点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

→38ページ「正しい着用のしかた」

AT油温警告灯 (オートマチック車)

電源ポジションをONにすると点灯し、しばらくすると消灯します。

オートマチックトランスミッションフルード (ATF) の温度が異常に高くなると点灯します。

A/T
OIL TEMP

処置方法

ただちに安全な場所に停車し、消灯するまでアイドリング運転をしてください。消灯しないときはマツダ販売店に連絡してください。

ヘッドランプ上向き表示灯



点灯するとき

ヘッドランプを上向き (ハイビーム) にすると点灯します。下向き (ロービーム) にすると消灯します。

方向指示/非常点滅表示灯



点滅するとき

方向指示器/非常点滅灯スイッチを操作すると点滅します。

点滅が異常に速くなったとき

点滅が異常に速くなったときは電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

ホールドモード表示灯 (オートマチック車)

ホールドスイッチを押してホールドモードにすると点灯します。

→103ページ「ホールドモード」

HOLD

ホールドモード表示灯が点滅したときは、システムの異常が考えられます。マツタ販売店で点検を受けてください。

セレクトレバー位置表示灯 (オートマチック車)

電源ポジションがONのとき、使用中のセレクトレバーのセット位置を示します。



4WD表示灯 (4WD車)

4WDセレクトレバーが4Hまたは4Lのときに点灯します。



知識

- 4WD車には、駆動状態を検出する機能があり、4WD表示灯で駆動状態を確認することができます。4WDセレクトレバーを操作して、駆動状態を切り替えたときに、4WD表示灯が点滅(1.0秒間隔)をすることがあります。これは駆動装置が駆動状態を切り替え中であることを示しているため故障ではありません。
- 4輪駆動から後輪駆動に切り替え操作をしても、4WD表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認後、直進状態で加減速またはシフトチェンジをして後輪駆動に切り替えて下さい。それでも切り替わらないときは周囲の安全を確認後、後退をして後輪駆動に切り替えてください。積載状態やタイヤの摩耗状態によっては、切り替わりにくい場合があります。

R.F.W.ロック表示灯 (4WD車)

R.F.W. (リモートフリーホイール) システムにより前輪と前輪駆動装置が接続されているときに点灯します。

- 4WDセレクトレバーを4Hまたは4Lにいれると、前輪と前輪駆動装置が自動的に接続され、R.F.W.ロック表示灯が点灯します。電源ポジションがONのときは、4WDセレクトレバーを4Hまたは4Lから2HにいてもR.F.W.ロック表示灯は点灯 (前輪と前輪駆動装置は接続) したままです。
- 2HでR.F.W.ロック表示灯を消灯させる (前輪と前輪駆動装置を切り離す) ときは、安全な場所に停車し、一度電源ポジションをACCまたはOFFにしてください。

R.F.W. LOCK

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 4WDセレクトレバーを4Hまたは4Lにしても表示灯が点灯しないとき。
- 走行中に点滅したとき。
なお、4輪駆動にした直後、表示灯が点滅しても、しばらくして点灯に切り替われば正常です。

フロントディファレンシャル 油温警告 (4WD車)

フロントディファレンシャルオイルの温度が異常に高くなると4WD表示灯とR.F.W.ロック表示灯が同時に点滅 (0.3秒間隔) し続けます。



R.F.W. LOCK

処置方法

ただちに安全な場所に停車して表示灯が消灯するまで待機してください。

表示灯が頻繁に点滅するときは、マツダ販売店で点検を受けてください。



警告

- 表示灯が点滅したまま4輪駆動で走行しないでください。

フロントディファレンシャルオイルの温度が上昇するなどして、オイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。

警報音

ブレーキパッド摩耗警報

走行中にブレーキペダルを踏んだとき、警報(キーキーという金属音)が発生し、ブレーキパッドが残り少ないことを運転者に知らせます。

ブレーキパッドが少なくなるとブレーキの効きが悪くなり危険です。警報が発生したときは、ただちにマツタ販売店で点検を受けてください。

キー抜き忘れ防止チャイム

キーを差し込んだまま、電源ポジションをOFFまたはACCにして運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

ランプ消し忘れ防止チャイム

ランプを点灯させたまま、エンジンスイッチからキーを抜いて運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りランプの消し忘れを知らせます。

リバースポジションチャイム (オートマチック車)

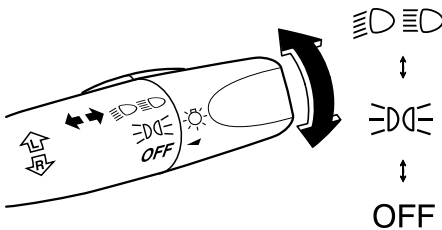
電源ポジションがONのとき、セレクトレバーをRにいれるとチャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいていることを運転者に知らせます。

車外の人には聞こえないので注意してください。

ランプスイッチ

ランプの点灯/消灯

電源ポジションに関係なく使用できます。
ランプスイッチをまわすと、各ランプが点
灯/消灯します。



スイッチ位置	OFF	⏏	⏏
ヘッドランプ	消灯	消灯	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯	点灯

知識

- エンジンを停止しているときに、ラン
プを点灯させたままにしないでくださ
い。バッテリーがあがるおそれがあり
ます。
- 対向車がまぶしくないヘッドランプを
採用しています。そのため、海外のよ
うな一時的な右側通行で使用するとき
でも、ヘッドランプの光軸を調整する
必要はありません。
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、
雨天走行や洗車などの使用条件により
レンズ内面が一時的に曇ることがあり
ます。これはランプ内部と外気の温度
差によるもので、雨天時などに窓ガラ
スが曇るのと同様の現象であり、機能
上の問題ははありません。ただし、レン
ズ内面に大粒の水滴がついているとき
やランプ内に水がたまっているとき
は、マツタ販売店にご相談ください。

ヘッドランプレベリングスイッチ

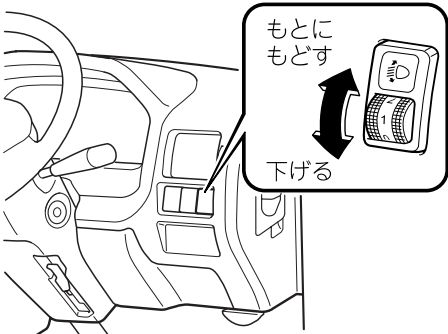
ヘッドランプが点灯しているとき、ヘッドラ
ンプの照らす方向を下向きに調節するこ
とができます。

荷物が多いときなど、ヘッドランプが通常
よりも上向きを照らしているときは、ス
イッチをまわしてヘッドランプの照らす
方向を下向きにしてください。

3.操作と取り扱い

スイッチの使いかた

スイッチを下方へまわすと、ヘッドランプの照らす方向が下向きに変わります。スイッチの数字が大きいくほど下向きになります。



スイッチ位置の目安

乗員や荷物の積載状況	スイッチ位置
運転席のみ乗車時	0
運転席のみ乗車で荷物満載時	1

知識

- 荷物を降ろした後は、スイッチの位置を必ず **0** にもどしてください。
- 通常はスイッチの位置を **0** にして使用してください。
- 車検などで光軸調整をするときは、スイッチの位置を **0** にしてから行なってください。

ランプ消し忘れ防止チャイム

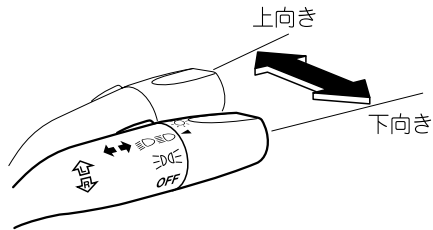
ランプを点灯させたまま、エンジンスイッチからキーを抜いて運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りランプの消し忘れを知らせます。

ヘッドランプの切り替え

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。

前方に押しと上向き (ハイビーム)、手前に引くと下向き (ロービーム) になります。

上向き (ハイビーム) のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



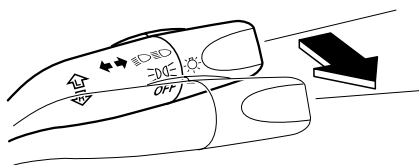
知識

- 遠くを照らしたいときに上向き (ハイビーム) にしてください。
- 対向車がいるときや、市街地走行などで上向きが不適切なときは下向き (ロービーム) にしてください。

パッシング合図

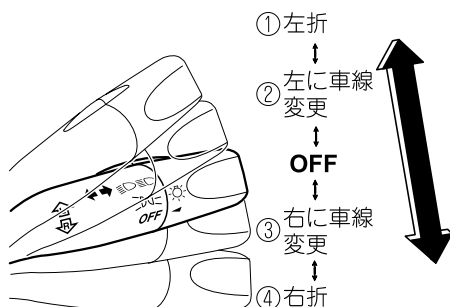
ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き (ハイビーム) で点灯します。

同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。



方向指示器

方向指示器の操作



電源ポジションがONのとき使用できます。レバーを操作すると、左または右のメーター内の方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

レバーはハンドルをもどすと、自動的にもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。



知識

- 点滅が異常に速くなった場合は、電球切れが考えられます。マツタ販売店で点検を受けてください。
- 方向指示器を操作するときは、非常点滅灯スイッチをOFFの位置にしてください。非常点滅灯が作動しているときは、方向指示灯は作動しません。

3.操作と取り扱い スイッチの使いかた

ワイパー/ ウォッシャースイッチ

電源ポジションがONのとき作動します。

警告

■寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスをあたためてから行なってください。

ウォッシャー液がガラス面で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

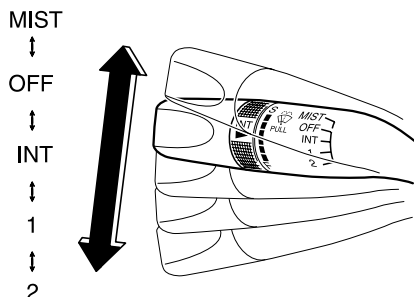
- 凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いたまま作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。
- ガラスがかわいているままでワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたりワイパーゴムを損傷するおそれがあります。ガラスがかわいているときは、ウォッシャー液を噴射してください。
- ウォッシャー液が十分にでないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ないままで、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

知識

- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、ノズルに異物がつまっていることがあります。針などでつまりを取ってください。
- 降雪時にワイパーを作動させていると、ガラスに雪が積もってワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチをOFFの位置にした後、積もった雪を取り除いてください。

ワイパー/ウォッシャー

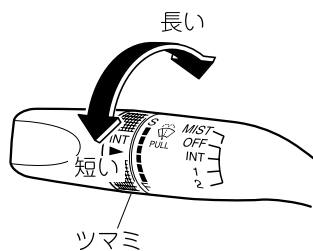
ワイパーの操作



レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上押ししている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
1	低速作動
2	高速作動

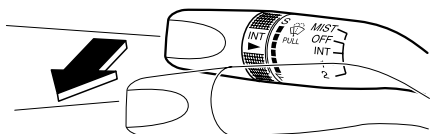
間欠作動時間の調節

間欠作動のとき、ツマミをまわすと、間欠作動時間が調節できます。



ウォッシャーの操作

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。



ホーン

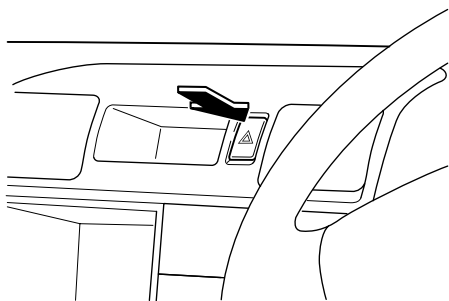
ハンドルの  マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

非常点滅灯スイッチ

故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅します。同時にメーター内にある非常点滅表示灯も点滅します。

もう一度押すと消灯します。

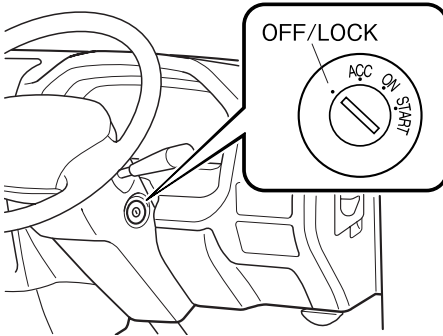


知識

方向指示器を操作するときは、非常点滅灯スイッチをOFFの位置にしてください。

電源ポジション (エンジンスイッチ)

各位置の働き



※印字 (刻印) は実際の車両と異なる場合があります。

電源 ポジション (エンジン スイッチ)	働き
OFF/LOCK	電源OFFの状態 キーを抜き差しできる位置
ACC	エンジン停止時に、オーディオ、シガーライターなどが使用できる位置
ON	エンジン回転中の位置
START	エンジンを始動する位置

知識

- エンジンを止めたままで、オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションをONまたはACCのまま放置しないでください。バッテリーがあがることがあります。
- ハンドルがロックされているときは、キー (エンジンスイッチ) をまわしにくいことがあります。ハンドルを左右に動かしながらキー (エンジンスイッチ) をまわしてください。
- オートマチック車はセレクトレバーの位置がP以外のときは、エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをACCからOFFにすることができません。

キー抜き忘れ防止チャイム

キーを差し込んだまま、電源ポジションをOFFまたはACCにして運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

エンジンの始動

エンジンをかける前に

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
- 2 マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクタレバーがPの位置にあることを確認します。
- 3 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。
ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
→36ページ「正しい運転姿勢」

クラッチスタートシステム (マニュアル車)

クラッチスタートシステムは、ギヤが入っている状態でクラッチペダルを踏まずにスターターをまわしたとき、車が動き出すのを防止する装置です。

エンジンをかけるとき、クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとスターターがまわらないため、エンジンがかかりません。

知識

クラッチスタートシステム装備車は、ギヤを入れたまま電源ポジションをSTARTにし続けて車を緊急避難させることができません。

→187ページ「エンストで動けなくなったとき」

エンジンをかけるとき

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
- 2 マニュアル車は、クラッチペダルをいっばいに踏み込みます。

知識

クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとエンジンがかからないようになっていきます。

→98ページ「クラッチスタートシステム
(マニュアル車)」

- 3 アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをまわして、電源ポジションをSTARTにし、エンジンをかけます。

注意

連続して10秒以上エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをSTARTにしないでください。スターターの故障やバッテリーあがりの原因になります。エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをまわして、電源ポジションをOFFにもどし、10秒以上待ってからエンジンをかけなおしてください。

- 4 エンジンがかかったら暖機を行ないます。暖機運転中はエンジン回転数が高くなりますが、暖機が終わると自動的に下がります。

知識

暖機運転は水温計の針が動き出す程度で十分です。長時間の暖機運転は燃料のムダ使いになります。

エンジンの停止

- 1 マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーをPの位置にします。
- 2 電源ポジションをOFFにします。



注意

車から離れるときは、電源ポジションがOFFになっていることを確認してください。

ブレーキ

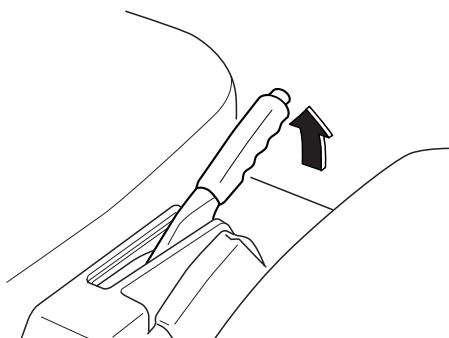
パーキングブレーキ



警告

■ パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱するためブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

かけるとき



解除するとき

レバーを少し引き上げ、先端のボタンを押してもどします。



3.操作と取り扱い

運転装置の使いかた

ブレーキ警告灯

電源ポジションがONにあり、次のようなとき点灯します。

- パーキングブレーキをかけているとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。



処置方法

パーキングブレーキを解除してください。解除しても点灯したままのときは、ブレーキ液の不足が考えられます。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。



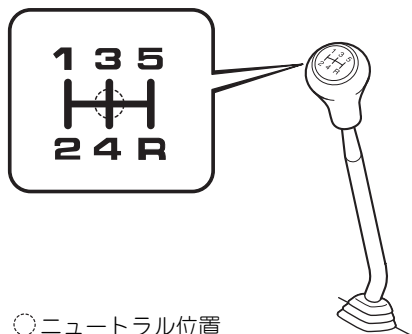
警告

■ ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しないでください。

ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。

マニュアルトランスミッション

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んでください。



○ニュートラル位置

Rにいれるときは、チェンジレバーをニュートラル位置にして、R方向へ操作してください。



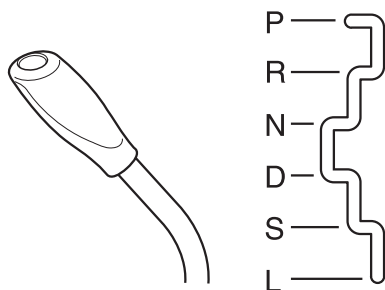
注意

- Rにいれるときは、車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。
- 5速から4速に変速するときは、チェンジレバーを横方向に押し過ぎないでください。思いがけず2速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。

オートマチックトランス ミッション

104ページの「オートマチック車を運転するとき」もあわせてお読みください。

各位置の働き



P (パーキング)

駐車およびエンジンを始動する位置。

Pでのみエンジンスイッチからキーを抜くことができます。

R (リバース)

車を後退させる位置。

チャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいていることを運転者に知らせます。

N (ニュートラル)

動力が伝わらない位置。

エンジンを始動することはできますが、安全のためPの位置で行なってください。

D (ドライブ)

通常走行する位置。

車速に応じて1速から5速までを自動変速します。

S (スロープ)

下り坂などエンジンブレーキが必要なときに使用する位置。

車速に応じて1速から3速までを自動変速します。

L (ロー)

急な下り坂など強力なエンジンブレーキが必要なときに使用する位置。

車速に応じて1速と2速を自動変速します。

3.操作と取り扱い

運転装置の使いかた

シフトロック装置

シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです。

セレクトレバーをPから動かすとき

- 1 ブレーキペダルを踏み込んだままにします。
- 2 エンジンを始動させます。
- 3 セレクトレバーを動かします。

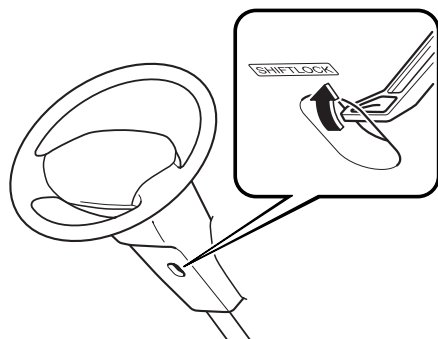


知識

- 電源ポジションがOFFまたはACCのときは、セレクトレバーをPから動かすことはできません。
- セレクトレバーがP以外の位置ではキーを抜くことができません。

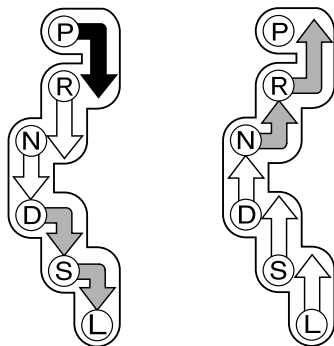
シフトロック装置の解除

万一セレクトレバーをPから操作できないときは、ブレーキペダルを踏み、シフトロック解除ノブを引き上げたままセレクトレバーを操作します。



セレクトレバーの操作

レバーを下げるとき レバーを上げるとき



レバー操作

	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを手前に引いて操作します。
	セレクトレバーをそのまま操作します。
	セレクトレバーを手前に引いて操作します。



警告

■ ➡ の操作はセレクトレバーを手前に引かずに行なってください。

いつもセレクトレバーを手前に引いて操作していると、意に反してP、R、S、Lにいれてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。



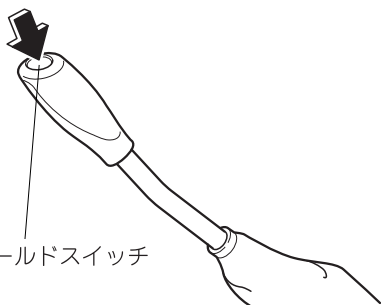
知識

セレクトレバーをPから操作するとき、セレクトレバーを手前に引いたままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

ホールドモード

ホールドスイッチ

ホールドスイッチを押すとホールドモードになります。
もう一度押すと解除されます。



ホールドスイッチ

ホールドモードにすると、セレクトレバーの位置にあわせて各ギヤに固定されます。

セレクトレバーの位置	ギヤの状態
D	3速に固定されます。低速では2速と3速を自動変速します。
S	2速に固定されます。
L	1速に固定されます。



知識

エンジンを停止するとホールドモードは解除されます。

ホールドモード表示灯

ホールドスイッチを押してホールドモードにすると点灯します。

HOLD

ホールドモード表示灯が点滅したときは、システムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

3.操作と取り扱い

運転装置の使いかた

ホールドモードの使いかた

使用場面	セレクトレバー位置と操作
● 雪道などすべりやすい路面を発進および走行するとき。 ● カーブの多い上り坂をなめらかに走行したいとき。 ● 高速道路でエンジンブレーキが必要なとき。	Dのままホールドスイッチを押します。
● 下り坂でエンジンブレーキが必要なとき。 ● カーブの多い急な上り坂をなめらかに走行したいとき。	Sにしてホールドスイッチを押します。
急な下り坂で強いエンジンブレーキが必要なとき。	Lにしてホールドスイッチを押します。

各セレクトレバー位置での限界速度

エンジンの過回転を防ぐために、ホールドモード使用時は、次の速度をこえないように運転してください。

セレクトレバーの位置	速度 (km/h)
S	56
L	26



知識

車速が各セレクトレバー位置での限界速度より高いときは、セレクトレバーをSまたはLに動かしてもシフトダウンしないことがあります。

オートマチック車を運転するとき

オートマチック車の特性

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、N以外にはっていると、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリープ現象といいます。

- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリープ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかりと踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、急加速させることができます。

この操作をキックダウンといいます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

発進するとき



警告

■ アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。

車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなり、クリーブ現象が強くなります。

- 1 プレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
前進 …D、S、L
後退 …R
- 2 セレクトレバーの位置を確認します。
- 3 パーキングブレーキを解除します。
- 4 プレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。



知識

- セレクトレバーをRにいとるとチャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいつていることを運転者に知らせます。
- 後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーをRにいたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーをNにもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

急な坂道での発進

パーキングブレーキをかけたまま、アクセルペダルをゆっくり踏み、車が動く感触を確認しながらパーキングブレーキをもどします。

走行するとき



警告

■ 走行中はセレクトレバーをNにしないください。

トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用（シフトダウン）は避けてください。

タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転装置の使いかた

通常走行

セレクトレバーをDに置いて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速/減速します。ギヤは1速から5速の間で、自動的に変速されます。

急加速

アクセルペダルをいっぱい踏み込みます。
キックダウンし、急加速できます。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じてセレクトレバーをSまたはLにいと、エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行



警告

■ 下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンブレーキが必要なときは、ホールドモードにしてください。さらに強力なエンジンブレーキが必要なときは、セレクトレバーをSまたはLに置いてください。
→103ページ「ホールドモード」

停車するとき

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
- 2 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 3 停車時間が長くなりそうときは、セレクトレバーをNまたはPにいます。



警告

■ 停車中、むやみにアクセルペダルを踏まないでください。

セレクトレバーがP、N以外にはいつているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認してください。

意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にいれ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

駐車するとき

- 1 車を完全に止めます。
- 2 セレクトレバーをPにいます。
- 3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
- 4 エンジンのを止めます。



警告

- 駐車するときは、セレクトレバーをPにいれ、パーキングブレーキをかけてください。

パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーをPにいただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

- エンジンをかけたまま駐車しないでください。

万一セレクトレバーがP以外にはいついた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

セレクトレバーをPにいれるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーをPにいれると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること



警告

- 坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進することは行わないで下さい。

エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

4WD★

4WDは、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面ですぐれた走行性を発揮します。

走行するときは

オフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。



注意

アクセル、クラッチ、ハンドル、ブレーキなどの急な操作は、駆動系部品の損傷やスタック(立ち往生)につながるおそれがあります。4WD車であっても、一般の車と同じく慎重に操作し、安全運転に心がけてください。



警告

- 4輪駆動での急旋回はしないでください。

前後輪の回転差のためにおきる4WD特有のブレーキング現象が発生し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 60km/h以上の高速走行および乾燥した舗装道路では、後輪駆動で走行してください。

4輪駆動で走行すると、駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイル漏れや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。

3.操作と取り扱い 運転装置の使いかた



知識

- 4WD車には、駆動状態を検出する機能があり、4WD表示灯で駆動状態を確認することができます。
4WDセレクトレバーを操作して、駆動状態を切り替えたときに、4WD表示灯が点滅(1.0秒間隔)をすることがあります。これは駆動装置が駆動状態を切り替え中であることを示しているため故障ではありません。
- 4輪駆動から後輪駆動に切り替え操作をしても、4WD表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認後、直進状態で加減速またはシフトチェンジをして後輪駆動に切り替えてください。それでも切り替わらないときは周囲の安全を確認後、後退をして後輪駆動に切り替えてください。積載状態やタイヤの摩耗状態によっては、切り替わりにくい場合があります。
- 前輪駆動装置の潤滑のため、月に1度は4輪駆動で走行してください。

雪やぬかるみ、脱輪などから脱出するとき

雪やぬかるみ、脱輪などにより車が立ち往生したときは、全てのタイヤの下に石や木をあてがい脱出するか、前進、後退を繰り返して慣性を利用して脱出してください。
数回行っても脱出できないときは操作を中止してください。

タイヤについて



警告

タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。また、駆動系部品に悪影響をあたえないために、次の点を守ってください。

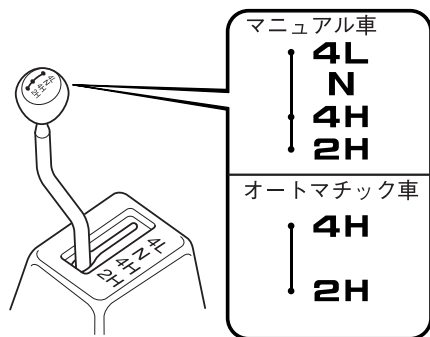
- タイヤを交換するときは前後輪を同時に交換してください。
- 前後輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。
特に、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤを装着するときは、スタッドレスタイヤとノーマルタイヤを混ぜて使用しないでください。
また、磨耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤを混ぜて使用すると、駆動系部品(ディファレンシャルギヤ等)に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどして、オイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。
- タイヤの空気圧は定期的に点検し、タイヤ間で空気圧の差が著しくならないように規定値に調節してください。適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
- タイヤの偏摩耗を防ぐため、定期的にタイヤローテーションを行ってください。
→235ページ「タイヤの位置交換(タイヤローテーション)」
- 前後輪とも必ず指定されたサイズの純正ホイールを装着してください。
- タイヤチェーンは後輪に取り付けてください。

4WDセレクトレバー

走行条件により駆動方法 (後輪駆動または4輪駆動) を選ぶときに使用します。

→114ページ「4WDセレクトレバーの各位置の働きと表示灯」

→112ページ「2WD/4WDの切り替えかた」



4WD表示灯

4WDセレクトレバーが4Hまたは4Lのときに点灯します。



知識

- 4WD車には、駆動状態を検出する機能があり、4WD表示灯で駆動状態を確認することができます。4WDセレクトレバーを操作して、駆動状態を切り替えたときに、4WD表示灯が点滅 (1.0秒間隔) をすることがあります。これは駆動装置が駆動状態を切り替え中であることを示しているため故障ではありません。
- 4輪駆動から後輪駆動に切り替え操作をしても、4WD表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認後、直進状態で加減速またはシフトチェンジをして後輪駆動に切り替えて下さい。それでも切り替わらないときは周囲の安全を確認後、後退をして後輪駆動に切り替えてください。積載状態やタイヤの摩耗状態によっては、切り替わりにくい場合があります。

運転装置の使いかた

R.F.W.ロック表示灯

R.F.W. (リモートフリーホイール) システムにより前輪と前輪駆動装置が接続されているときに点灯します。

- 4WDセレクトレバーを4Hまたは4Lにいれると、前輪と前輪駆動装置が自動的に接続され、R.F.W.ロック表示灯が点灯します。電源ポジションがONのときは、4WDセレクトレバーを4Hまたは4Lから2HにいてもR.F.W.ロック表示灯は点灯（前輪と前輪駆動装置は接続）したままです。
- 2HでR.F.W.ロック表示灯を消灯させる（前輪と前輪駆動装置を切り離す）ときは、安全な場所に停車し、一度電源ポジションをACCまたはOFFにしてください。

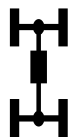
R.F.W. LOCK

次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 4WDセレクトレバーを4Hまたは4Lにしても表示灯が点灯しないとき。
- 走行中に点滅したとき。
なお、4輪駆動にした直後、表示灯が点滅しても、しばらくして点灯に切り替われば正常です。

フロントディファレンシャル 油温警告

フロントディファレンシャルオイルの温度が異常に高くなると4WD表示灯とR.F.W.ロック表示灯が同時に点滅（0.3秒間隔）し続けます。



R.F.W. LOCK

処置方法

ただちに安全な場所に停車して表示灯が消灯するまで待機してください。

表示灯が頻繁に点滅するときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

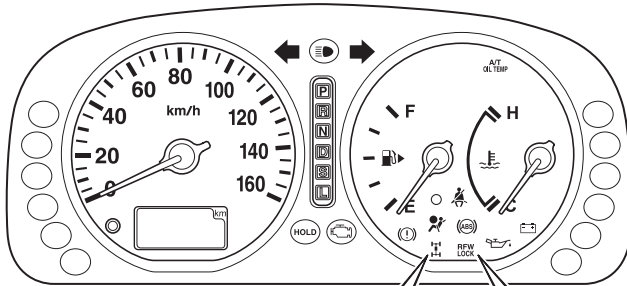


警告

- 表示灯が点滅したまま4輪駆動で走行しないでください。

フロントディファレンシャルオイルの温度が上昇するなどして、オイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。

表示灯の点滅の仕方



4WD表示灯 (緑)



R.F.W.ロック
表示灯 (緑)

**R.F.W.
LOCK**

R.F.W.ロック 表示灯 (緑)	4WD表示灯 (緑)	状態	処置
点滅 (0.3秒間隔)	点滅 (0.3秒間隔)	フロントディファレンシャルオイルの温度が異常に高くなっています。	ただちに安全な場所に停車して表示灯が消灯するまで待機してください。表示灯が頻繁に点滅するときは、マツダ販売店で点検を受けてください。
—	点滅 (1.0秒間隔)	4輪駆動から後輪駆動に切り替え中または切り替わっていません。 (4WDセレクトレバーがNの場合も点滅します。)	4輪駆動から後輪駆動に切り替え操作をしても、4WD表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認後、直進状態で加減速またはシフトチェンジをして後輪駆動に切り替えてください。それでも切り替わらないときは周囲の安全を確認後、後退をして後輪駆動に切り替えてください。積載状態やタイヤの摩耗状態によっては、切り替わりにくい場合があります。
点滅 (0.3秒間隔)	—	システムの異常が考えられます。	マツダ販売店で点検を受けてください。

運転装置の使いかた

2WD/4WDの切り替えかた



警告

■ 4WDセレクトレバーをNにしたまま駐車しないでください。

Nにするとチェンジレバーを1またはRにしても歯止めの役目をしないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

2H→ 4H (R.F.W.ロック表示灯が消灯しているとき)

- 1 停車します。
- 2 4WDセレクトレバーを2H→ 4Hにいます。



注意

操作は車が止まっているときに行なってください。走行中に操作すると4WD装置の故障につながるおそれがあります。

2H→ 4H (R.F.W.ロック表示灯が点灯しているとき)

走行中に4WDセレクトレバーを2H→ 4Hにいれることができます。

ハンドルが直進状態のときに行なってください。

4H⇄ 4L

- 1 停車します。
- 2 4WDセレクトレバーを4H⇄ 4Lに操作します。



注意

操作は車が止まっているときに行なってください。走行中に操作すると4WD装置の故障につながるおそれがあります。

4H→ 2H

走行中に4WDセレクトレバーを4H→ 2Hにいれることができます。

電源ポジションがONのときは、4輪駆動の状態から4WDセレクトレバーを2Hにいても、R.F.W.ロック表示灯は点灯（前輪と前輪駆動装置は接続）したままです。表示灯を消灯させる（前輪と前輪駆動装置を切り離す）ときは、安全な場所に停車し、一度電源ポジションをACCまたはOFFにしてください。



警告

■ 60km/h以上の高速走行および乾燥した舗装道路では、後輪駆動で走行してください。

4輪駆動で走行すると、駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイル漏れや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

- 4WD車には、駆動状態を検出する機能があり、4WD表示灯で駆動状態を確認することができます。

4WDセレクタレバーを操作して、駆動状態を切り替えたときに、4WD表示灯が点滅(1.0秒間隔)をすることがあります。これは駆動装置が駆動状態を切り替え中であることを示しているため故障ではありません。

- 4輪駆動から後輪駆動に切り替え操作をしても、4WD表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認後、直進状態で加減速またはシフトチェンジをして後輪駆動に切り替えてください。それでも切り替わらないときは周囲の安全を確認後、後退をして後輪駆動に切り替えてください。積載状態やタイヤの摩耗状態によっては、切り替わりにくい場合があります。
- 長時間2Hで走行するときは、R.F.W.ロック表示灯を消灯させます。表示灯が点灯したまま走行すると、前輪駆動装置を動かすことになり、経済的に不利な走行になります。

3.操作と取り扱い

運転装置の使いかた

4WDセレクトレバーの各位置の働きと表示灯

マニュアル車

4WDセレクトレバーの位置 (駆動方法)	使いかた	4WD表示灯	R.F.W.ロック 表示灯
2H (後輪駆動)	後輪のみに駆動力を伝える位置です。通常走行時に使用します。	 (消灯)	R.F.W. LOCK (消灯)
	後輪のみに駆動力を伝える位置です。走行中に4WDセレクトレバーを4Hに入れることができます。ただし後輪駆動で走行しつづけるときは、経済的に不利な走行となります。 →112ページ「2WD/4WDの切り替えかた」		R.F.W. LOCK (点灯)
4H (4輪駆動ハイレンジ)	4輪に駆動力を伝える位置です。積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂道など、すべりやすい路面で強い駆動力を必要とするときに使用します。	 (点灯)	R.F.W. LOCK (点灯)
N (ニュートラル)	4輪にエンジンの動力が伝わらない位置です。この位置での走行はできません。	 (点滅)	R.F.W. LOCK (点灯)
4L (4輪駆動ローレンジ)	4輪に駆動力を伝える位置です。積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂道など、すべりやすい路面で4Hよりも強い駆動力を必要とするときに使用します。	 (点灯)	R.F.W. LOCK (点灯)

4WD表示灯、R.F.W.ロック表示灯が点滅しているときは111ページの「表示灯の点滅の仕方」をお読みください。



警告

■ 60km/h以上の高速走行および乾燥した舗装道路では、後輪駆動で走行してください。

4輪駆動で走行すると、駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイル漏れや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

4WD装置の保護のため、4H (4輪駆動ハイレンジ) では車速が60km/h、4L (4輪駆動ローレンジ) では40km/hを超えないように運転してください。

オートマチック車

4WDセレクトレバーの位置 (駆動方法)	使いかた	4WD表示灯	R.F.W.ロック表示灯
2H (後輪駆動)	後輪のみに駆動力を伝える位置です。通常走行時に使用します。	 (消灯)	R.F.W. LOCK (消灯)
	後輪のみに駆動力を伝える位置です。走行中に4WDセレクトレバーを4Hに入れることができます。ただし後輪駆動で走行しつづけるときは、経済的に不利な走行となります。 →112ページ「2WD/4WDの切り替えかた」		R.F.W. LOCK (点灯)
4H (4輪駆動ハイレンジ)	4輪に駆動力を伝える位置です。積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂道など、すべりやすい路面で強い駆動力を必要とするときに使用します。	 (点灯)	R.F.W. LOCK (点灯)

4WD表示灯、R.F.W.ロック表示灯が点滅しているときは111ページの「表示灯の点滅の仕方」をお読みください。

警告

■60km/h以上の高速走行および乾燥した舗装道路では、後輪駆動で走行してください。

4輪駆動で走行すると、駆動系部品に悪影響をあたえ、駆動系のオイル漏れや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

4WD装置の保護のため、4H (4輪駆動ハイレンジ) では車速が60km/hを超えないように運転してください。

MEMO

4 快適カーライフのために

空調 118

エアコンを上手に使用していただくために	118
吹き出し口	119
マニュアルエアコン	121

オーディオ 123

アンテナ	123
オーディオを上手に使用していただくために	123
オーディオの種類	132
AM/FMラジオ	134
CD一体型ラジオ	140
ポータブルオーディオ機器を使用し ていただくために	165

室内装備 180

サンバイザー	180
室内照明	180
シガーライター	181
灰皿	181
カップホルダー	182
収納	182

エアコンを上手に使用していただくために

使用するとき

エアコンはエンジンをかけた状態で使用してください。

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。このようなとき、エアコンを使用して曇りを取ることができます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

外気導入と内気循環について

通常は外気導入で使用してください。内気循環は、トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに一時的に使用してください。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

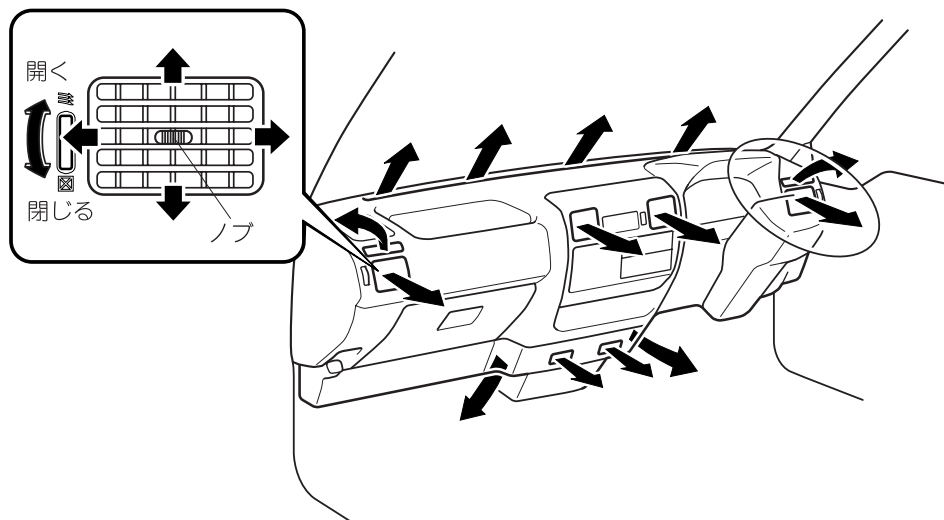
長期間エアコンを使用しないときは

長期間エアコンを使用しないときにも、内部のオイル循環のため、1か月に1回程度エアコンを作動させてください。

暑くなる前のチェック

エアコンの冷媒(エアコンガス)が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に冷媒量の点検を受けておきましょう。

吹き出し口



吹き出し口の調節

ノブを動かして、吹き出し風の向きを調節します。
ダイヤルを 側いっぱいになわすと、吹き出し口は全閉します。



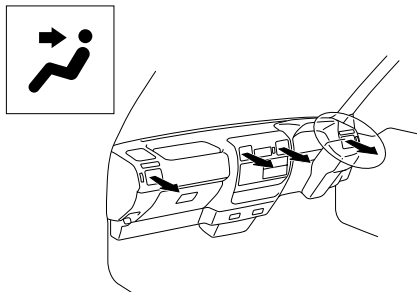
知識

冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。

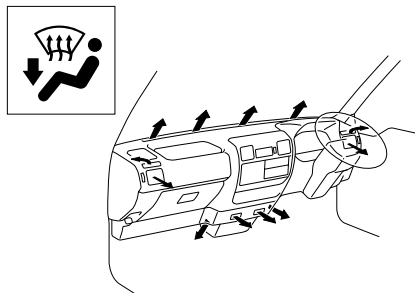
吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

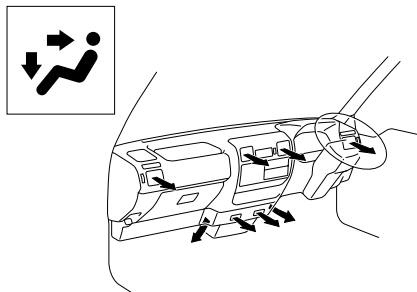
上半身に送風するとき



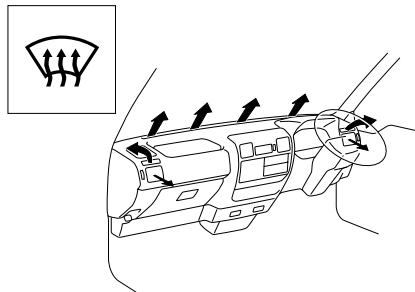
足元への送風とガラスの曇りを取る
とき



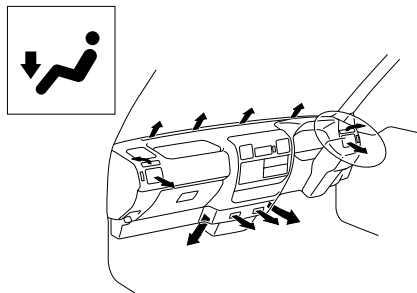
上半身、足元に送風するとき



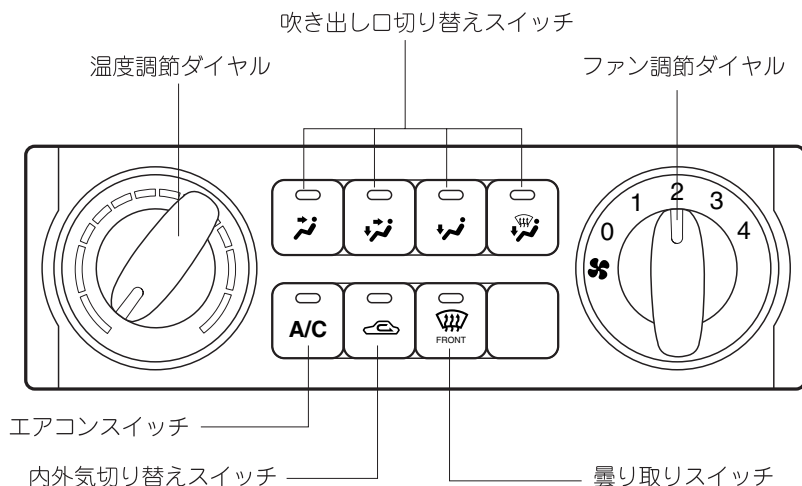
ガラスの曇りを取る
とき



主に足元に送風するとき



マニュアルエアコン



各スイッチの使いかた

温度調節ダイヤル

ダイヤルをまわして吹き出し風の温度を調節します。

ファン調節ダイヤル

風量を4段階に調節できます。

吹き出し口切り替えスイッチ

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

→120ページ「吹き出し口の選択」



知識

吹き出し口切り替えスイッチを  の位置にし、温度調節ダイヤルを中間温度付近で使用すると暖められた風が足元から吹き出し、比較的低温の低い風が中央および左右から吹き出します。

エアコンスイッチ

ファン調節ダイヤルが1～4のとき、スイッチを押すごとにエアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が切り替わります。エアコンが作動しているときは、表示灯が点灯します。



知識

外気温が0℃近くまで下がると、システム保護のためエアコンは作動しません。

内外気切り替えスイッチ

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。

- 内気循環 (表示灯点灯)
トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに一時的に使用します。
- 外気導入 (表示灯消灯)
外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。



知識

長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。通常は外気導入で使用してください。

曇り取りスイッチ

フロントガラス、フロントドアガラスの曇りを取りたいときに使用します。

→122ページ「ガラスの曇りを取るとき」

ガラスの曇りを取るとき

- 1 ファン調節ダイヤルをお好みの位置にします。
- 2 曇り取りスイッチを押します。
自動的に外気導入 (表示灯消灯) に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロントドアガラスに送風されます。
温度はお好みにあわせて調節してください。



警告

ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしないでください。ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

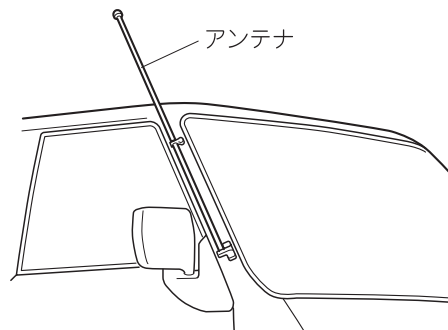
次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

- ファン調節ダイヤルを操作して、風量を増す。
- 温度調節ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

アンテナ

伸縮式

ラジオを使用するときは、いっばいに引き出します。



注意

天井の低い車庫に入れるときや洗車するときは、アンテナを格納してください。伸ばしているとアンテナが損傷するおそれがあります。

知識

ラジオを聞くときは、放送を良好な状態で受信できるよう、アンテナをいっばいに伸ばしてください。

オーディオを上手に使用 していただくために



警告

■ オーディオの操作は、車が止まっているときに行なってください。走行中は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

安全運転をさまたげないように、運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。



知識

- エンジンをつめたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 車内または車の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ(雑音)が発生することがありますが故障ではありません。

ラジオについて

ラジオの受信は、車両の移動に伴いアンテナの位置が刻々と変わるため電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

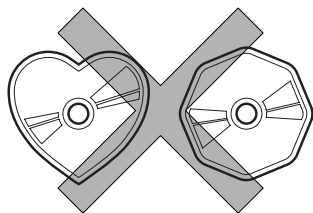
4.快適カーライフのために オーディオ

CDについて

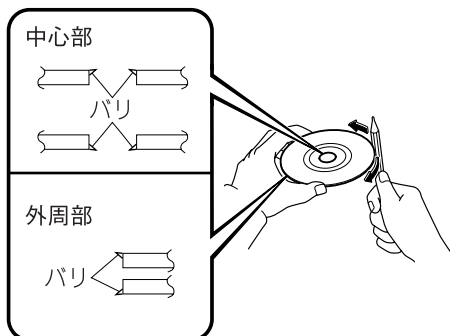
- 下記のマークのついているCD以外は使用できません。



- コピーコントロールCD (著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽CD) の中で、CDの規格に準拠していないものは、再生できない場合があります。
- ハート型や八角形など特殊形状のCDは使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。



- 新しいCDは、外周部や中心の穴のまわりがあらくなっている場合があります。そのような場合は、ボールペンや鉛筆などであらい部分 (バリ) を取り除いてから使用してください。そのまま使用すると音飛びを起こしたり、CDを挿入できなくなったりすることがあります。



- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びを起こすことがあります。
- 寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露 (水滴) が生じ、正しく作動しなくなることがあります。このようなときは、CDを取り出して室内を換気または除湿してから使用してください。
- CD信号面に直接手で触れると、CDの信号面が汚れ、音飛びなどを起こすことがあります。CDの端と中心の穴をはさんで持ってください。
- CDはケースに入れ、直射日光を避けて保管してください。直射日光や高温など、車内での保管状況により、再生できなくなる場合があります。
- CDの汚れを取るときは、やわらかい布でCDの中央から外側へ向けて汚れをふき取ってください。ベンジン、シンナー、帯電防止剤などを使用すると、CDの表面を傷める原因になりますので使用しないでください。

- CDに文字を書き込んだり、ラベルやシールを貼り付けたりしないでください。
- 変形したり、ひびがはいったりしたCDは使用しないでください。
- CD差し込み口に指や異物を入れないでください。故障の原因になることがあります。
- CD-R/CD-RWは、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- ファイナライズ処理 (通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理) されていないCD-R/CD-RWは再生できません。
- 700MBを超えるCD-R/CD-RWの再生はできません。
- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWは、ディスクの特性、キズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーション (ライティングソフト) の設定および環境によって再生できないことがあります。正しいフォーマットで記録してください。(詳細はアプリケーションの発売元にお問い合わせください。)
- CD-R/CD-RWに記録されているタイトルなどの文字情報は、音楽データ (CD-DA) 再生時に表示できない場合があります。
- CD-RWは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rより時間がかかります。
- CD-R/CD-RWの取扱については、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

- セロハンテープやレンタルCDのラベルからのりがはみ出していたり、ラベルをはがしたりしたあとがあるものは、使用しないでください。また、市販のCD-Rラベルを貼付けたディスクも使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因となることがあります。

MP3について

MP3
ID3 TAG



知識

フランス、トムソン社からのMP3特許ライセンスについて

本機は、個人の使用または非商用的な使用を目的としています。以下のような、商用目的には使用できません。ご使用には、別途、トムソン社からの商用使用許諾が必要です。

詳しくは<http://mp3licensing.com> をご覧ください。

- 有料リアルタイム放送 (地上波、衛星、ケーブル、その他の放送媒体)
- インターネットによる放送またはストリーミング
- イントラネット/ネットワーク
- 有料オーディオ・アプリケーションやオーディオ・オンデマンド・アプリケーションなどの電子情報配信システム

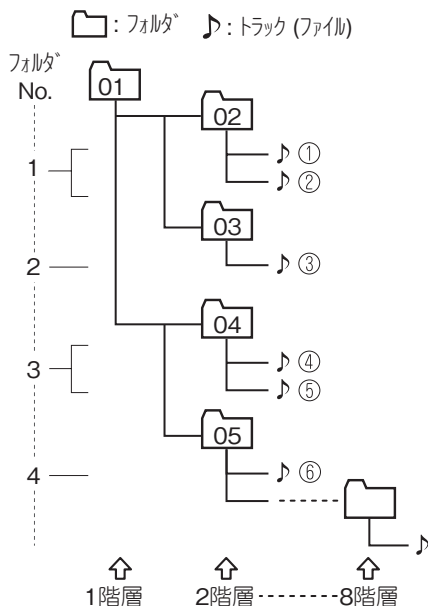
4.快適カーライフのために オーディオ

- MP3ファイルが記録されたCD-R/CD-RWの再生に対応しています。次のフォーマットに準拠して記録されたディスクが再生可能です。
 - ・ ISO9660 レベル1
 - ・ ISO9660 レベル2
 - ・ 拡張フォーマットJoliet
 - ・ 拡張フォーマットRomeo
- 本機はヘッダ部およびデータ部が共にMP3形式に準拠したMP3ファイルに対応しています。
- 本機は40セッションまでのマルチセッション方式で記録されたディスクの再生に対応しています。
- 本機での再生可能なサンプリング周波数は16/22.05/24/32/44.1/48kHzです。
- 本機は32kbps～128kbps、160kbps～384kbpsのMP3ファイルの再生に対応していますが、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps以上のビットレートで記録されたディスクの使用をおすすめします。
- パケットライト方式で記録されたディスクは聞くことができません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、MP3 PROフォーマット、RIFF形式MP3フォーマットには対応していません。
- 記録時に使用するソフトによっては、ノイズが発生することがあります。

フォルダ、ファイルについて

- フォルダやトラック (ファイル) はライティングソフトによってディスクに書き込まれた順序で再生します。

- MP3ファイルを収録したディスクのイメージ、再生の順番は次のようになります。



- フォルダ番号は自動で割り当てられます。任意の番号を割り当てることはできません。
- MP3ファイルを含まないフォルダは認識されません。(フォルダ番号の表示をせず、スキップします。)
- MP3ファイルのヘッダ部およびデータ部が共にMP3形式に準拠していないMP3ファイルは、再生せずスキップします。
- 本機は8階層までのMP3ファイルの再生に対応していますが、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。

- 一枚のディスクおよび一つのUSB機器で再生可能なファイルの最大数は65,535ファイルです。また一つのフォルダで再生可能なファイルの最大数は255ファイルです。
- MP3ファイルに名前をつけるときは、ファイル名の後に必ず拡張子(.mp3)を付けてください。
- ディスク作成時、ファイル名として付けることのできる最大文字数は次のとおりですが、本機に表示される最大文字数は半角で32文字までです。

	ファイル名最大文字数 (区切り文字“.”と 拡張子3文字を含む)
ISO9660 レベル1	12*1
ISO9660 レベル2	31*1
拡張フォーマット Joliet	64
拡張フォーマット Romeo	128

*1 使用できる文字は半角英数字(大文字のみ)とアンダーバー“_”

- 表示部の表示は半角英数字にのみ対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、その文字を“*”に置き換えて表示します。

⚠ 注意

本機は拡張子(.mp3)がついているファイルをMP3ファイルとして再生します。MP3ファイル以外にはMP3拡張子を付けないでください。雑音や故障の原因となります。

ID3 Tagの表示について

本機はVer.1.1/2.2/2.3 形式で入力されたID3 Tagのアルバム名、トラック名、アーティスト名の表示にのみ対応しています。その他の情報を入力しても表示することはできません。

表示を切り替えるとき

表示部の表示は半角英数字にのみ対応しています。ID3 Tagは半角英数字で入力してください。それ以外の文字が記録されている場合は、その文字を“*”に置き換えて表示します。

用語解説

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer 3」の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。

MP3は音声データを元のデータの約10分の1に圧縮することができます。

ISO9660

CD-ROMのファイルおよびフォルダに関する論理フォーマットの国際基準です。ファイル名の付け方やデータ配置などの違いによってレベル1～3に分けられます。

マルチセッション

CD-ROMやCD-R、CD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

4.快適カーライフのために オーディオ

サンプリング

アナログデータである音を一定時間ごとにデータ化し、デジタルデータにすることをいいます。また、1秒間に行なうサンプリング回数をサンプリング周波数といい、単位はHzで表します。サンプリング周波数が高いほど音質は良くなりますが、データ量が大きくなります。

ビットレート

1秒あたりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。一般的にMP3ファイルは、圧縮時の転送ビットレートの数字が大きいほど音楽を再現するための情報を多く持つことになるため、音質が良くなります。

パケットライト

フロッピーやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む方式の総称です。

ID3 Tag

曲の関連情報をMP3ファイルに埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報は、トラック名、アーティスト名、アルバム名などがあります。この内容はID3 Tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。

VBR

「Variable Bit Rate (可変ビットレート)」の略です。一般的にはCBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変することで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WMAについて



WMAとは、Windows Media Audioの略称で、Microsoft社の音声圧縮フォーマットです。

MP3よりも高い圧縮率で音声データを作成・保存することができます。

※ Microsoft、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

再生できるWMAファイルの仕様

本機はWMAファイルが記録されたCD-R、CD-RWの再生に対応しています。次のフォーマットに準拠して記録されたディスクが再生可能です。

再生可能なWMAファイル仕様は以下のとおりです。

項目	内容
規格	Windows Media Audio Version 9.2以下
サンプリング周波	22.05, 32, 44.1, 48kHz
ビットレート	32-320kbps
VBR (可変ビットレート)	対応
チャンネルモード	ステレオ/モノラル
WMA タグ	タイトル、アーティスト名、アルバム名

注意

本機は拡張子 (.wma) がついているファイルをWMAファイルとして再生します。WMAファイル以外にはWMA拡張子を付けないでください。雑音や故障の原因となります。

- WMAファイル内には曲名/アーティスト名/アルバム名/ジャンル名等の情報が“WMA-Tag”と呼ばれるデータで記録されており、モニター等でその情報を表示することができます。

- 記載している規格以外で書き込まれたWMAファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。
- パソコンのOSの種類やバージョン、ソフト、設定によって拡張子が見つからない場合があります。その場合は、ファイルの最後に拡張子「.wma」を追記してからディスクに書き込んでください。

USB機器について

本機はUSB1.1/USB2.0の機器に対応しています。また、MP3/WMAファイルを再生できます。

注意

- オーディオファイル以外のファイルにオーディオファイルの拡張子をつけないでください。また、オーディオファイルの拡張子を変更しないでください。本機がファイルを誤認識して再生してしまい、雑音や故障の原因となります。
- USB機器を車内に放置しないでください。直射日光や車内の高温で破損することがあります。

4.快適カーライフのために オーディオ



知識

- 機種やOSのバージョンによっては、対応していない場合があります。
- 本機は著作権保護されたMP3/WMAファイルは再生できません。
- パソコンの画面上で表示される曲順と再生順序が違ふことがあります。
- 機器が1,000 mA以上の電力を使用する場合は、作動しなかったり、充電できない場合があります。
- USBモード中にUSB機器を取りはずさないでください(ラジオやCDなどの、別のオーディオモード中に取りはずすことができます)。
- パスワードで保護されたデータは、再生することができません。
- セキュリティ機能がついたUSB機器は使用できません。
- 記録されているデータの消失、損傷といった万一にそなえて、データはバックアップを取っておくことをおすすめします。

記載している規格以外で書き込まれたMP3/WMAファイルは、正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。

iPod/iPhoneについて

本機は、音楽ファイルが記録されたiPod/iPhoneの再生に対応しています。
iPod/iPhoneは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
機種やOSのバージョンによっては、対応していない場合があります。



注意

- iPod/iPhoneを使用しないときは取りはずしてください。車内に放置すると、車内の高温と湿度で破損したりバッテリーが消耗することがあります。
- iPod/iPhoneのバッテリーが劣化している場合、本機に接続しても充電や再生ができない場合があります。
- ご使用前に、iPod/iPhoneの取扱書をよくお読みください。
- iPod/iPhoneは、USB端子に接続して、操作をオーディオユニットで行ないません。iPod/iPhone本体での操作はできません。



知識

- 本機は、iPod/iPhoneの画像やビデオを表示することはできません。
- 記録されているデータの消失、損傷といった万一にそなえて、データはバックアップを取っておくことをおすすめします。

ディスプレイについて

- 本機のディスプレイ部(アクリル部品)の一部分に、細いスジが見える場合がありますが、異常ではありません。
- 直射日光などが本機のディスプレイで反射することがありますので、運転の際は十分注意してください。

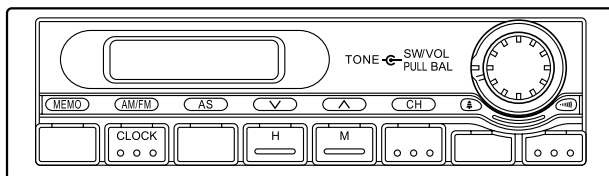


4.快適カーライフのために オーディオ

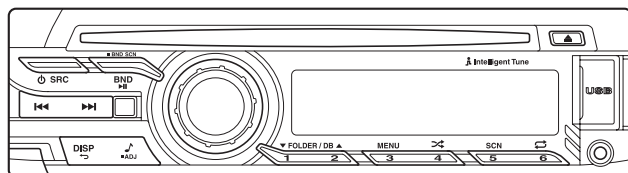
オーディオの種類

タイプ別に使用方法を説明しています。お車に該当するページをご覧ください。

AM/FMラジオ 134ページ

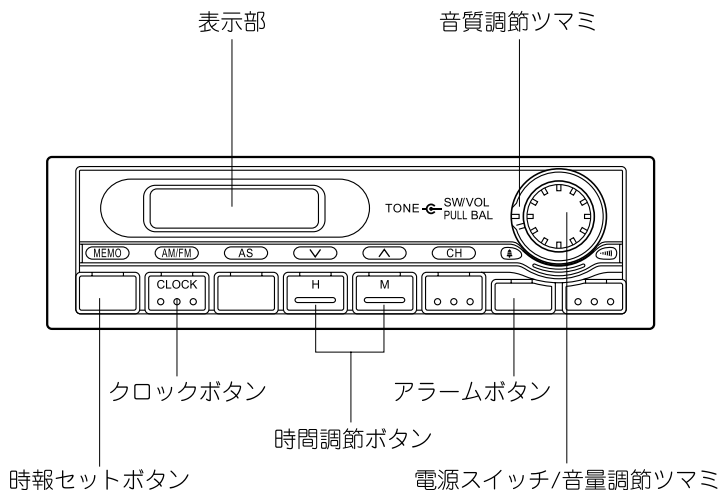


CD一体型ラジオ 140ページ





AM/FMラジオ



音量/音質の調節

音量調節

音量調節ツマミをまわして調節します。
右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

左右音量調節

音量調節ツマミを引き、まわして調節します。
右へまわすと右側が強調され、左へまわすと左側が強調されます。
調節後は、ダイヤルを押してもとの位置にもどします。

音質調節

音質調節ツマミをまわして調節します。
右へまわすと高音強となり、左へまわすと低音強となります。

時計の調節

時刻のあわせかた

- 1 電源ポジションをACCまたはONにします。

知識

ACCまたはONにしてもディスプレイに何も表示されないときは、電源スイッチを押して電源を入れてください。

- 2 クロックボタン (CLOCK) を2秒以上押します。
時刻が点滅表示されます。

- 3 時刻が点滅中に、時間調節ボタン (H,M) を押して時刻をあわせませます。
時間調節ボタン (H) を押している間
“時” 表示が早送りされます。
時間調節ボタン (M) を押している間
“分” 表示が早送りされます。
- 4 調節後、クロックボタン (CLOCK) を押します。

時報にあわせるとき

- 1 クロックボタン (CLOCK) を2秒以上押します。
時刻が点滅表示されます。
- 2 時報セットボタン (MEMO) を押すと、時刻は次のように修正されます。
(例)
12:01~12:29→12:00
12:30~12:59→1:00



知識

- 時刻の調整が15秒間中断されると解除されます。もう一度初めから操作してください。
- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは記憶が消去されます。もう一度記憶させてください。

時計/オーディオ表示の切り替え

クロックボタン (CLOCK) を押すと、オーディオ表示に切り替わります。
5秒以内にクロックボタン (CLOCK) を操作しないと、時計表示にもどります。



知識

時計表示の状態でラジオを操作すると、表示はオーディオ表示に切り替わります。
しばらくすると時計表示にもどります。

アラームの使いかた

指定時刻にアラーム音を鳴らすことができます。

- ① アラームボタン (🔔) を2秒以上押します。
時刻と“🔔”が点滅表示されます。
時刻が点滅中に、時間調節ボタン (H,M) を押して時刻を調整します。
時間調節ボタン (H) を押している間“時”表示が早送りされます。
時間調節ボタン (M) を押している間“分”表示が早送りされます。
- ② 希望時刻に調整し、現在の時刻が表示されるまで待ちます。
- ③ アラームボタン (🔔) を押し、“🔔”が点灯していることを確認します。
アラーム音を止めるときは、任意のボタンを押します。

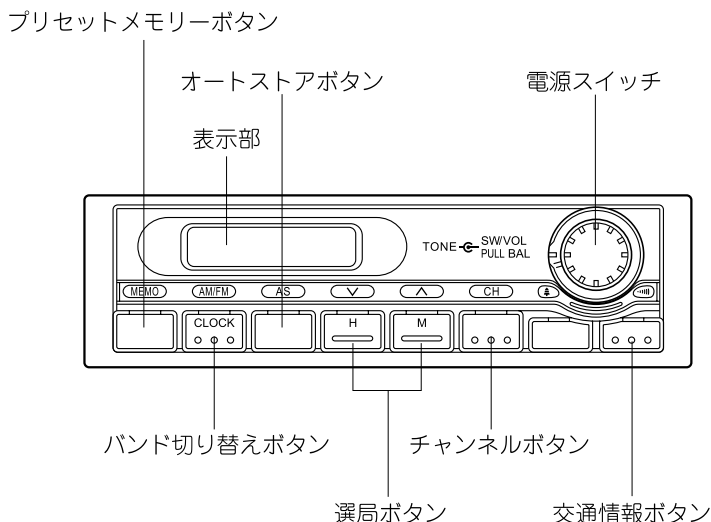


知識

- アラームを解除するときは、アラームボタン (🔔) を押します。解除されると“🔔”が消灯します。
- 時刻の調整を15秒間中断すると解除されます。もう一度初めから操作してください。
- 長時間お車を使用されないときは、アラームを解除してください。



ラジオを聞くととき



1 電源ポジションをACCまたはONにします。

2 電源スイッチを押して電源を入れます。

3 バンド切り替えボタン (CLOCK) を押し、オーディオ表示に切り替えます。

4 5秒以内にバンド切り替えボタン (CLOCK) を押し、聞きたいバンドを選びます。

5 選局します。

- 自動選局
選局ボタン (H,M) を押し続けると、自動選局を始め、放送を受信すると止まります。
- 手動選局
選局ボタン (H,M) を押すごとに周波数が変わります。

6 ラジオを止めるときは、電源スイッチを押します。

知識

- 5秒以内にバンド切り替えボタン (CLOCK) の操作をしないと時刻表示にもどります。
- FMステレオ放送を受信中、電波が弱くなると自動的にモノラルに切り替わり、ノイズを減らします。
- 受信する電波が弱いときは、手動で選局してください。

オートストア選局

自動受信した放送局を、自動的にプリセットメモリーします。

- 1 バンド切り替えボタン (CLOCK) を押し、メモリーしたいバンドを選びます。
- 2 オートストアボタン (AS) ボタンを2秒以上押しと“ピッ”という音が鳴ります。
- 3 受信中のバンドで電波の強い順に最大6局までの周波数をメモリーします。
- 4 チャンネルボタン (CH) を押すごとに、順次メモリーされた周波数に切り替わります。



知識

オートストア選局を行うと選択されたバンドのプリセットメモリーは消去されます。

放送局をメモリーするとき

選局した周波数をメモリーさせることができます。

AM1、AM2、FM1、FM2それぞれ6局までメモリーできます。

- 1 バンド切り替えボタン (CLOCK) を押し、メモリーしたいバンドを選びます。
- 2 選局ボタン (H,M) を押して、メモリーさせたい放送局を選びます。
- 3 プリセットメモリーボタン (MEMO) を押しと、プリセットメモリー書き込みモードになりチャンネル番号が点滅します。
- 4 チャンネルボタン (CH) でメモリーしたいチャンネルを選択します。
- 5 再度プリセットメモリーボタン (MEMO) を押しと、プリセットが完了します。

- 6 呼び出すときはチャンネルボタン (CH) を押し、聞きたいチャンネルを選択します。



知識

- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときはメモリーがリセットされます。もう一度設定してください。
- メモリーした放送局の受信状態が悪いときはオートストア (自動選局) が便利です。オートストアで選局すると、その地域で受信感度の高い放送局を周波数の低い順に“1”～“6”へメモリーします。

交通情報の受信

交通情報を放送している地域では交通情報ボタン (●●●) を押しと交通情報を受信できます。

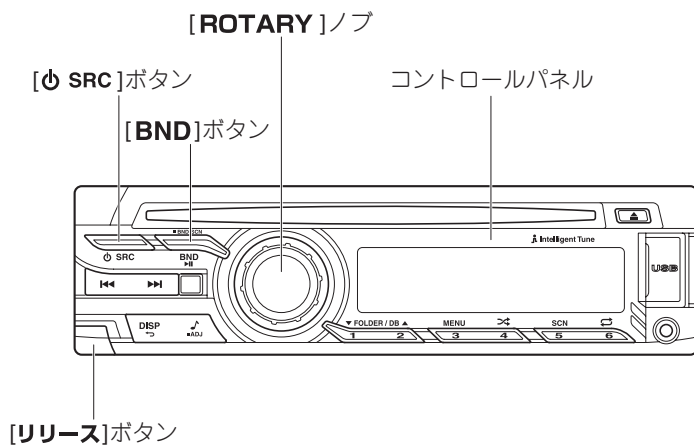
- 1 交通情報ボタンを押すと、AM1620kHzを受信します。
- 2 もう一度押すともとの状態にもどります。
- 3 受信中、選局ボタン (H,M) を押しと、AM1620kHzとAM1629kHzを切り替えることができます。



知識

交通情報ボタン (●●●) で受信中は、チャンネルボタン (CH) を押しても放送局は選局されません。

CD一体型ラジオ



コントロールパネル

コントロールパネルは取りはずすことができます。

⚠ 注意

- コントロールパネルに強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。故障の原因になります。
- 運転中はコントロールパネルの脱着操作をしないでください。
- コントロールパネルが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないまま使用すると走行中不意にコントロールパネルがはずれて落下するおそれがあります。
- 本機とコントロールパネルを接続しているコネクターは、爪やドライバーなどで押してキズをつけないでください。

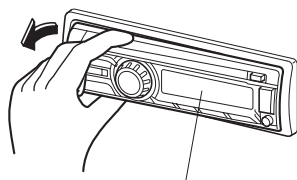
📖 知識

コントロールパネルが汚れたときには、乾いたやわらかい布でふき取ってください。

コントロールパネルの取りはずしかた

- 1 [**⏻ SRC**] ボタンを約1秒間押して、電源を切ります。
- 2 [**🔒 リース**] ボタンを深く押します。コントロールパネルの左端が本体からはずれます。

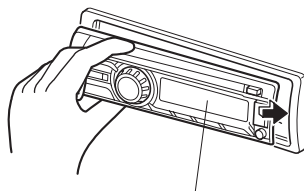
- 3 コントロールパネルを手前に取りはずします。



コントロールパネル

コントロールパネルの取り付けかた

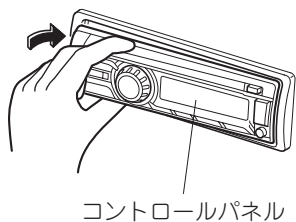
- 1 コントロールパネルの右端を、本機のツメ部に差し込みます。



コントロールパネル

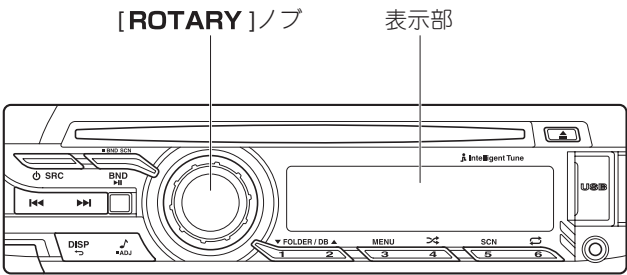
4.快適カーライフのために オーディオ

- 2 コントロールパネルの左端を、カチッと音がするまで押し込みます。





設定変更 (アジャストモード)



- 1 電源ポジションをACCまたはONにします。
- 2 [φ SRC] ボタンを押して電源を入れます。
- 3 [♪] ボタンを約1秒間押します。
- 4 [◀▶], [▶▶] ボタンを押して調節したいモードを選択します。ボタンを押すごとにモードが切り替わります。

- 5 [ROTARY] ノブをまわして調節します。

設定項目	ノブをまわす方向	
	左	右
AUTO STORE (オートストア選局)	自動でプリセットメモリーに登録する →156ページ「ラジオを聞くとき」	
DX/LO (受信感度の設定)	ラジオの受信感度を設定する →156ページ「ラジオを聞くとき」	
AUX SENS (AUX入力音量設定)	AUX入力音量の設定をする →168ページ「AUXの使いかた」	

設定項目	ノブをまわす方向	
	左	右
DIMMER (ディスプレイ照明設定)	OFF	ON
BEEP (操作音設定)	OFF、TYPE-A、TYPE-B	
EQ-SELECT (音質設定)	G-EQ	BASS/TREB
SWRC (オーディオリモートコントロールスイッチ設定)	—	
RESET (設定の初期化)	設定を初期化する →145ページ「設定の初期化」	

- 6 [DISP] ボタンを押すと、もとの表示にもどります。



知識

- “AUTO STORE” と “DX/LO” はラジオモード時のみ表示されます。
- “AUX SENS” はAUXモード時のみ表示されます。
- “SWRC” は使用できない設定項目です。

ディスプレイ照明を設定する

車のイルミネーションに連動してディスプレイ照明を減光します。

[ROTARY] ノブをまわしてONとOFFを設定することができます。初期設定はONです。

操作音を設定する

ボタンの操作音を設定します。

[ROTARY] ノブをまわして、TYPE-A、TYPE-B、OFFを選択することができます。初期設定はTYPE-Aです。

モード	状況
TYPE-A	ボタン操作時にピッと音がします
TYPE-B	
OFF	ボタン操作時に音がしません

音質の調節方法を設定する

音質の調節方法を設定します。

[ROTARY] ノブをまわしてG-EQとBASS/TREBを選択することができます。状況に応じてお好みのモードを選択してください。初期設定はG-EQです。

モード	状況
G-EQ	グラフィック・イコライザーによる音質調節をします
BASS/TREB	低音や高音による音質調節をします

音質の調節については、148ページの「音量/音質の調節」をご覧ください。

設定の初期化

次の項目をすべて初期化します。

- 設定変更 (アジャストモード)
- 音量/音質の調節

4.快適カーライフのために

オーディオ

- ラジオのプリセットメモリー
- 1 電源ポジションをACCまたはONにします。
 - 2 [ SRC] ボタンを押して電源を入れます。
 - 3 [] ボタンを約1秒間押します。
 - 4 [], [] ボタンを押して “RESET” を選択し、[**ROTARY**] ノブを押します。
 - 5 [**ROTARY**] ノブをまわして “ARE U SURE” を選択します。

設定項目	ノブをまわす方向	
	左	右
RESET (設定の初期化)	ARE U SURE	CANCEL

- 6 [**ROTARY**] ノブを押すと、“CLEARED” が表示され、設定が初期化されます。
- 7 [**DISP**] ボタンを押すと、もとの表示にもどります。

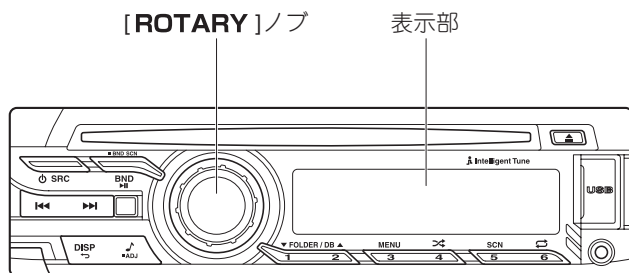


知識

“CANCEL” を選択すると、初期化を中止します。



音量/音質の調節



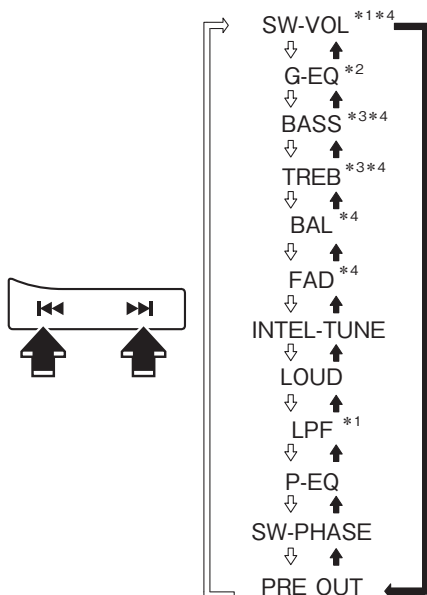
音量調節

[ROTARY] ノブをまわして調節します。
右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

音質を設定する

① **[♪]** ボタンを押します。

② **[◀▶]** ボタンを押して設定したいモードを選択します。ボタンを押すごとにモードが切り替わります。



*1 プリアウト機能がSUB WOOFERのときのみ表示されます。

*2 音質の調節方法の設定 (EQ-SELECT) が G-EQのときのみ表示されます。

*3 音質の調節方法の設定 (EQ-SELECT) が BASS/TREBのときのみ表示されます。

*4 約10秒間操作がないときは、音質調節前の表示にもどります。

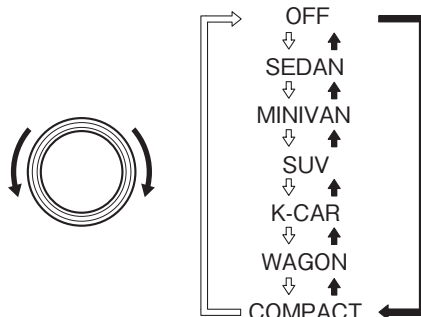
知識

- 音量/音質調節値は表示部に表示されます。
- 本車両は、“SW-VOL”、“LPF”、“SW-PHASE”、“PRE OUT”の設定には対応していません。
- 音質の調節方法の設定 (EQ-SELECT) については、144ページの「設定変更 (アジャストモード)」をご覧ください。

パラメトリック・イコライザーを設定する

車両タイプに合わせた音楽特性を簡単に設定することができます。

- 1 [♪] ボタンを押します。
- 2 [⏮], [⏭] ボタンを押して、“P-EQ”を選択し、[ROTARY] ノブを押します。
- 3 [ROTARY] ノブをまわして、車両タイプを選択します。



- 4 [♪] ボタンまたは [DISP] ボタンを押して、もとの表示にもどります。

知識

“P-EQ” の設定をすると “G-EQ” がOFFになります。“P-EQ” と “G-EQ” の両方を調節するときは、先に “P-EQ” の設定をしてください。

グラフィック・イコライザーを調節する

低音と高音の強調を、モードを選択して設定することができます。また、選択したモードからさらに詳細に音質を調節することができます。初期設定はNATURALです。

- 1 [♪] ボタンを押します。

4.快適カーライフのために
オーディオ

2) [◀◀], [▶▶] ボタンを押して、“G-EQ”を選択し、[ROTARY] ノブを押します。

3) [ROTARY] ノブをまわして、設定したいモードを選択します。

モード	音質変化
OFF	なし
CUSTOM*1	一時的に記憶されている音質を呼び出します
BASS-BOOST	低音を強調します
HIGH-BOOST	中音と高音を強調します
VOCAL	中音を強調します
IMPACT	低音と高音を強調します
NATURAL	落ち着いた音質にします
USER1	“USER1” ～ “USER3” に記憶した音質を呼び出 します
USER2	
USER3	

*1 設定が一時的に記憶されているときに表
示されます。

 知識

選択したモードから、さらに詳細に音質を
調節したいときは、次の手順で行なってく
ださい。

- 1) [ROTARY] ノブを押します。
- 2) [◀◀], [▶▶] ボタンを押して周波数を選
択します。“60Hz”、“250Hz”、
“620Hz”、“1kHz”、“4kHz”、
“8kHz”、“16kHz” から選択できま
す。
- 3) [ROTARY] ノブをまわして調節しま
す。右へまわすと強調量が大きくな
り、左へまわすと小さくなります。
- 4) [1]～[3] ボタンを約2秒間押すと、
“USER1” ～ “USER3” に設定が記憶
されます。

4) [♪] ボタンまたは [DISP] ボタンを押し
て、もとの表示にもどります。

 知識

“BASS-BOOST”、“HIGH-BOOST”、
“VOCAL”、“IMPACT”、“NATURAL”
の各モードで調節し、“USER1” ～
“USER3” に設定を記憶しなかった場合
は、“CUSTOM”に一時的に記憶されま
す。

インテリジェント・チューンを設定す
る

音響補正を設定します。各モードの初期設
定はOFFです。

モード	音質変化
S-RESTORER*1	MP3/WMAファイルを原 音の音質に近づけます

モード	音質変化
V-BASS	迫力ある重低音を放ちます
D-BEAT	音源のメリハリ感を再現します

*1 音楽CDおよびAMラジオを聞いているときは、設定がOFFになります。

- ① [♪] ボタンを押します。
- ② [◀◀], [▶▶] ボタンを押して、“INTEL-TUNE” を選択し、[ROTARY] ノブを押します。
- ③ [◀◀], [▶▶] ボタンを押して、設定したいモードを選択します。
- ④ [ROTARY] ノブをまわして調節します。“OFF”、“LOW”、“MID”、“HIGH” から選択できます。
- ⑤ [♪] ボタンまたは [DISP] ボタンを押して、もとの表示にもどります。

低音を調節する

音質の調節方法 (EQ-SELECT) が “BASS” のときは、低音の音質を細かく調節することができます。初期設定は0です。

- ① [♪] ボタンを押します。
- ② [◀◀], [▶▶] ボタンを押して “BASS” を選択します。
- ③ [ROTARY] ノブをまわして調節します。右へまわすと低音が強くなり、左へまわすと低音が弱くなります。
- ④ [♪] ボタンまたは [DISP] ボタンを押して、もとの表示にもどります。

高音を調節する

音質の調節方法 (EQ-SELECT) が “TREB” のときは、高音の音質を細かく調節することができます。初期設定は0です。

- ① [♪] ボタンを押します。
- ② [◀◀], [▶▶] ボタンを押して “TREB” を選択します。
- ③ [ROTARY] ノブをまわして調節します。右へまわすと高音が強くなり、左へまわすと高音が弱くなります。
- ④ [♪] ボタンまたは [DISP] ボタンを押して、もとの表示にもどります。

左右の音量を調節する

左右の音量を調節することができます。初期値は0です。

- ① [♪] ボタンを押します。
- ② [◀◀], [▶▶] ボタンを押して “BAL” を選択します。
- ③ [ROTARY] ノブをまわして調節します。右へまわすと右側が強調され、左へまわすと左側が強調されます。
- ④ [♪] ボタンまたは [DISP] ボタンを押して、もとの表示にもどります。

前後の音量を調節する

前後の音量を調節することができます。初期設定は0です。

- ① [♪] ボタンを押します。
- ② [◀◀], [▶▶] ボタンを押して “FAD” を選択します。
- ③ [ROTARY] ノブをまわして調節します。右へまわすと前側が強調され、左へまわすと後側が強調されます。
- ④ [♪] ボタンまたは [DISP] ボタンを押して、もとの表示にもどります。



知識

前後音量調節のとき後側を強調すると音が出なくなります。前後音量調節値を0にして使用してください。

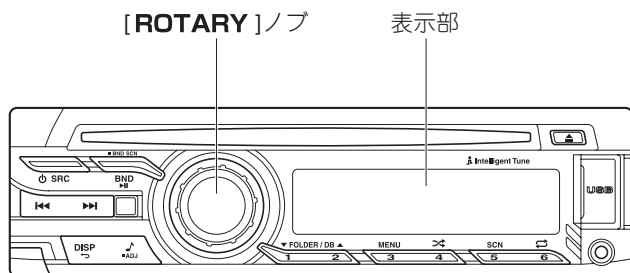
低音/高音を強調する

低音と高音を強調し、音量が小さいときでも聞きやすいように調節します。初期設定はONです。

- 1 [♪] ボタンを押します。
- 2 [◀◀], [▶▶] ボタンを押して“LOUD”を選択します。
- 3 [ROTARY] ノブをまわして、“ON”または“OFF”を選択します。
- 4 [♪] ボタンまたは [DISP] ボタンを押して、もとの表示にもどります。



時計の調節



- 1 電源ポジションをACCまたはONにします。
- 2 [**φ SRC**] ボタンを押して電源を入れます。
- 3 [**DISP**] ボタンを押すと時計が表示されます。
- 4 [**DISP**] ボタンを約1秒間押します。
- 5 [**◀▶**], [**▶▶**] ボタンを押して「時」または「分」を選ぶと、数値が点滅します。
- 6 [**ROTARY**] ノブをまわして、時刻を合わせます。
- 7 調節後、[**ROTARY**] ノブを押すと時刻が設定されます。

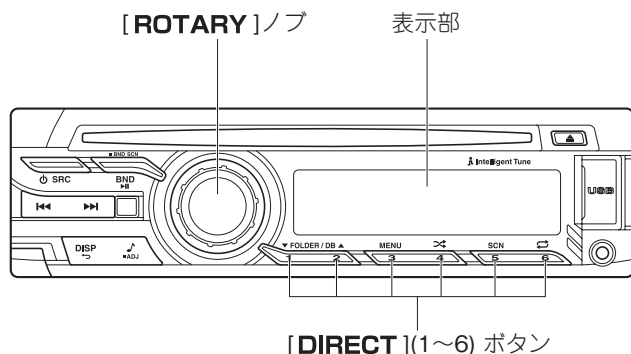


知識

車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときは記憶が消去されます。もう一度記憶させてください。



ラジオを聞くととき



- 1 電源ポジションをACCまたはONにします。
- 2 **[SRC]** ボタンを押して電源を入れます。
- 3 **[SRC]** ボタンを押して“TUNER” (ラジオモード)を選択します。
- 4 **[BND]** ボタンを押し、聞きたいバンドを選択します。
- 5 選局します。
 - 自動選局
[◀▶], [▶▶] ボタンを約1秒間押すと、自動選局を始め、放送を受信すると止まります。
 - 手動選局
[◀▶], [▶▶] ボタンを押します。

- 6 ラジオを止めるときは、**[SRC]** ボタンを1秒以上押します。

知識

受信する電波が弱いときは、手動選局をしてください。

オートストア選局

受信感度の強い放送局を、自動的にプリセットメモリーします。

- 1 **[BND]** ボタンを押し、メモリーしたいバンドを選択します。
- 2 **[♪]** ボタンを約1秒間押します。
- 3 **[◀▶], [▶▶]** ボタンを押して“**AUTO STORE**”を選択します。
- 4 **[ROTARY]** ノブを約1秒間押します。

- 5 電波の強い順に最大6局までの周波数をメモリーします。
- 6 呼び出すときは、**[DIRECT] (1～6)** ボタンを押します。



知識

- オートストア選局は、受信バンド別に登録します。それぞれ登録してください。FMを選択したときはFM3に6局、AMを選択したときはAM2に6局登録されます。
- オートストア選局を行なうと選択されたバンドのプリセットメモリーは消去されます。
- 登録できる放送局が6局に満たないときは、工場出荷時に登録されている放送局が登録されます。

放送局をメモリーするとき

[DIRECT] (1～6) ボタンを使って、選局した周波数をメモリーさせておくとう便利です。AM1、AM2、FM1、FM2、FM3それぞれ6局までメモリーできます。

- 1 **[BND]** ボタンを押し、メモリーしたいバンドを選択します。
- 2 **[◀◀]、[▶▶]** ボタンを押して、メモリーさせたい放送局を選択します。
- 3 **[DIRECT] (1～6)** ボタンを約2秒間押します。
- 4 呼び出すときは、**[DIRECT] (1～6)** ボタンを押します。



知識

- 呼び出すときにボタンを約2秒間押すと、そのとき受信している周波数がメモリーされます。
- 交通情報を放送している地域では、AM1620kHzとAM1629kHzを登録しておくとう便利です。
- 車両整備などでバッテリーとの接続が断たれたときはメモリーが消去されます。もう一度メモリーさせてください。

放送局を探すとき

- 1 **[BND]** ボタンを押し、聞きたいバンドを選択します。
- 2 **[BND]** ボタンを約1秒間押します。電波の強い放送局を周波数順に7秒間ずつ受信します。

受信感度を選ぶとき

状況に応じてお好みのモードを選択してください。初期設定はDXです。

モード	状況
DX	電波の強弱に関係なく、放送局を受信します
LOCAL	電波の強い放送局のみ受信します

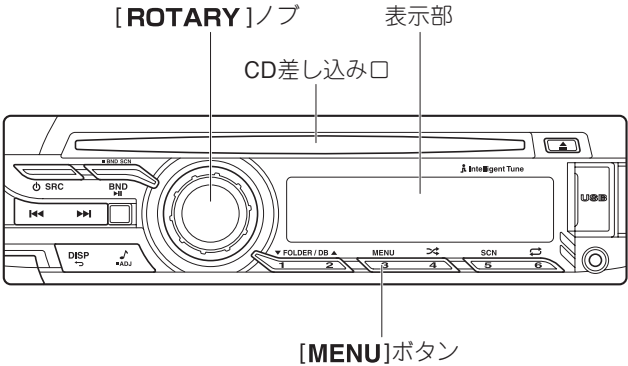
- 1 **[♪]** ボタンを約1秒間押します。
- 2 **[◀◀]、[▶▶]** ボタンを押して“DX/LO”を選択します。
- 3 **[ROTARY]** ノブをまわしてモードを選択します。
- 4 **[DISP]** ボタンを押すと、もとの表示にもどります。

表示を切り替えるには

[DISP] ボタンを押すごとに、バンド/周波数表示と時計表示が切り替わります。



CDを聞くととき



タイプ	再生できるデータ
音楽/MP3/WMA CDプレーヤー	● 音楽データ (CD-DA) ● MP3/WMAファイル

知識

一枚のディスクに音楽データ (CD-DA) と MP3/WMAファイルが混在しているときは、ディスクに記録する方法によって再生される内容が異なります。

再生するとき

- 1 電源ポジションをACCまたはONにします。
- 2 CDラベル面を上にして、CD差し込み口に軽く押し込みます。CDが自動的に送り込まれ、再生を始めます。CDが入っているときは、[φ SRC] ボタンを押して“DISC” (CDモード) に切り替えると再生を始めます。
- 3 再生を止めるときは [φ SRC] ボタンを1秒以上押します。(もう一度押すと再生できます。)



知識

- 8cmCDは再生できません。
- CDが入っていないときは、CDモードには切り替わりません。
- (MP3/WMA CD)
再生はフォルダ番号の順に行なわれます。MP3/WMAファイルがないフォルダはスキップされます。

一時停止

一時停止するときは **[BND]** ボタンを押します。
もう一度押すと再生できます。

CDを取り出すとき

- 1 **[▲]** ボタンを押します。
- 2 CDの端を持って取り出します。

フォルダを選択するとき (MP3/WMA CD再生中)

- 1 前のフォルダを選択するときは **[1]** ボタン、次のフォルダを選択するときは **[2]** ボタンを押します。
- 2 選択したフォルダから曲を選択するときは、**[◀]** ボタンと **[▶]** ボタンを押します。

フォルダから曲を探るとき (MP3/WMA CD再生中)

フォルダ内の曲を表示させて、聞きたい曲を選択することができます。

- 1 **[MENU]** ボタンを押します。表示部に“FOLDER SCH”が表示されます。
- 2 **[ROTARY]** ノブを押します。再生中のフォルダが表示されます。
- 3 **[ROTARY]** ノブをまわして、聞きたいフォルダを選択します。

- 4 **[ROTARY]** ノブを押します。フォルダ内の曲が表示されます。
- 5 **[ROTARY]** ノブをまわして、聞きたい曲を選択します。
- 6 **[ROTARY]** ノブを押します。再生が始まります。

早送り/早もどしをするとき

- 1 早送りをするときは **[▶▶]** ボタン、早もどしをするときは **[◀◀]** ボタンを押し続けます。
- 2 ボタンから手をはなすと、その位置から再生を始めます。



知識

- **[◀◀]** ボタンを押し続けても前の曲にはもどらず、再生中の曲の頭から再生を始めます。
- (MP3/WMA CD)
VBR (可変ビットレート) を利用して録音されたファイルを再生しているときは、早送り/早もどしをするときに再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

曲の頭出しをするとき

再生中の曲の頭にもどしたいときは **[◀◀]** ボタン、次の曲の頭に進めたいときは **[▶▶]** ボタンを軽く押します。

4.快適カーライフのために

オーディオ

同じ曲をくり返して聞くと

再生中、[6] ボタンを押すごとに、次のようにモードが切り替わります。

モード	状況
RPT ONE	再生中の曲をくり返して再生します。 表示部に“RPT ONE”が2秒間表示され、“↺”が表示されます。
RPT FOLDER*1	再生中のフォルダ内の曲をくり返して再生します。 表示部に“RPT FOLDER”が2秒間表示され、“FOLDER”と“↺”が表示されます。
RPT ALL	通常の再生にもどります。 表示部に“RPT ALL”が2秒間表示され、“FOLDER”と“↺”の表示が消えます。

*1 MP3/WMA CD再生中のときのみ表示されます。

ランダム選曲をするとき

CD内の曲をランダム (無作為) に選曲し、再生することができます。

再生中、[4] ボタンを押すごとに、次のようにモードが切り替わります。

モード	状況
RDM FOLDER*1	再生中のフォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。 表示部に“RDM FOLDER”が2秒間表示され、“FOLDER”と“>↺”が表示されます。
RDM ALL	CD内の曲をランダムな順序で再生します。 表示部に“RDM ALL”が2秒間表示され、“>↺”が表示されます。
RDM OFF	通常の再生にもどります。 表示部に“RDM OFF”が2秒間表示され、“>↺”の表示が消えます。

*1 MP3/WMA CD再生中のときのみ表示されます。



知識

電源のON/OFFにかかわらず、リピート機能やランダム機能の設定は変わりません。

曲を探すとき

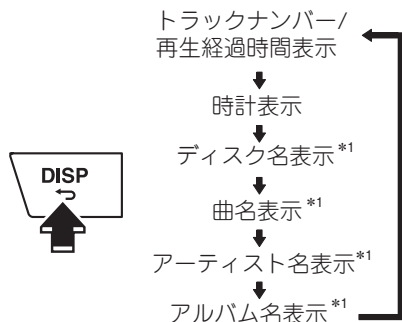
音楽CDまたはMP3/WMA CD内のすべての曲を10秒間ずつ再生し、曲を探すことができます。

- 1 再生中に **[5]** ボタンを押すと、次の曲の頭から順に10秒間ずつ再生されます。表示部に“SCAN ALL”が2秒間表示され、“SCN”が表示されます。
- 2 曲が再生されているときにもう一度 **[5]** ボタンを押します。その曲の再生がそのまま続きます。

表示を切り替えるとき

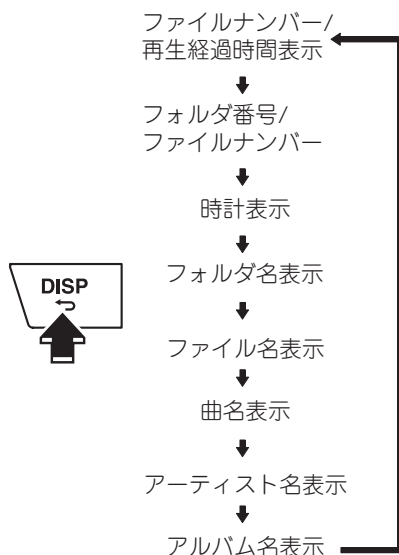
再生中、**[DISP]** ボタンを押すごとに、次のように表示部が切り替わります。

音楽CD



*1 CDによっては情報が表示されない場合があります。

MP3/WMA CD



知識

- タイトルが長く、表示部に最後まで表示されていないときは、**[DISP]** ボタンを約1秒間押してください。タイトルが1回スクロール表示されます。
- 表示部に表示できる情報がCDに記録されている場合のみ、CDの情報が表示されます。
- 本機の表示は半角英数字に対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、その文字を“*”に置き換えて表示します。

4.快適カーライフのために

オーディオ

メッセージが表示されたときは

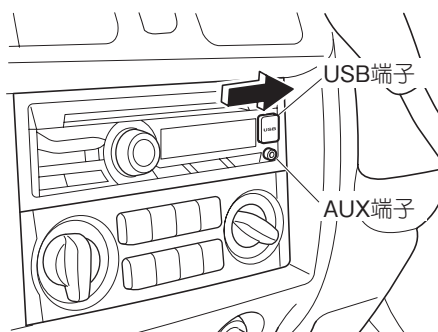
次のメッセージ以外が表示されたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

エラー表示	原因	対処方法
CD MECHA ER-ROR	CDメカ不具合	ディスクを取り出し、入れ直してください。
DISC ERROR	ディスクに傷などがある	キズやソリのないディスクと交換してください。
	ディスクを裏返しに入れている	ディスクを取り出し、正しく入れ直してください。
NO FILE	MP3/WMAのファイルが入っていない ディスクを入れている	録音されているディスクと交換してください。

ポータブルオーディオ機器を使用いただくために★

AUXモードでは、市販のポータブルオーディオをAUX端子に接続することで、車両のスピーカーで音声を聞くことができます。

また、USBモードやiPodモードでは、USB機器やiPodをUSB端子に接続することで、車両のオーディオ機器で再生することができます。



警告

■ 車を止めてから操作する。

走行中の操作は、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ AUX端子に接続したコードがパーキングブレーキレバーやチェンジレバーに絡まないようにする。

運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ USB機器をUSB端子に接続するときは、別売の延長USBケーブル(CCA-755-500)を使用する。

直接接続すると突起物となり、運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

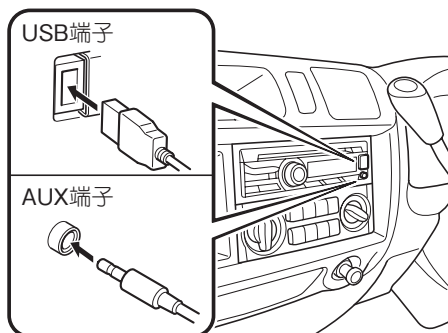
- 使用しないときは、必ずUSB端子のカバーを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。
- プラグを接続した状態で、プラグに大きな力を加えないでください。AUX端子が破損するおそれがあります。
- エンジンをかけてからUSB機器を接続してください。USB機器が故障することがあります。

4.快適カーライフのために オーディオ

知識

- 接続する機器によっては、使用できない場合があります。
- ご使用前に、市販のポータブルオーディオの取扱書をよくお読みください。
- ポータブルオーディオをAUX端子に接続するための接続コードは、市販の抵抗なしのステレオミニプラグ (3.5Φ) を使用してください。ご使用前に接続コードの取扱書をよくお読みください。
- iPod/iPhoneをUSB端子に接続するときは、iPod/iPhoneに付属されている接続ケーブルを使用してください。
- エンジンを止めたままで、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 接続する機器によっては、ノイズが発生することがあります。
- 接続する機器の電源は、ポータブルオーディオ機器のバッテリーなどを使用してください。
- プラグはAUX/USB端子に確実に差し込んでください。

接続のしかた

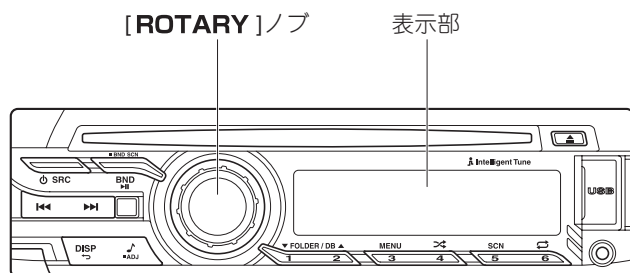


知識

プラグの抜き差しは、AUX/USB端子の穴に対して垂直に行なってください。



AUXの使いかた



- 1 電源ポジションをACCまたはONにします。
- 2 [**φ SRC**] ボタンを押して電源を入れます。
- 3 [**φ SRC**] ボタンを押して“AUX” (AUXモード) を選択します。

知識

- 音量調節は、ポータブルオーディオ本体およびオーディオユニットで行ないます。
- 音量調節以外の操作は、ポータブルオーディオ本体で行ないます。オーディオユニットでは操作できません。
- AUXモード中にAUX端子からコードを抜いたり、接続している機器側のプラグを抜くとノイズが発生することがあります。

AUX入力音量を設定する

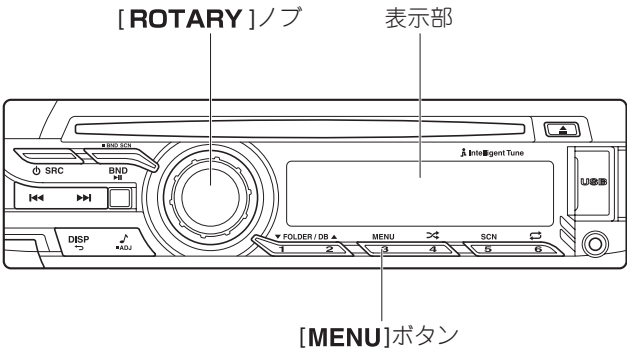
AUX端子に接続された市販のポータブルオーディオから入力される音声の音量を設定することができます。

状況に応じて好みのモードを選択してください。初期設定はMIDです。

モード	状況
LOW	入力音量が大きく音割れなどが発生しているとき
MID	入力音量が適切なとき
HIGH	入力音量が小さいとき

- 1 [] ボタンを約1秒間押します。
- 2 [], [] ボタン を押して
“AUX SENS” を選択します。
- 3 [**ROTARY**] ノブをまわして、モードを選択します。
- 4 [**DISP**] ボタンを押すと、もとの表示にもどります。

USBの使いかた



タイプ	再生できるデータ
USBモード	MP3/WMAファイル

本機は、USB1.1/USB2.0の機器に対応しています。また、その他の機器も、機種やOSのバージョンによっては、対応していない場合があります。

再生するとき

- 1 電源ポジションをACCまたはONにします。
- 2 [ SRC] ボタンを押して電源を入れます。
- 3 [ SRC] ボタンを押して“USB” (USBモード) に切り替えると、再生を始めます。

- 4 再生を止めるときは[ SRC] ボタンを1秒以上押します。(もう一度押すと再生できます。)



知識

- USB機器が接続されていないときは、USBモードには切り替わりません。
- USB機器を認識しないときは、**[SRC]** ボタンを押して、もう一度“USB”を選択してください。
- スマートフォンなどの一部の機器は、USB接続による操作ができるように設定を変更してください。
- 2つ以上のドライブで構成されているUSB機器は、どちらか一方のドライブを認識します。
- USB機器内の曲数によっては、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- 再生はフォルダ番号の順に行なわれます。MP3/WMAファイルがないフォルダはスキップされます。
- 再生中に**[SRC]** ボタンを押して、もう一度“USB”を選択すると、前回停止したところから再生が始まります。
- USBモード中にUSB機器を取りはずさないでください。データが破損するおそれがあります。

一時停止

一時停止をするときは**[BND]** ボタンを押します。
もう一度押すと再生できます。

フォルダを選択するとき

- 1 再生しているフォルダの前のフォルダを選択するときは**[1]** ボタン、次のフォルダを選択するときは**[2]** ボタンを押します。
- 2 選択したフォルダから曲を選択するときは、**[◀]** ボタンと**[▶]** ボタンを押します。

フォルダから曲を探すとき

フォルダ内の曲を表示させて、聞きたい曲を選択することができます。

- 1 **[MENU]** ボタンを押します。表示部に“FOLDER SCH”が表示されます。
- 2 **[ROTARY]** ノブを押します。再生中のフォルダが表示されます。
- 3 **[ROTARY]** ノブをまわして、聞きたいフォルダを選択します。
- 4 **[ROTARY]** ノブを押します。フォルダ内の曲が表示されます。
- 5 **[ROTARY]** ノブをまわして、聞きたい曲を選択します。
- 6 **[ROTARY]** ノブを押します。再生が始まります。

早送り/早もどしをするとき

- 1 早送りをするときは**[▶▶]** ボタン、早もどしをするときは**[◀◀]** ボタンを押します。
- 2 ボタンから手をはなすと、その位置から再生を始めます。



知識

- **[◀◀]** ボタンを押し続けても前の曲にはもどらず、再生中の曲の頭から再生を始めます。
- VBR (可変ビットレート) を利用して録音されたファイルを再生しているときは、早送り/早もどしをするときに再生経過時間が正しく表示されないことがあります。

曲の頭出しをするとき

再生中の曲の頭にもどしたいときは**[◀◀]** ボタンを押します。

4.快適カーライフのために

オーディオ

次の曲の頭に進めたいときは **[▶▶]** ボタンを押します。

同じ曲をくり返して聞くと

再生中、**[6]** ボタンを押すごとに、次のようにモードが切り替わります。

モード	状況
RPT ONE	再生中の曲をくり返して再生します。 表示部に“RPT ONE”が2秒間表示され、“  ”が表示されます。
RPT FOLDER	再生中のフォルダ内の曲をくり返して再生します。 表示部に“RPT FOLDER”が2秒間表示され、“  ”と“  ”が表示されます。
RPT ALL	通常の再生にもどります。 表示部に“RPT ALL”が2秒間表示され、“  ”と“  ”の表示が消えます。

ランダム選曲をするとき

USB内の曲をランダム（無作為）に選曲し、再生することができます。

再生中、**[4]** ボタンを押すごとに、次のようにモードが切り替わります。

モード	状況
RDM FOLDER	再生中のフォルダ内の曲をランダムな順序で再生します。 表示部に“RDM FOLDER”が2秒間表示され、“  ”と“  ”が表示されます。
RDM ALL	USB機器内の曲をランダムな順序で再生します。 表示部に“RDM ALL”が2秒間表示され、“  ”が表示されます。
RDM OFF	通常の再生にもどります。 表示部に“RDM OFF”が2秒間表示され、“  ”の表示が消えます。



知識

電源のON/OFFにかかわらず、リピート機能やランダム機能の設定は変わりません。

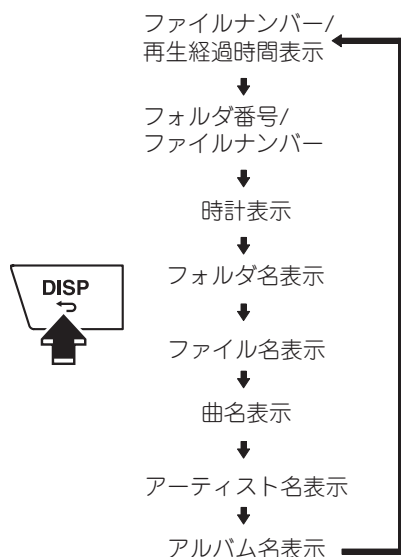
曲を探すとき

USB機器内のすべての曲を10秒間ずつ再生し、曲を探すことができます。

- 1
- 再生中に **[5]** ボタンを押すと、次の曲の頭から順に10秒間ずつ再生されます。表示部に“SCAN ALL”が2秒間表示され、“SCN”が表示されます。
- 2
- 曲が再生されているときにもう一度 **[5]** ボタンを押します。その曲の再生がそのまま続きます。

表示を切り替えるとき

再生中、[DISP] ボタンを押すごとに、次のように表示部が切り替わります。



知識

- タイトルが長く、表示部に最後まで表示されていないときは、[DISP] ボタンを約1秒間押すと、タイトルが1回スクロール表示されます。
- 表示できる情報がUSB機器に記録されている場合のみ、表示部にUSB機器の情報が表示されます。
- 本機の表示は半角英数字に対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、その文字を“*”に置き換えて表示します。

4.快適カーライフのために オーディオ

メッセージが表示されたときは

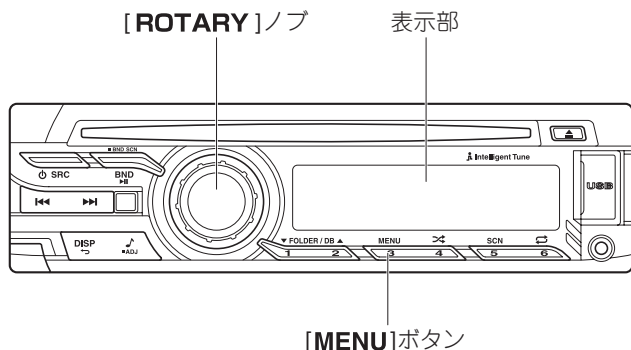
次のメッセージ以外が表示されたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

エラー表示	原因	対処方法
DEVICE NO RESPONSE	FAT12、FAT16、FAT32以外のフォーマット形式でフォーマットされたUSB機器を使用している。 または、USB機器が破損している。	FAT12、FAT16、FAT32のフォーマット形式にフォーマットし直してください。
NO DEVICE	USB機器が接続されていない、または認識できない	対応しているUSB機器を接続してください。
NO FILE	MP3/WMAのファイルが入っていないUSB機器を使用している	MP3/WMAファイルが保存されたUSB機器を接続してください。
HUB NOT SUPPORT	USBハブを使用して接続している	USBハブを使用せずに接続してください。
DEVICE NOT SUPPORT	対応していないUSB機器を接続している	別のUSB機器と交換してください。



4.快適カーライフのために オーディオ

iPod/iPhoneの使いかた



機種やOSのバージョンによっては、対応していない場合があります。

再生するとき

- 1 電源ポジションをACCまたはONにします。
- 2 [**⏻ SRC**] ボタンを押して電源を入れます。
- 3 [**⏻ SRC**] ボタンを押して“iPod” (iPodモード) に切り替えると、iPod/iPhoneで再生していた曲から再生を始めます。
- 4 再生を止めるときは [**⏻ SRC**] ボタンを1秒以上押します。(もう一度押すと再生できます。)

知識

- iPod/iPhoneが接続されていないときは、iPodモードには切り替わりません。
- iPodモード中にiPod/iPhoneを取りはずさないでください。データが破損するおそれがあります。
- iPod/iPhoneでビデオを再生していたときは、音声のみが再生されます。

一時停止

一時停止をするときは [**BND**] ボタンを押します。
もう一度押すと再生できます。

聞きたいリストを選択するとき

今聞いているリストの前のリストを選択するときは **[1]** ボタン、次のリストを選択するときは **[2]** ボタンを押します。

iPodメニューモードで曲を選択するとき

カテゴリーから聞きたい曲を選択できます。

- 1 **[MENU]** ボタンを押します。
- 2 **[ROTARY]** ノブをまわして、聞きたいカテゴリーを選択します。
- 3 **[ROTARY]** ノブを押します。選択したカテゴリー内のリストが表示されます。
- 4 リストに従い **[ROTARY]** ノブを使って、聞きたい曲まで選択します。
- 5 **[ROTARY]** ノブを押します。再生が始まります。

知識

- カテゴリーは、PLAYLISTS、ARTISTS、ALBUMS、TRACKS、GENRES、COMPOSERS、AUDIOBOOKS、PODCASTSがあります。
- **[DISP]** ボタンを押すと、一つ前のリストにもどります。
- **[MENU]** ボタンを約2秒間押すと、カテゴリーの表示にもどります。

早送り/早もどしをするとき

- 1 早送りをするときは **[FF]** ボタン、早もどしをするときは **[RR]** ボタンを押し続けます。
- 2 ボタンから手をはなすと、その位置から再生を始めます。

知識

[RR] ボタンを押し続けても前の曲にはもどらず、再生中の曲の頭から再生を始めます。

同じ曲をくり返して聞くととき

- 1 再生中に **[6]** ボタンを押すと、その曲をくり返して再生します。
表示部に“RPT ON”が2秒間表示され、“”が表示されます。
- 2 もう一度押すと解除されます。

ランダム選曲をするとき

iPod/iPhone内の曲をランダムに選曲し、再生することができます。
再生中、**[4]** ボタンを押すごとに、次のようにモードが切り替わります。

モード	状況
RDM ON	再生中のリスト内の曲をランダムな順序で再生します。 表示部に“RDM ON”が2秒間表示され、“  ”が表示されます。
RDM ON ( 表示)	再生中のアーティスト内のアルバムをランダムな順序で再生します。 表示部に“RDM ON”が2秒間表示され、“  ”と“  ”が表示されます。
RDM OFF	通常の再生にもどります。 表示部に“RDM OFF”が2秒間表示され、“  ” “  ”の表示が消えます。

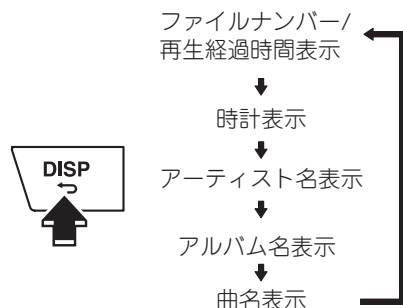


知識

- iPod/iPhoneで設定したリピート機能やランダム機能は、iPod/iPhoneを接続/取りはずしをしたあとも、設定は変わりません。
- (ランダム再生時)
再生中に電源ポジションをOFFにしたあと、すぐにONまたはACCにすると、OFFにする前に再生していた曲とは違う曲から再生が始まります。

表示を切り替えるとき

再生中、[DISP] ボタンを押すごとに、次のように表示部が切り替わります。



知識

- タイトルが長く、表示部に最後まで表示されていないときは、[DISP] ボタンを約1秒間押すと、タイトルが1回スクロール表示されます。
- 表示できる情報がiPod/iPhoneに記録されている場合のみ、表示部にiPod/iPhoneの情報が表示されます。
- 本機の表示は半角英数字に対応しています。それ以外の文字が記録されている場合は、その文字を“*”に置き換えて表示します。

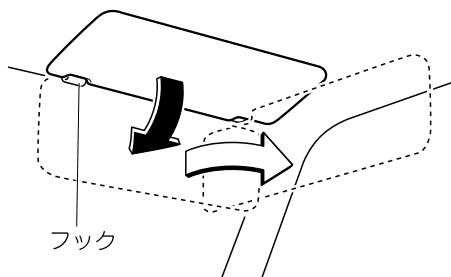
メッセージが表示されたときは

次のメッセージ以外が表示されたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

エラー表示	原因	対処方法
IPDNOCTE	対応していないiPod/iPhoneを接続している	別のiPod/iPhoneと交換してください。
NO FILE	ファイルが入っていないプレイリストを選択している	iPod/iPhoneのプレイリストにファイルを保存してください。
	ファイルが入っていないiPod/iPhoneを接続している	iPod/iPhoneにファイルを保存してください。

サンバイザー

前からの光をさえぎるときは、下げます。
横からの光をさえぎるときは、下げた後フックからはずして横にします。



室内照明

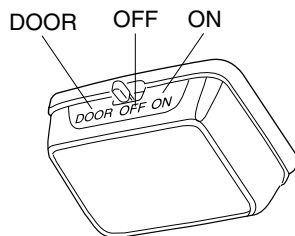
知識

エンジンを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ルームランプ

電源ポジションに関係なく使用できます。

スイッチ位置	ルームランプ
DOOR	ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯
ON	常時点灯



シガーライター

電源ポジションがACCまたはONのとき使用できます。

使用するときは、シガーライターを押し込んで手を離し、もとの位置にもどるまで待ちます。

ヒーター部が熱くなると自動的にもどり、使用できます。



⚠ 注意

- シガーライターの金属部分に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- シガーライターの故障、焼損を防ぐために、次の点を守ってください。
 - ・ シガーライターの差し込み口を純正部品以外の電気製品の電源に使用しないでください。
 - ・ 他車のシガーライターを差し込まないでください。もどらなくなることがあります。
 - ・ シガーライターは押さえたままにしないでください。

📖 知識

30秒以上たってももどらないときは、故障のおそれがあります。手で引き抜き、マツタ販売店で点検を受けてください。

灰皿

⚠ 注意

出火を防ぐために、次の点を守ってください。

- タバコ、マッチなどは完全に火を消してから灰皿に入れ、使用後は確実に閉めてください。
- 紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
- 灰皿本体を引き抜いた状態では灰皿として使用しないでください。

使用するときは、手前に引き出します。
清掃するときは、プレートを押下げて灰皿本体を引き抜きます。



カップホルダー

⚠ 注意

走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。

カップなどを置くことができます。

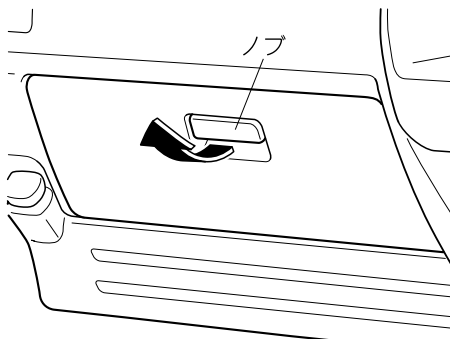


収納

⚠ 注意

- フタ付きの収納は、走行中は必ずフタを閉めてください。急ブレーキ時や衝突時にフタや内部の物でけがをするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、収納スペース内にメガネやライターを放置しないでください。収納スペース内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

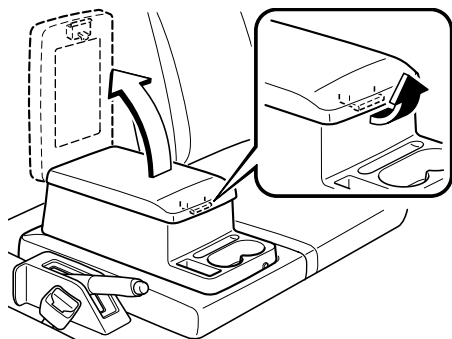
グローブボックス



閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。

センターコンソールボックス (カップホルダー付)

小物などを入れることができます。



MEMO

5 万ーのときは

故障したとき 186

路上で故障したとき 186

踏切内で動けなくなったとき 187

緊急用具の取り扱い 188

発炎筒 188

工具、ジャッキ 189

ジャッキの取り扱い 191

スペアタイヤ 194

パンクしたとき 196

タイヤ交換 196

オーバーヒートしたとき 199

オーバーヒートについて 199

バッテリーがあがったとき 201

バッテリーあがりについて 201

ヒューズ切れ、電球切れのとき 203

ランプ類、電気装置が作動しないとき 203

ヒューズの受け持つ装置 214

けん引について 218

けん引してもらうとき 218

故障車をけん引するとき 219

万ー事故が起きたとき

220

5.万一のときは 故障したとき

路上で故障したとき

一般の道路で動けなくなったときに付近に人がいる場合は救援を求めてください。
チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれ、安全な場所まで押し出します。

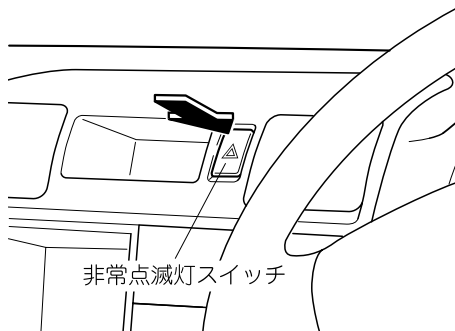


警告

■ 万一、事故や故障などで車から燃料がもれている場合は、すぐにエンジンを止めてください。

爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

- 1 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。

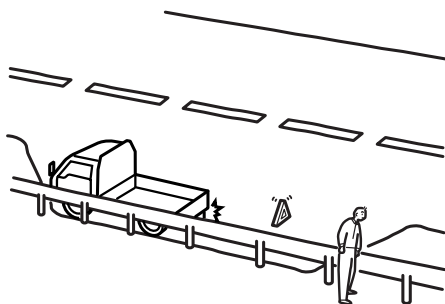


- 2 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。

→188ページ「発炎筒」

- 高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板または停止表示灯を置くことが法律で義務づけられています。
- 停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。

- 3 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。



- 4 安全を確保した後、救援を求めます。
故障の修理などお困りの際はマツダ販売店へ連絡してください。
別冊の「サービス網お客様相談窓口」をご覧ください。



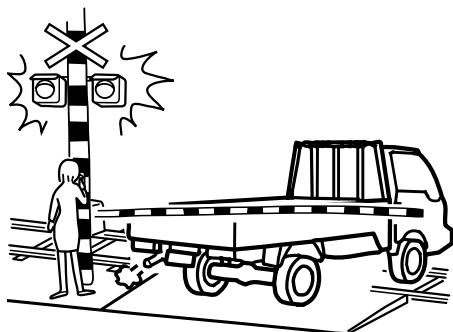
知識

停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

踏切内で動けなくなったとき

脱輪などで動けなくなったとき

- 1 踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→188ページ「発炎筒」



- 2 付近の人に救援を求めます。

エンストで動けなくなったとき

- 1 エンジンをかけ直します。
- 2 エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→188ページ「発炎筒」
- 3 付近の人に救援を求めます。
チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれ、安全な場所まで押し出します。

知識

マニュアル車は、ギヤがはいっている状態でスターターをまわしたときに車が動き出すのを防ぐため、クラッチスタートシステムが装備されています。

→98ページ「クラッチスタートシステム（マニュアル車）」

そのため、ギヤを入れたまま電源ポジションをSTARTにし続けて車を緊急避難させることができません。

発炎筒



警告

■油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しないでください。
火災につながるおそれがあります。

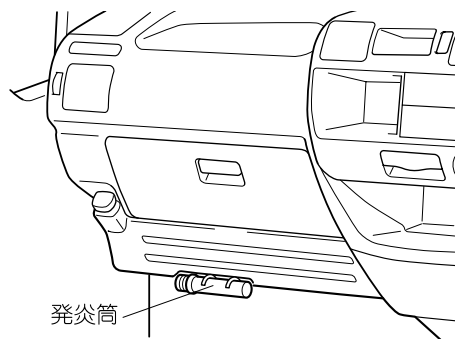
■使用するときは筒先を顔や身体に向けたり近づけたりしないでください。
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

■お子さまにはさわらせないでください。
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

■トンネル内では発炎筒を使用しないでください。
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について

事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

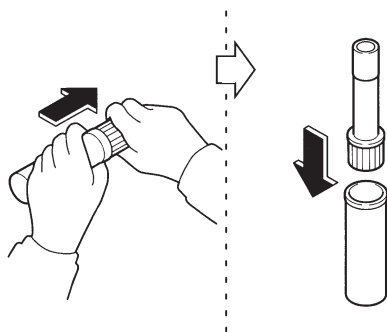


知識

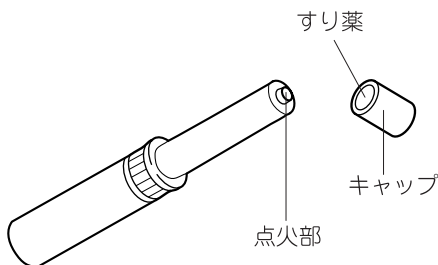
- 発炎筒は点火すると、約5分間燃え続けます。
- 発炎筒には有効期限があります。発炎筒に書いてありますので確認して、有効期限がきる前にマツダ販売店で求めください。

発炎筒の使いかた

- 1 本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



- 2 点火部をキャップの頭部のすり薬でこすると着火します。



工具、ジャッキ



警告

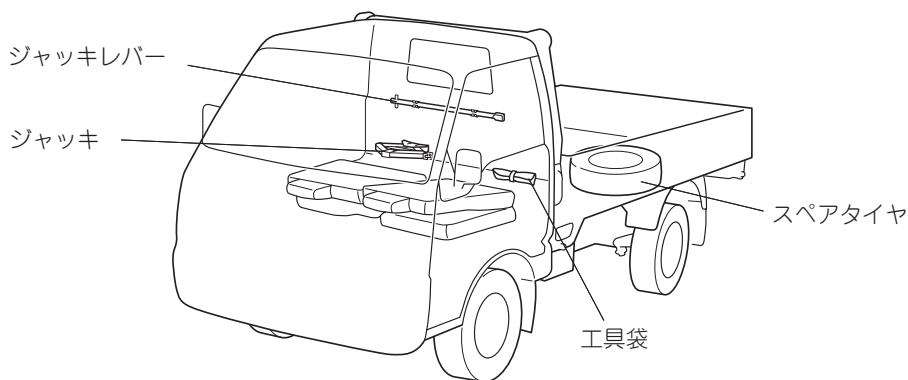
■ 車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。他の車には使用しないでください。また、他の車のジャッキや車に搭載されているジャッキ以外のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。やむをえず、車に搭載されているジャッキ以外を使用するときは、マツダ販売店にご相談ください。



注意

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの取り付け、取りはずし以外に使用しないでください。
- 工具、ジャッキを使用したあとは走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。

工具、ジャッキは図の位置に格納されています。



5.万一のときは 緊急用具の取り扱い

工具の種類

次の工具が格納されています。



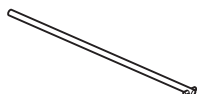
工具袋



ホイールレンチ



ジャッキハンドル



ジャッキレバー

ジャッキの取り扱い

ジャッキアップする前に

- 1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。
- 2 マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいます。
また、4WD車は4WDセレクトレバーを2H、4H、4Lのいずれかにいれてください。
→109ページ「4WDセレクトレバー」
- 3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めます。
- 4 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板 (停止表示灯) を使用します。
- 5 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
→189ページ「工具、ジャッキ」
- 6 輪止めを用意します。



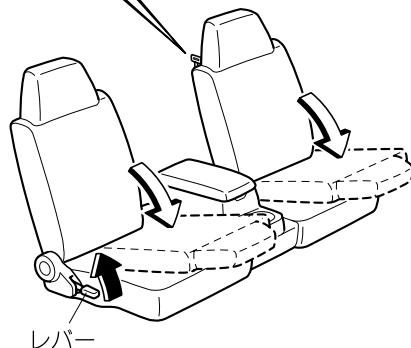
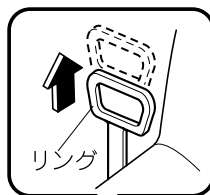
知識

輪止めや停止表示板 (停止表示灯) はお客様のお車に標準で搭載されておられません。

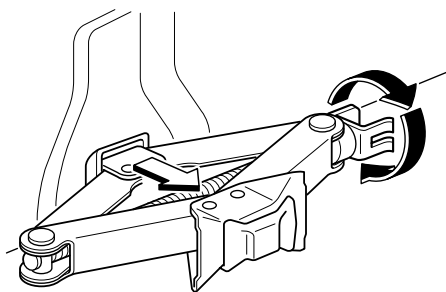
必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

取り出すとき

- 1 シートの背もたれを前に倒します。
→37ページ「角度調節 (リクライニング)」



- 2 ジャッキの図の部分（矢印部分）をゆるめてジャッキを取り出します。



5.万有的时候は 緊急用具の取り扱い

格納するとき

取り出すときと逆の手順で格納場所に固定します。

ジャッキアップするとき

！ 警告

- ジャッキアップするときはマニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいい、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをしてください。

また、4WD車は4WDセレクトレバーを2H、4H、4Lのいずれかにいれてください。

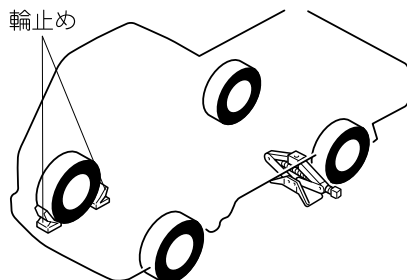
チェンジレバーが1またはR、セレクトレバーがPにはいっていても、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ジャッキアップした状態で車のエンジンをかけないでください。ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

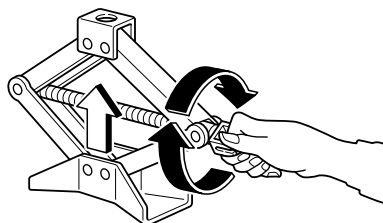
- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

- 前輪をジャッキアップするときは、後輪の前後

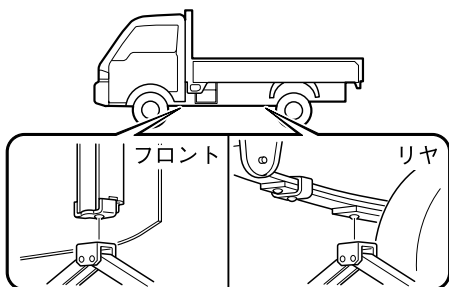
- 後輪をジャッキアップするときは、前輪の前後



- 2 ジャッキを地面に置きます。
- 3 ジャッキの図の部分を手でまわしてジャッキをジャッキアップ指定位置の近くにくるよう調節します。



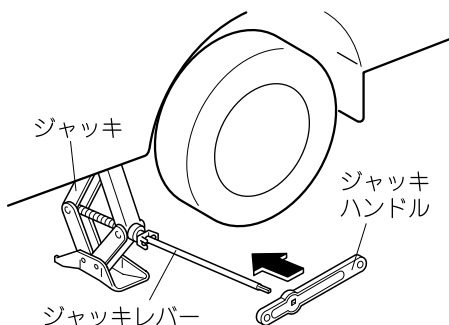
- 4 ジャッキをジャッキアップ指定位置にかけます。



警告

ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。車体に変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

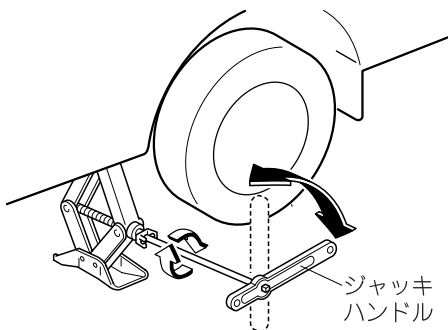
- 5 ジャッキにジャッキレバーをかけジャッキレバーとジャッキハンドルを組み付けます。



知識

ジャッキハンドルはラチェット式です。まわす方向が逆のときは、ジャッキハンドルを裏がえして組み付けます。

- 6 タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。



警告

- 必要以上にジャッキアップしないでください。車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ジャッキアップした車の下には絶対に入らないでください。万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

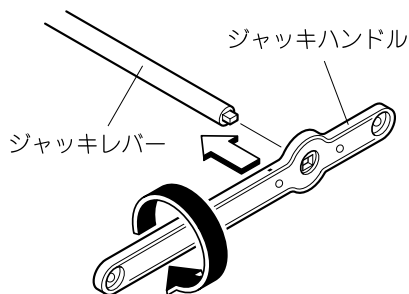
注意

人を乗せたままジャッキアップしないでください。

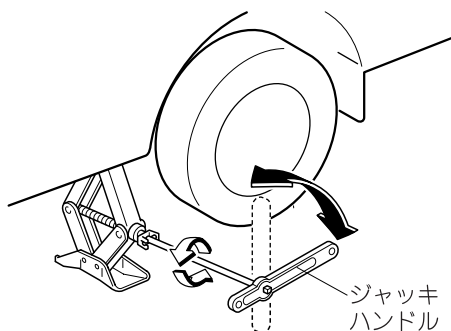
5.万一のときは 緊急用具の取り扱い

ジャッキをおろすとき

- 1 ジャッキハンドルを裏がえしてジャッキレバーに組み付けます。



- 2 ジャッキを下げます。



スペアタイヤ



警告

車に搭載されているスペアタイヤとホイールは、お客様のお車専用のものです。他のタイヤや、ホイールと組み合わせて使用したり、他の車に使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

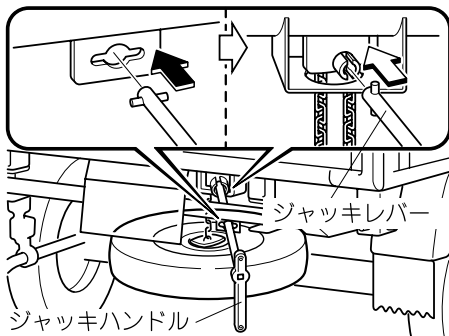


知識

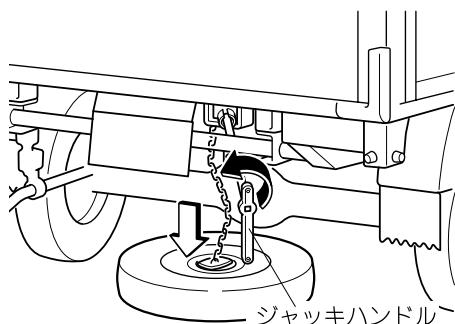
スペアタイヤの空気圧を定期的に点検してください。
適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

取り出すとき

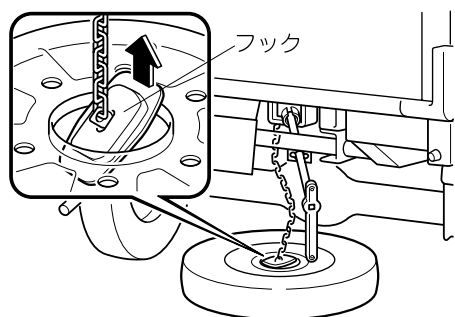
- 1 ジャッキレバーとジャッキハンドルを組み付けて、図の位置に差し込みます。



- ② ジャッキハンドルを左にまわして、スペアタイヤをおろします。



- ③ フックをはずし、スペアタイヤを取り出します。

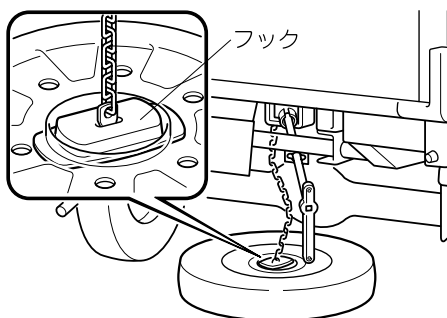


格納するとき

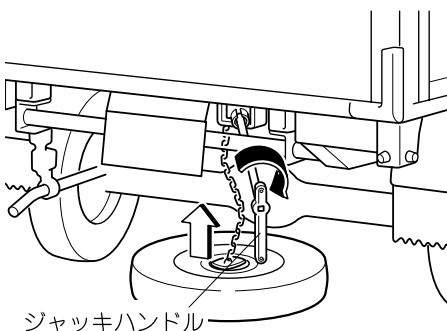
⚠ 警告

タイヤを格納した後は、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中にタイヤが脱落し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ① ホイールの外側を上に向けて、中央穴にフックを組み付けます。



- ② ジャッキレバーとジャッキハンドルを組み付けて図の位置に差し込み、ジャッキハンドルを右にまわして巻き上げます。245N (25kgf) 以上の力で締め付けてください。



- ③ タイヤを軽くゆすって確実に巻き上げられていることを確認します。

タイヤ交換



警告

■ **タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定されたサイズ、同一種類のものを使用してください。**

指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

くわしくはマツタ販売店にご相談ください。

タイヤ交換をする前に

- 1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に車を移動します。
- 2 マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいます。
また、4WD車は4WDセレクトレバーを2H、4H、4Lのいずれかにいれてください。
→109ページ「4WDセレクトレバー」
- 3 ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけエンジンを止めます。
- 4 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板(停止表示灯)を使用します。
- 5 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出します。
→189ページ「工具、ジャッキ」
→194ページ「スペアタイヤ」
- 6 輪止めを用意します。



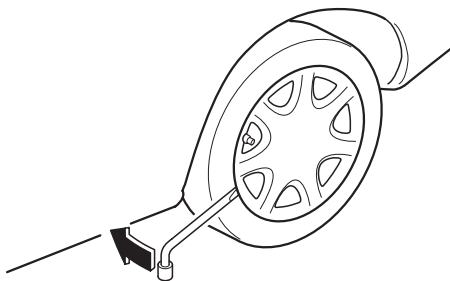
知識

輪止めや停止表示板(停止表示灯)はお客様のお車に標準で搭載されておられません。

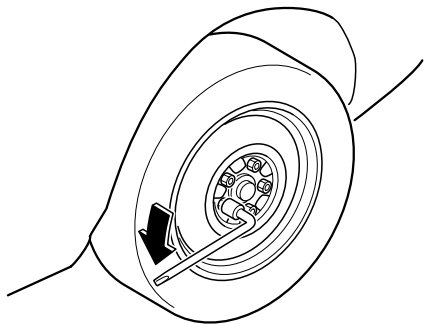
必要に応じてマツタ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

タイヤの取りはずし

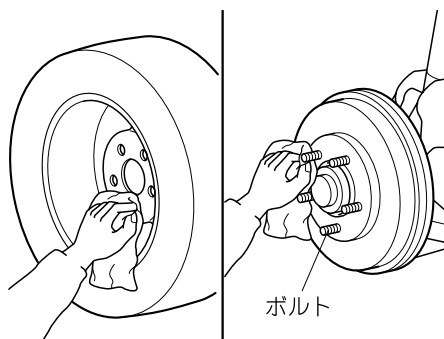
- 1 ホイールキャップ装着車はホイールとホイールキャップの間にホイールレンチの端を入れ、図のようにこじりながらホイールキャップをはずします。



- 2 ホイールレンチでナットを左に約1回転まわしてゆるめます。



- 3 タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。
→192ページ「ジャッキアップするとき」
- 4 ナットをはずし、タイヤを取りはずします。
- 5 ボルトとホイール裏側の接触面に付着している汚れを布などでふき取ります。



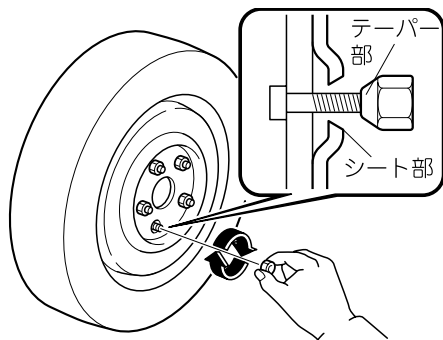
警告

■ ボルトやホイール裏側の接触面が汚れていないことを確認してください。

ボルトやホイール裏側の接触面がホコリなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみタイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤの取り付け

- 1 タイヤをスペアタイヤに取り替えます。
- 2 タイヤを取り付けてから、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたる程度まで、ナットを右にまわして仮締めします。



警告

ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤがはずれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

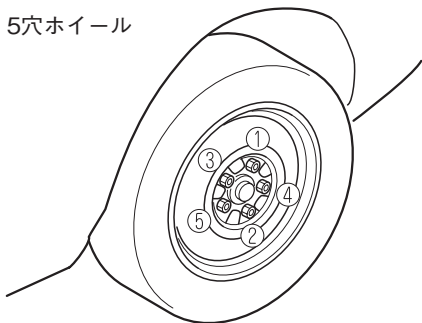
- 3 ジャッキを縮めて、車をおろします。
→194ページ「ジャッキをおろすとき」
- 4 ホイールレンチで図の番号順にナットを2～3回分けて締め付けます。

ナットの締め付けトルク:

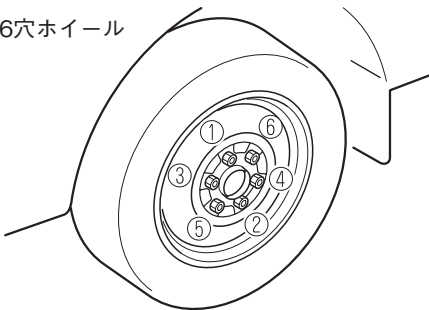
N・m (kgf・m)
89～117 (9～12)

5.万一のときは パンクしたとき

5穴ホイール



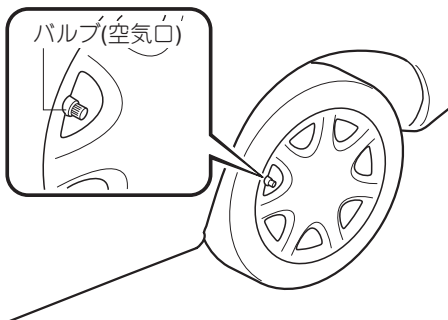
6穴ホイール



注意

ホイールレンチを足で踏んでナットを必要以上に締め付けないでください。ボルトが破損するおそれがあります。

- [5] ホイールキャップ装着車は取り付けたいタイヤにホイールキャップを取り付けます。
バルブ（空気口）とホイールキャップの切り欠きを合わせて取り付けます。



タイヤを交換した後は

- [1] 交換したタイヤは、スペアタイヤの格納場所に格納します。
→195ページ「格納するとき」
- [2] 輪止めをはずし、工具、ジャッキを格納します。
→189ページ「工具、ジャッキ」



知識

- タイヤを交換してから約1,000km走行した後に、ナットにゆるみがないことを確認してください。
- タイヤの交換後はホイールバランスが狂うことがあります。走行中に車体の振動などの異常を感じたら、マツダ販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートについて

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針がH付近を示し、エンジンの出力が急に低下したとき。
- エンジンルームから蒸気が出ているとき。

警告

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンカバーを開けないでください。
エンジンルーム内が熱いとき、エンジンカバーを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。エンジンカバーを開けるときは十分に注意してください。



- エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けないでください。エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



- エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れないようにしてください。手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

処置方法

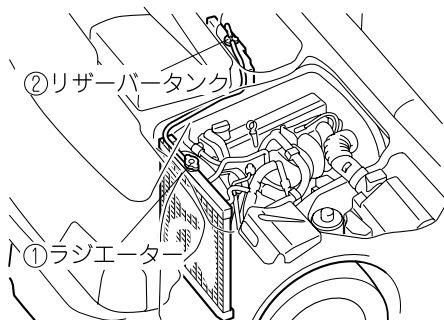
- 1 安全な場所に車を止めます。
- 2 エンジンカバーを開けます。
→70ページ「エンジンカバー」
- 3 サービスホールカバーを開けます。
→71ページ「サービスホールカバー」
- 4 エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。
エンジンルームから蒸気が出ていないときは
エンジンをかけたまま、窓ガラスを開けて風通しをよくし、エンジンカバーを開け、エンジンを冷やします。
エンジンルームから蒸気が出ているときは
エンジンを止めてください。窓ガラスを開けて風通しをよくし、蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにエンジンカバーを開け、エンジンを始動してください。
- 5 クーリングファンが作動していることを確認し、水温計の針が下がってきたらエンジンを止めます。

注意

クーリングファンが作動していないときは、エンジン温度がさらに上昇します。ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

オーバーヒートしたとき

- ⑥ エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検します。量が不足しているときは① ラジエーター ② リザーバータンクの順に冷却水を補充してください。補充後はキャップを確実に取り付けてください。



警告



✓ エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けないでください。エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



知識

- 冷却水がない場合は、一時的に水を補充してください。
一時的に水だけを補充したときは、冷却水の濃度をもとにもどしてください。
- 冷却水を補充しても少なくなるときは、冷却水のもれが考えられます。早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

バッテリーあがりについて

次のような状態はバッテリーあがりです。

- スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- ランプ類がいつもより極端に暗い。



警告

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

■ バッテリーを取り扱うときは必ず保護メガネを着用してください。

バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

■ バッテリーを取り扱うときはバッテリー液をこぼさないでください。

バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

■ バッテリーの近くでお子さまを遊ばせないでください。

バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。

■ バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけないでください。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、+ 端子や- 端子に工具などの金属部分が触れないようにしてください。また、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、+ 端子がボディーや- 端子に触れないように十分注意してください。

■ 換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわないでください。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

■ ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ずバッテリー液の量を点検してください。

バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

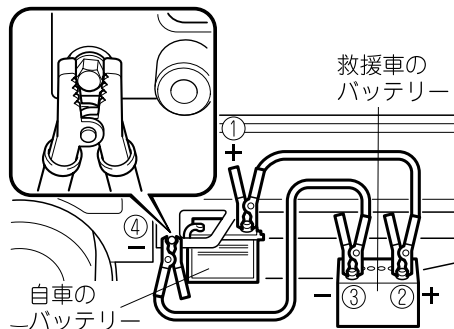
処置方法

押しがけによる始動はできません。

別売のブースターケーブルを使用して、救援車（他の車）のバッテリーと自車のバッテリーを接続してエンジンをかけます。

自車と同じ12Vバッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

- ① 自車のバッテリーと救援車のバッテリーが一番近い位置になるように、車を移動させます。
- ② ヘッドランプやエアコンなどの電源が切てあることを確認します。
- ③ 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
ブースターケーブルを接続する前に各バッテリーの端子（+、-）の位置を確認してください。
1本目
① 自車のバッテリーの+ 端子
② 救援車のバッテリーの+ 端子
2本目
③ 救援車のバッテリーの- 端子
④ 図で表示の箇所（アースを取る）



警告

バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけないでください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
また、火花の発生を防ぐため次の点を必ず守ってください。

- ④ の接続は自車バッテリーの一端子につながらないでください。
- ブースターケーブルの接続、取りはずし
のときは、+ 端子がボディーや- 端子
に触れないように十分注意してください。

- ④ 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。
- ⑤ 自車のエンジンをかけます。約3分間エンジンを回転させて、応急的に自車のバッテリーを充電します。



警告

充電中はバッテリーに近づかないでください。バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

- ⑥ ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。
- ⑦ 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。



知識

バッテリーがあがりやすいときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

ランプ類、電気装置が作動しないとき

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。

まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。



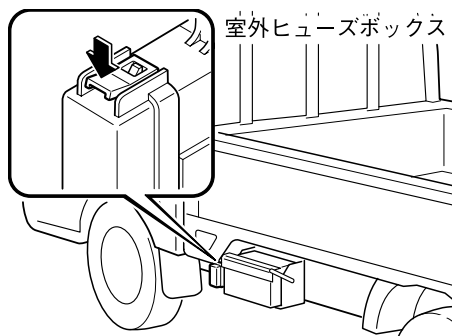
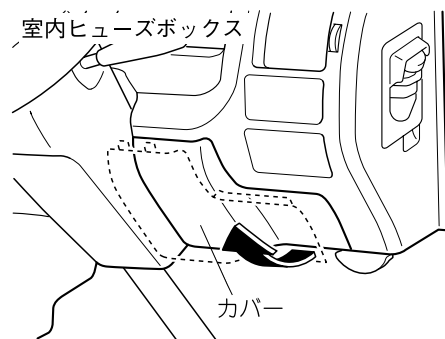
知識

ヒューズは電気装置を過負荷から保護する働きをしています。

ヒューズの交換

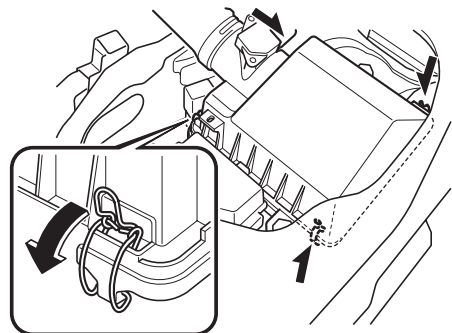
1. 電源ポジションをOFFにします。
2. ヒューズボックスのカバーを開きます。
ヒューズボックスは運転席右下、バッテリー付近、およびエンジンルーム内にあります。

室内ヒューズボックス、室外ヒューズボックス

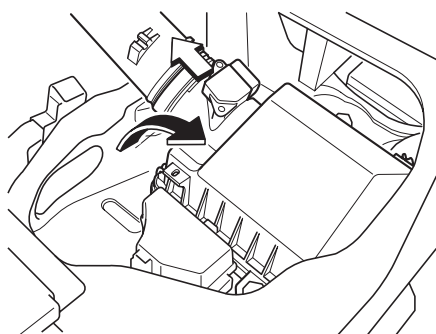


エンジンルーム内ヒューズボックス

- 1) クリップをはずします。

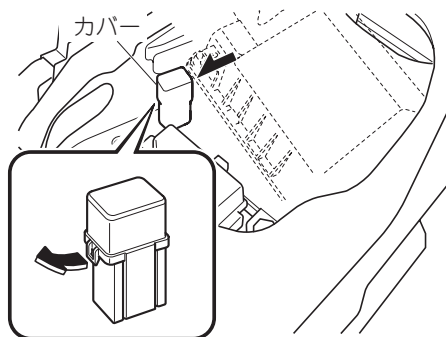


- 2) エアクリーナーカバーを持ち上げ、スペースを作ります。



5.万有的时候は ヒューズ切れ、電球切れのとき

- 3) 矢印の方向にカバーを引き、カバーを取りはずします。



3. ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。

→214ページ「ヒューズの受け持つ装置」

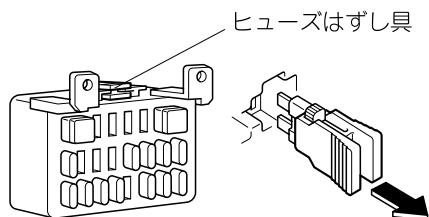


知識

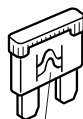
各ヒューズはグレードや仕様により無い場合があります。

4. ヒューズを抜き取ります。

室内ヒューズボックス



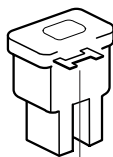
5. ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換します。



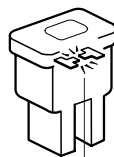
切れていない場合



切れている場合



切れていない場合



切れている場合



警告

規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しないでください。

配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。



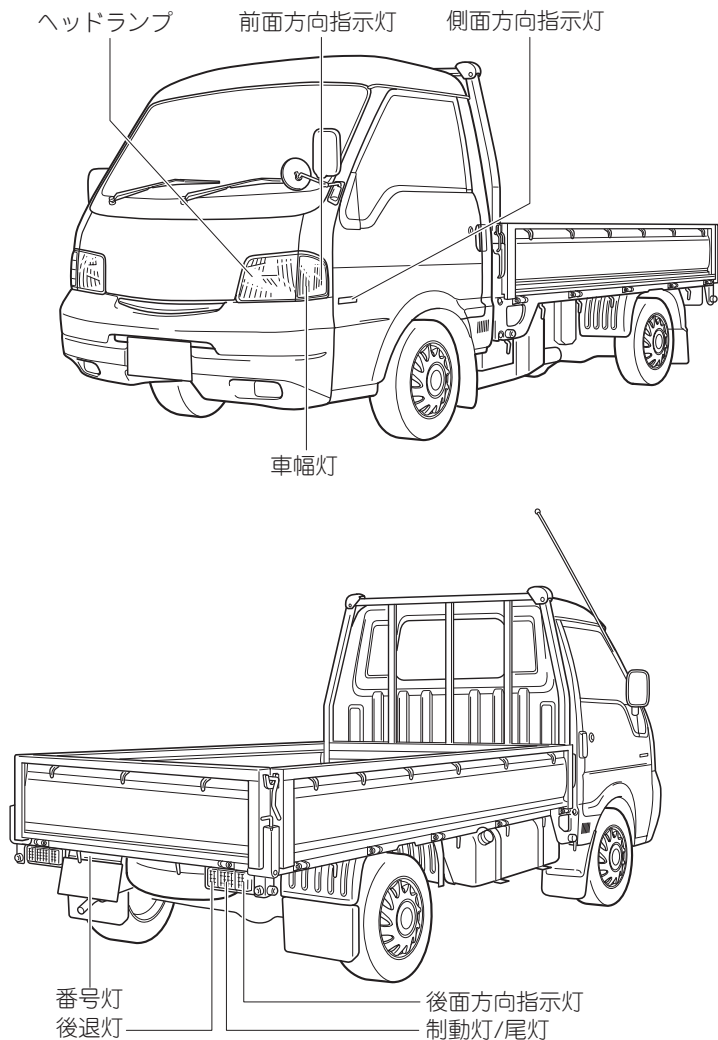
知識

- ヒューズが切れていないとき、またはヒューズを交換してもランプ類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。電球を点検し、切れているときは、マツタ販売店で交換してください。
- ヒューズが切れていないとき、またはヒューズを交換しても電気装置が作動しないときは、マツタ販売店で点検を受けてください。
- ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツタ販売店で点検を受けてください。

6. カバーをもとにもどし、確実に取り付けられていることを確認します。

5.万一のときは ヒューズ切れ、電球切れのとき

電球 (バルブ) の交換



ヒューズが切れていないのにランプ類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。電球を点検し、切れているときは交換してください。記載されていない電球の交換については、マツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。
- 電球および電球固定具の取り付けは確実に行ってください。確実に取り付けされていないと、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- ハロゲン球はガラス内部の圧力が高いため、落したり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛散するおそれがあります。取り扱いには十分注意してください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

📖 知識

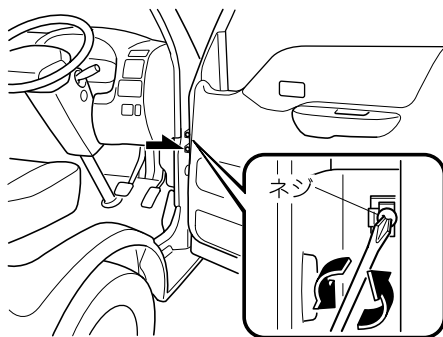
- ハロゲン球を素手で触れてはいけませんが、万一、誤ってハロゲン球に触れてしまったときは、水で薄めた中性洗剤（約5%）をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ってください。
- 必ず同じW数の電球を使用してください。
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水 droplet がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ

📖 知識

ヘッドランプの交換作業を行ったあとは、必ずマツダ販売店で光軸の点検を受けてください。

- 1 フロントドアを開けます。
- 2 ドアと車両の間のネジを取りはずします。



5.万有的时候は ヒューズ切れ、電球切れのとき



注意

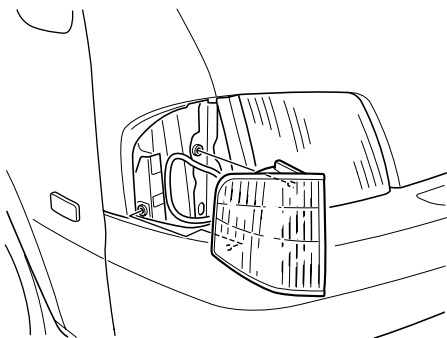
作業するときは、ドアが閉まらないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。



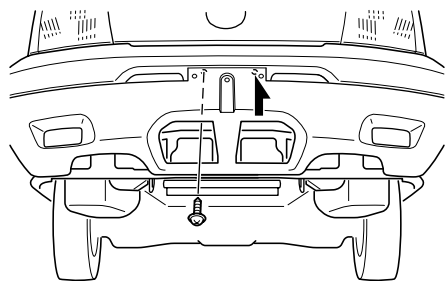
知識

磁化されたドライバーなどを使用して、ネジを落とさないように注意してください。

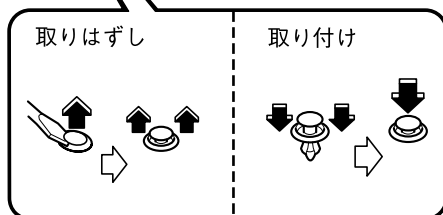
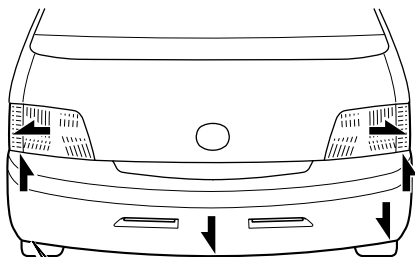
- ③ ユニットを取りはずします。



- ④ フロントバンパーを固定しているネジをはずします。

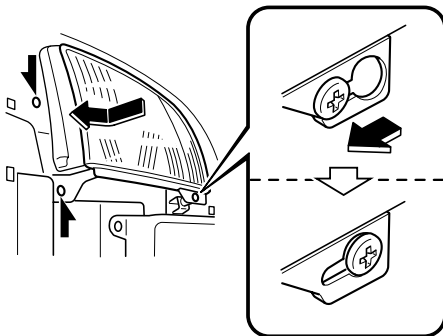


- ⑤ フロントバンパーを固定しているファスナーを取りはずします。



- ⑥ フロントバンパーを取りはずします。

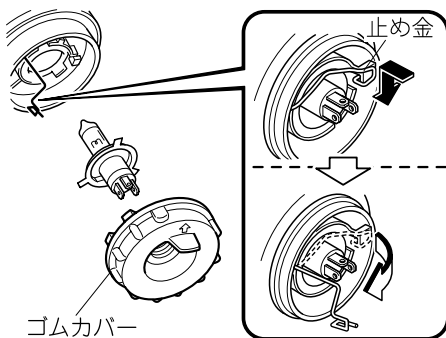
- ⑦ ヘッドランプを車両後方へ押したまま車両外側へスライドさせ、取りはずします。



- ⑧ ヘッドランプからコネクターを取りはずします。

- ⑨ ゴムカバーを取りはずします。

- 10 止め金をはずし、電球を抜き取ります。

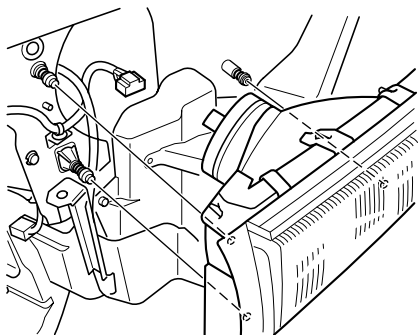


- 11 電球を取り換えます。

- 12 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

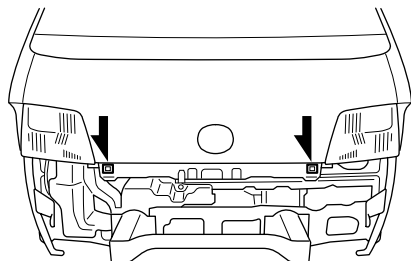
知識

- ギョムカバーを取り付けるときは、↑印が上にくるように取りつけてください。
- ヘッドランプを取り付けるときは、ヘッドランプを車両後方へ押したまま車両内側へスライドさせてください。



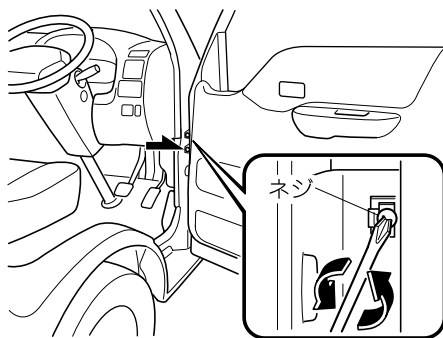
知識

- フロントバンパーを取り付けるときは、位置決め用の突起を車両側の穴へ差し込み、フロントバンパーを取りつけてください。



前面方向指示灯、車幅灯

- 1 フロントドアを開けます。
- 2 ドアと車両の間のネジを取りはずします。



注意

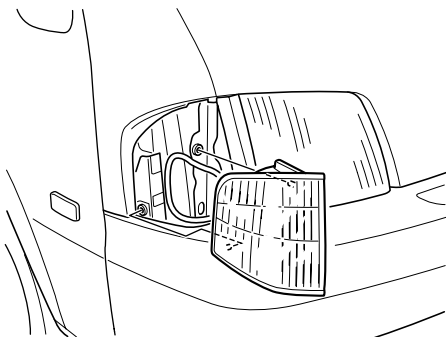
作業するとき、ドアが閉まらないように注意してください。万一、手などをさはむと、けがをするおそれがあります。

5.万有的时候は ヒューズ切れ、電球切れのとき

知識

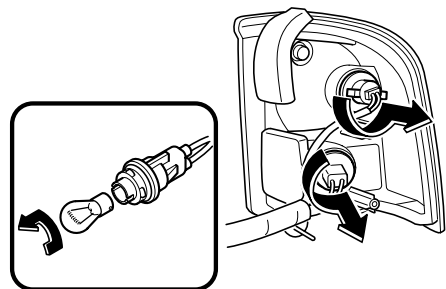
磁化されたドライバーなどを使用して、ネジを落とさないように注意してください。

- ③ ユニットを取りはずします。



- ④ ソケットをまわして取りはずします。

- ⑤ ソケットから電球を取りはずします。

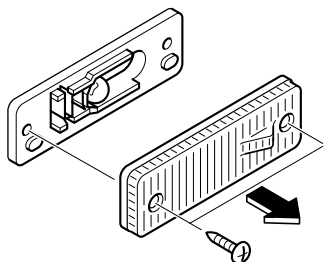


- ⑥ 電球を取り換えます。

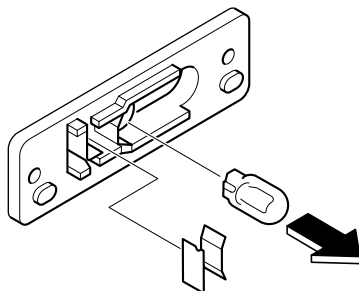
- ⑦ はずした手順と逆の手順で取り付けます。

側面方向指示灯

- ① ネジをはずし、レンズを取りはずします。



- ② 反射板を取りはずし、電球を取りはずします。



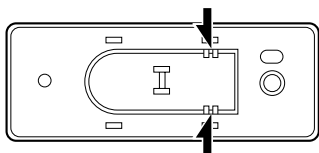
- ③ 電球を取り換えます。

- ④ はずした手順と逆の手順で取り付けます。

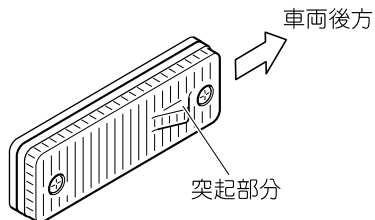


知識

- 反射板は溝にそって押し込んでください。

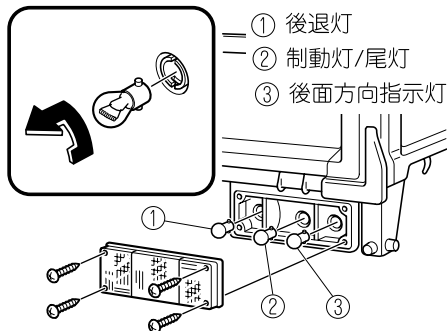


- レンズは突起部分が車両後方になるように取りつけてください。



制動灯/尾灯、後面方向指示灯、後退灯

- 1 ネジをはずし、レンズを取りはずします。
- 2 電球を取りはずします。

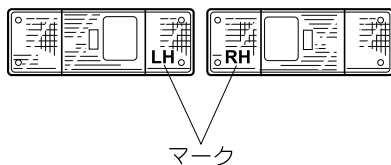


- 3 電球を取り換えます。
- 4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。



知識

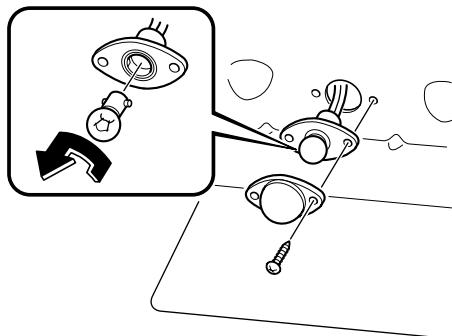
レンズは左右で異なります。マークを確認して取りつけてください。



5.万有的时候は ヒューズ切れ、電球切れのとき

番号灯

- 1 ネジをはずし、カバー、レンズを取りはずします。
- 2 電球を取りはずします。

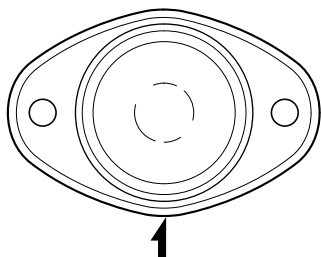


- 3 電球を取り換えます。
- 4 はずした手順と逆の手順で取りつけます。



知識

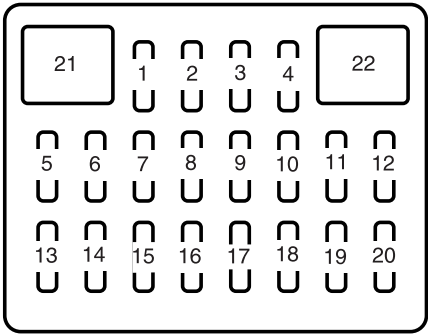
取りつけるときは、カバーの凸部とレンズの凹部をあわせてください。



5.万一のときは
ヒューズ切れ、電球切れのとき

ヒューズの受け持つ装置

室内ヒューズボックス

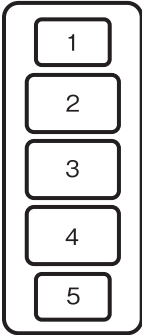


位置	表示	容量	保護装置
1	—	—	—
2	—	—	—
3	AT	10 A	トランスアクスルコントロールシステム
4	ドアロック	15 A	パワードアロック
5	—	—	—
6	—	—	—
7	エアコン	10 A	エアコン
8	ワイパ	20 A	ワイパー

位置	表示	容量	保護装置
9	ウインド*	30 A	パワーウインドー
10	ターン	10 A	方向指示灯
11	メータ	15 A	メーター
12	エンジン	15 A	エンジンコントロールシステム
13	—	—	—
14	レベリング	15 A	ヘッドランプレベリング
15	シガー	15 A	シガーライター
16	ホーン	10 A	ホーン
17	テール	10 A	尾灯
18	ストップ	15 A	制動灯
19	ハザード*	15 A	非常点滅灯
20	ルーム	10 A	ルームランプ
21	アドファン	20 A	エアコン
22	ヒータ	40 A	ヒーター

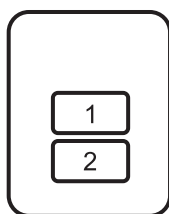
5.万一のときは
ヒューズ切れ、電球切れのとき

室外ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	HEAD	30 A	ヘッドランプ
2	INJ	30 A	エンジンコントロールシステム
3	MAIN	100 A	各種電源
4	BTN	40 A	各種電源
5	IG KEY	40 A	各種電源

エンジンルーム内ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	ABS M.	50 A	ABS
2	ABS SOL	30 A	ABS

5.万一のときは けん引について

けん引してもらうとき

けん引はできるだけマツダ販売店またはJAFなどに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。



警告

長い下り坂を降りるときは、レッカー車でけん引してください。ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。



注意

- オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度30km/h以下、走行距離は30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、駆動装置に悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。できるだけマツダ販売店やJAFなどに依頼し、レッカー車またはトレーラーを使用してください。
- 4WD車をけん引してもらうときは、まずマツダ販売店へご相談の上、次の点に注意してください。
 - 駆動装置が故障したと思われるときは、前後輪を持ち上げてけん引してください。
 - 前輪または後輪を持ち上げてけん引してもらうときは、後輪駆動にし、一度電源ポジションをACCまたはOFFにしてください。
 - 後輪を持ち上げてけん引してもらうときはハンドルを直進の状態にして固定してください。

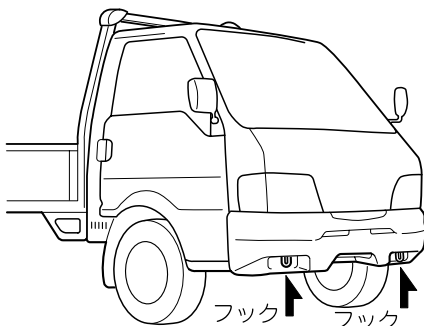


知識

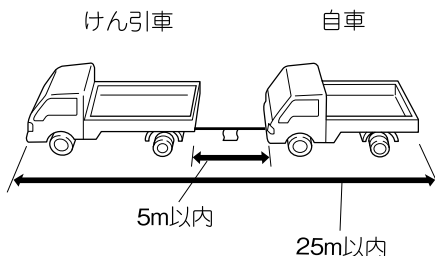
金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープに布などを巻いてください。ロープが直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

やむをえずロープでけん引してもらうときは、車両の前側にあるけん引フックを使用し、次の手順で行なってください。

- 2WD車はエンジンを止めます。
4WD車は後輪駆動にしてエンジンを止めます。
→107ページ「4WD」
- けん引ロープをフックにかけます。



- ロープは5m以内にして、中央に0.3m平方(0.3m×0.3m)以上の白い布を必ずつけてください。



- 4 けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーをNにします。エンジンがかからないときは、電源ポジションをACCにします。

警告

やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転してください。エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

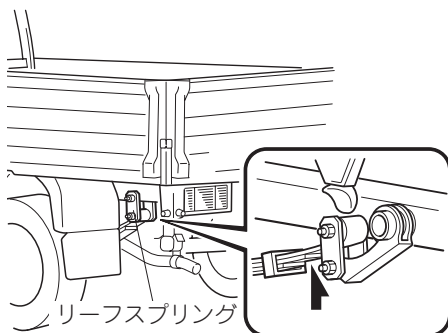
注意

けん引中は電源ポジションをOFFにしないでください。OFFにするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 5 パーキングブレーキを解除します。
- 6 けん引する車の制動灯に注意し、ローブをたるませないように走行してください。

故障車をけん引するとき

一般路上でやむをえず故障した車をローブでけん引するときは、後ろ側のリーフスプリングにローブをかけてけん引してください。



注意

けん引するときは次の点に注意してください。リーフスプリングや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。

- 自車の重量より重い車はけん引しないでください。
- 急発進など、リーフスプリングやローブに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。
- リーフスプリング以外にローブをかけないでください。

知識

金属製のチェーンやワイヤーローブなどを使用するときは、ローブに布などを巻いてください。ローブが直接車体にあたると、傷がつくおそれがあります。

5.万一のときは 万一事故が起きたとき

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1.事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所(路肩、空き地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。

2.負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3.警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4.相手の氏名、住所などの確認

5.マツダ販売店、保険会社への連絡



知識

軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

6 車との上手なつきあいかた

点検、整備 222

点検整備について	222
定期点検	222
日常点検	223

車の手入れ 230

外装の手入れ	230
内装の手入れ	233
その他の手入れ	235

積雪、寒冷時の取り扱い 236

冬にそなえて	236
運転する前に	237
走行するときは	238
駐車するときは	239
タイヤチェーンの取り付け	240
寒冷地用ワイパーブレードについて	241

こんなときは 242

夏期の取り扱い	242
雨の日の運転	242

環境保護のために 243

経済的な運転	243
廃棄物を処理するときは	246

6.車との上手なつきあいかた

点検、整備

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。

使用済バッテリーやタイヤ、エンジンオイルなどの廃液を処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。



警告

- 点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なってください。車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れないようにしてください。手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



注意

エンジンルーム内を点検するときは、エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。



知識

新車登録後1か月（または走行距離1,000km）は無料で点検が受けられます。

定期点検

6か月、12か月の定期点検整備はマツダ販売店で受けてください。



知識

点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。

日常点検

お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。

日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。

「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。



知識

点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

6.車との上手なつきあい 点検、整備

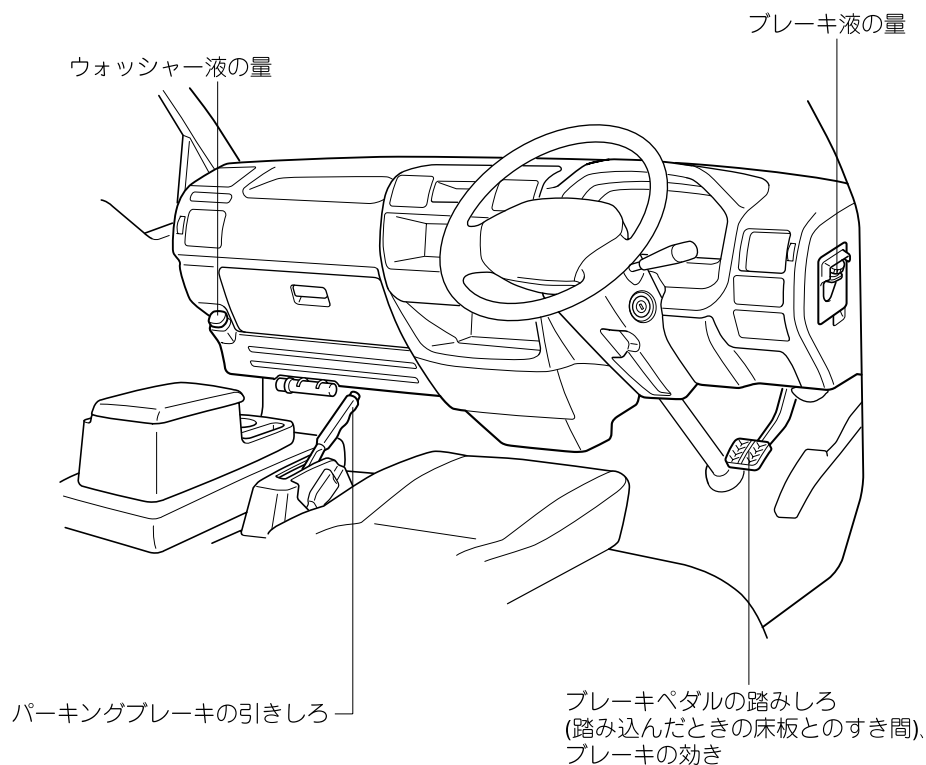
点検項目と点検箇所

運行において異常が見られた箇所

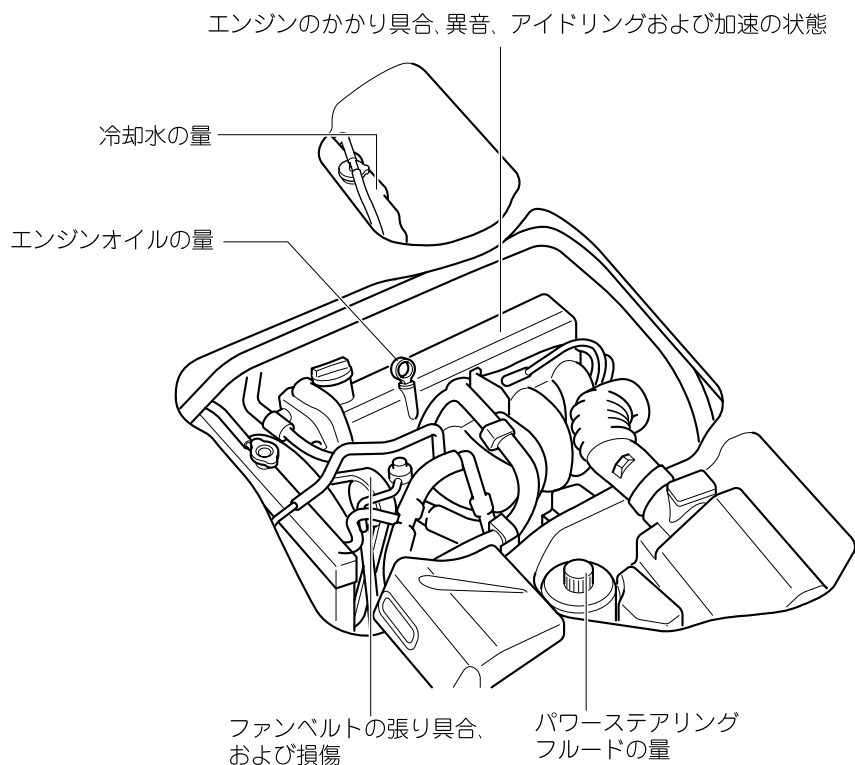
前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。

点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

運転席にすわって



エンジンルームをのぞいて



注意

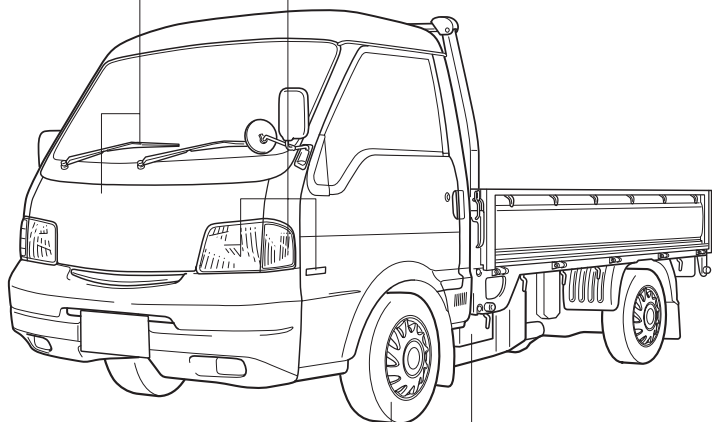
- エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンカバーを閉めるときは、シートベルトやフロアマットなどをはさまないように注意してください。

6.車との上手なつきあいかた 点検、整備

全体を見まわして

ウォッシャー液の噴射状態、
ワイパーの拭拭状態

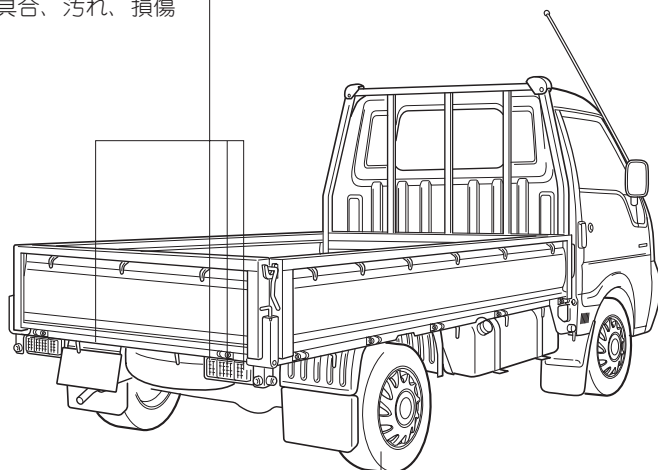
灯火装置および方向指示灯の点灯
または点滅具合、汚れ、損傷



タイヤの空気圧、き裂、損傷、
異常摩耗、溝の深さなど

バッテリー液の量

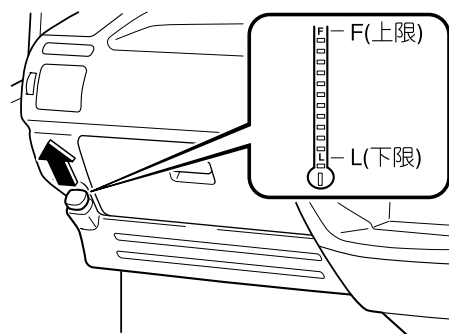
灯火装置および方向指示灯の点灯
または点滅具合、汚れ、損傷



タイヤの空気圧、き裂、損傷、
異常摩耗、溝の深さなど

ウォッシャー液の補充

ウォッシャー液が不足しているときは、純正ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考に濃度を調節し、補充してください。



知識

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のシミになるおそれがあります。
- 寒冷地では、ウォッシャー液をタンクいっぱいまで補充しないでください。

タイヤの点検

日常点検としてタイヤは定期的に点検してください。

点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

空気圧の点検

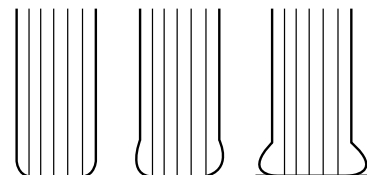


警告

■ **タイヤの空気圧が不足したままでは走行しないでください。**

タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。また、タイヤの空気圧が不足したままでは高速走行すると、タイヤがバースト（破裂）するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧が低すぎたり、高すぎたりすると乗り心地が悪くなり積荷も傷みやすくなります。また低いまま走行するとタイヤが過熱し、バーストするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。



過多

適正

不足

- タイヤの空気圧は走行に伴い約1割程度上がる場合があります。日常はタイヤが冷えている時にタイヤの接地部のたわみ状態を見て空気圧が適当であるかを点検します。
- ラジアルタイヤはたわみの状態での点検では空気圧が分かりにくいので、空気圧計で点検します。
- タイヤの空気圧は徐々に（自然に）低下しますので、目安として月に一度空気圧計を使用して空気圧が適当であるかを点検します。

6.車との上手なつきあいかた 点検、整備

- 適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼付されているラベルで確認してください。
- スペアタイヤも時々点検します。年1回は空気圧計を使用して空気圧が適正であることを点検します。
→194ページ「スペアタイヤ」

き裂、損傷の点検

タイヤの接地部全周や両側に著しいき裂や損傷およびクギ等の異物が刺さっていないかを目視で点検します。



警告

■ 異常があるタイヤを装着しないでください。

- 異常があるタイヤを装着すると、走行中にハンドルがとられたり、異常な振動を感じる場合があります。
また、パンクやバースト（破裂）などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中、異常な振動を感じた場合はマツダ販売店で点検を受け、正常なタイヤと交換してください。

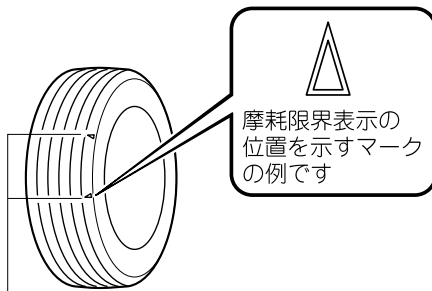
- 異常のあるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・走行安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど、故障の原因になるおそれがあります。

■ 道路の路肩などにタイヤの側面を接触させたり、凹凸やわだちの乗り越しは避けてください。

タイヤの損傷、き裂などをまねくおそれがあります。

溝の深さ、異常摩耗の点検

タイヤの溝の深さが十分であるか、摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が現れていないか、また、タイヤに片減りや局部摩耗、段付き摩耗がないかを目視で点検します。



摩耗限界表示



警告

■ タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が現れているタイヤを使用しないでください。

そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

※ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になり、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

タイヤの溝の深さは次の表を目安に点検してください。

走行状態	溝の深さ
一般走行時	1.6mm以上
高速走行時	2.4mm以上



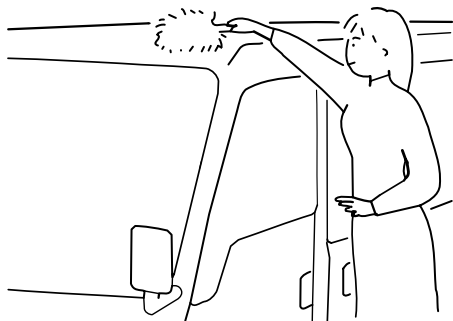
知識

ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

6.車との上手なつきあい 車の手入れ

外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。



- 保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
- 走行後は、車体についたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
- とび石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
- ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。
万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。

- 次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。

そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。

- 海岸地帯を走行したとき。
- 凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
- ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
- 鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
- コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
- 泥、ほこりが著しく付いたとき。
- 雨の中を走行したときや、雨にぬれたとき。



知識

工場から排出される化学物質や車の排気ガスなどが雨に溶けて降り注いだものを酸性雨といいます。

酸性雨をボディーに付着させたままにしておくと、塗装を傷つけるおそれがあります。早めに水で洗い流してください。

洗車するとき

水洗いするとき



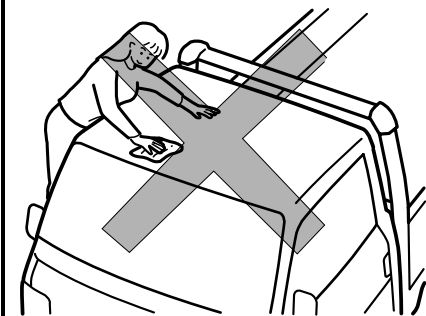
- 1 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。
- 2 車体上部から水をかけながら、やさらか
いスポンジやセーム皮などで洗います。
汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用
し、水で十分洗い流してください。
- 3 はん点が残らないように水をふき取っ
てください。

注意

- 車の下まわりや足まわりを洗うときは
けがをしないよう注意してください。
- 運転席/助手席側ワイパーアームを立て
るときは、運転席側のワイパーアームか
ら立ててください。また、降ろすときは
助手席側のワイパーアームから手を添
えながらゆっくりともどしてくださ
い。勢いよくもどすとワイパーアーム
やブレードが損傷したり、フロントガラ
スに傷や割れが生じるおそれがありま
す。
- エンジンルーム内に水をかけないでく
ださい。エンジンの始動不良や電気部
品の故障につながるおそれがありま
す。

注意

- 洗車後は、ブレーキパッドがぬれている
ため、ブレーキの効きが悪くなってい
るおそれがあります。低速で走りなが
ら、アクセルペダルを放してブレーキペ
ダルを軽く数回踏んで、効きが回復する
までブレーキを乾かしてください。
- 洗車やワックスかけを行うときは、車体
のルーフ部の一点やアンテナに強い力
をかけないようにしてください。強い
力をかけると、車体がへこんだり、アン
テナが損傷するおそれがあります。



知識

洗車するときは、硬いブラシやたわしなど
を使用しないでください。
塗装を傷つけるおそれがあります。

自動洗車機を使用するとき

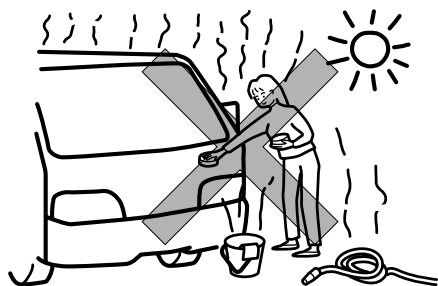
- アンテナ、ドアミラーを格納してくださ
い。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷
がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早
めることがあります。

6.車との上手なつきあい 車の手入れ

高圧洗車機を使用するとき

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがああります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入るおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください(30cm以上)。また、同じ場所を連続して洗淨しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行ってください。

ワックスをかけるときは



- ワックスがけは月に一回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
- 直射日光を避け、ボディーが冷えているとき(体温以下が目安)に行なってください。

知識

- コンパウンド(みがき粉)入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
- ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーについての油膜を取るときは、純正ガラスクリーナーを使用してください。

知識

フロントガラスに油膜があると、ワイパーがふき取りにくくなったり、雨の夜に対向車のライトなどが乱反射して見えにくくなる場合があります。

外装樹脂部品の手入れ

- バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗膜はがれなどの原因となります。すみやかに軟らかい布でふき取ってください。
- 高圧洗車機は機種によって洗浄水が高温、高圧になるものがあります。必要以上に洗車ノズルを近づけたり長時間水圧をかけると樹脂部品の変形や塗膜の損傷などの原因になることがありますのでご注意ください。
- コンパウンド(みがき粉)入りのワックスを使用すると、塗膜を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
- 電動またはエア工具を使用してコンパウンド(みがき粉)がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗膜の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
- プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けて、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

内装の手入れ



警告

■ 室内に水をかけない。

オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。



知識

- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
- 硬いプラシヤ布で強くこすると、傷がつくことがあります。

次のような場合は、すみやかにやわらかい布でふき取ってください。
そのままにしておくと変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になったり、汚れが落ちにくくなります。

- 飲み物や芳香剤などをこぼしたとき
- 油脂類が付着したとき
- 汚れがあるとき

シートベルトの手入れ

- 1 水で薄めた中性洗剤(約5%)をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
- 2 きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
- 3 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

6.車との上手なつきあいかた

車の手入れ



警告

■シートベルトにほつれ、すりきずなどの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

■シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。

有機溶剤を使用したり、染色、漂白するとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。



知識

汚れがあるときはこまめにふき取ってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなることがあります。

ビニールの手入れ

ブラシや掃除機を使用してビニールのほこりや汚れを落としてください。
革・ビニール用クリーナーを使用してビニールの汚れを落としてください。

布張り部分の手入れ☆

- 1 水で薄めた中性洗剤（約5%）をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
- 2きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

樹脂部品の手入れ



注意

つや出し剤を使用しないでください。

含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になります。

インストルメントパネル上面の手入れ

- 1 水で薄めた中性洗剤（約5%）をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
- 2きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

パネルの手入れ

パネルが汚れたときは、きれいな水にひたして固くしぼったやわらかい布などでふき取ってください。

特に汚れが気になるときは、次の方法で手入れを行ってください。

- 1 水で薄めた中性洗剤（約5%）をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
- 2きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。



知識

光沢のあるパネル、メッキ部分などの金属部分がある場合は、傷がつきやすいので、特に注意して手入れを行ってください。

その他の手入れ

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約10,000 km走行ごとにタイヤの位置を交換してください。



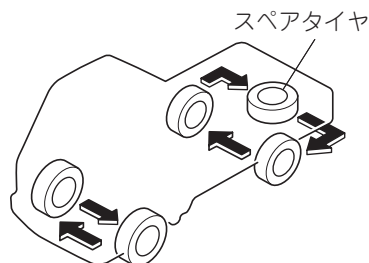
警告

前後輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。指定されたサイズ以外のタイヤを装着すると、駆動系部品(ディファレンシャルギヤ等)に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどして、オイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。



知識

- 搭載されているジャッキを使用してタイヤの位置交換を行なうときは、スペアタイヤを使用し1輪ずつ交換してください。
→196ページ「タイヤ交換」
- タイヤの位置交換を行うまえにタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
→227ページ「タイヤの点検」



6.車との上手なつきあいかた 積雪、寒冷時の取り扱い

冬にそなえて

エンジンオイルの準備

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。

→249ページ「エンジンオイル」

冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。

冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	凍結温度
30%	-16℃
50%	-37℃

純正ロングライフクーラント (ゴールドデン)^{【FL22】}を使用する場合

純正ロングライフクーラント (ゴールドデン)^{【FL22】}は濃度調整済みの冷却水です。

薄めずそのままご使用ください。

冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

冷却水を交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。

→227ページ「ウォッシャー液の補充」

バッテリー液の点検

気温が下がるとバッテリー性能が低下するためエンジン始動が困難になる場合があります。

バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。

- 点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。
- 交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

冬用タイヤに交換するときは、前後輪とも指定されたサイズ、同一種類のものを使用してください。



警告

- 前後輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンのタイヤを使用してください。

特にスタッドレスタイヤとノーマルタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、駆動系部品 (ディファレンシャルギヤ等) に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどして、オイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみてサイズを確認しておきましょう。

→240ページ「タイヤチェーンの取り付け」

運転する前に

ルーフに雪が積もっているときは

走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。
走行前に取り除いてください。

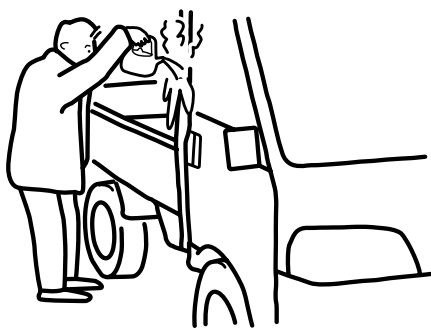
ガラスに雪や霜がついているときは

視界を確保するため取り除いてください。
プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。プラスチックの板などを使用する時はガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは



- ドアが凍結しているときは、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。
無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部にはお湯をかけないでください。凍結してキーが差しこめなくなるおそれがあります。
- お湯をかけたあとは、すぐに水分をふき取ってください。
- ワイパー、パワーウィンドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合もお湯をかけて氷を溶かしてから操作してください。
無理に動かそうとすると故障の原因になります。

車に乗るときは

靴についた雪をよく落としてから乗車してください。
ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

6.車との上手なつきあい 積雪、寒冷時の取り扱い

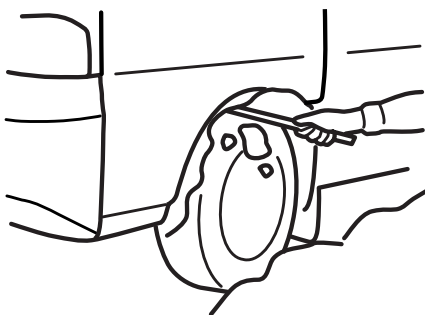
走行するときは

すべりやすい路面を走行するときは



- 早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。
→240ページ「タイヤチェーンの取り付け」
- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意



走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

効が悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

駐車するときは



- 寒冷時はパーキングブレーキをかけると凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけず、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPに置いてタイヤに輪止めをしてください。

また、4WD車は4WDセレクトレバーを2H、4H、4Lのいずれかにいれてください。

→109ページ「4WDセレクトレバー」

警告

- 4WDセレクトレバーをNにしたまま駐車しないでください。

Nにするとチェンジレバーを1またはRにしても歯止めの役目をしないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

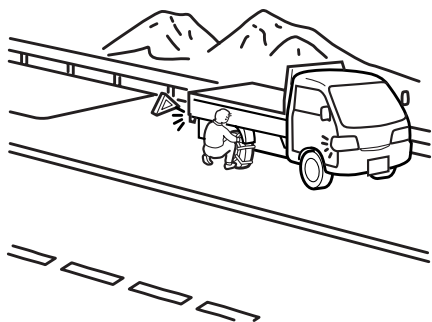
- 車両前側を風下に向けて駐車してください。風上に向けるとエンジンが冷えすぎて始動しにくくなることがあります。
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがフロントガラスに凍りつくことがあります。

注意

運転席/助手席側ワイパーアームを立てるときは、運転席側のワイパーアームから立ててください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーアームやブレードが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じるおそれがあります。

6.車との上手なつきあいかた 積雪、寒冷時の取り扱い

タイヤチェーンの取り付け



タイヤチェーンは4WD車も後輪に取り付けます。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。

タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。

路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板(停止表示灯)を使用してください。



注意

- 純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。くわしくは、マツダ販売店にご相談ください。
- 積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。また、4WD車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下で走行してください。30km/h以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。



知識

- お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。
- ホイールキャップ装着車は、キャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップに傷がつくおそれがあります。

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。

寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおっています。

必要に応じてマツダ販売店でお求めください。



知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

夏期の取り扱い

エアコンのチェック

エアコンの冷媒(エアコンガス)が不足していると、冷房性能が低下します。

夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておきましょう。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足していないかこまめに点検してください。

点検要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。

このようなときは、吹き出し口をに切り替えます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。



警告

■ ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントガラスの油膜をとるときは

雨の夜は、フロントガラスに油膜があると、対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなる場合があります。

ガラスクリーナーを使ってフロントガラスの表面をきれいにしてください。

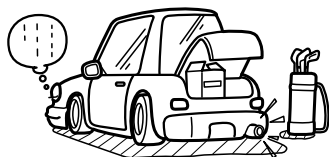
経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。

アイドリングストップ

コンビニでの買い物、人待ちや荷降ろしなど、ちょっとした駐車の際にもエンジンを止めましょう。

10分間のアイドリングで、130cc程度の燃料を浪費します。



不要な荷物は積まない

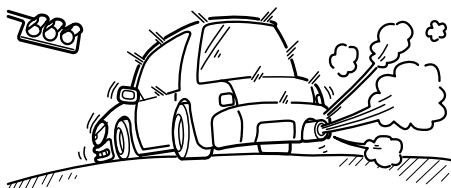
荷物が多いほど、燃料を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。

100 kgの不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化します。



空ぶかしをしない

空ぶかしをやめると、燃料を節約できます。空ぶかしは環境にも車にもよくありません。



エアコンの使用は控えめに

エアコンの使用を抑えると、燃料の節約になります。

外気温25°Cの時に、エアコンを使用すると、12%程度燃費が悪化します。



6.車との上手なつきあいから 環境保護のために

タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。

タイヤの空気圧が適正値より50 kPa (0.5 kg/cm²) 不足した場合、市街地で2%程度、郊外で4%程度、それぞれ燃費が悪化します。



ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。

速度にムラのある走り方をすると、市街地で2%程度、郊外で6%程度燃費が悪化します。



経済的速度

一般道路で40km/h、高速道路で80km/h程度の等速走行が経済的です。



アクセルペダルの上手な踏みかた

加速終了時 (オートマチック車)

アクセルペダルを少し大きめにもどしてみましょう。適切に無駄なく自動変速されるため、燃費がよくなります。

下り坂に入るとき、減速を始めるとき

早めにアクセルペダルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。アクセルペダルをもどすと燃料噴射が停止されるので、燃費がよくなります。

等速走行時

アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。

アクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど燃料噴射が少なくなるため、燃費がよくなります。

JC08モード燃費について

「JC08モード」とは



知識

車両カタログに記載されている「JC08モード」燃費は、お客様の使用環境変化や燃費測定技術の進歩を踏まえて、図1のような実際の走行に近い細かな速度変化での運転条件で、エンジン冷間時、暖機後の2パターンを図2のようなシャシーダイナモーター上で走行した値です。ただし、気象条件や渋滞などのお客様の使用環境、急発進、エアコンや電気負荷など実際の走行とは異なる場合があります。

図1. JC08モード走行

走行距離 8.172Km
平均速度 24.4Km/h
最高速度 81.6Km/h

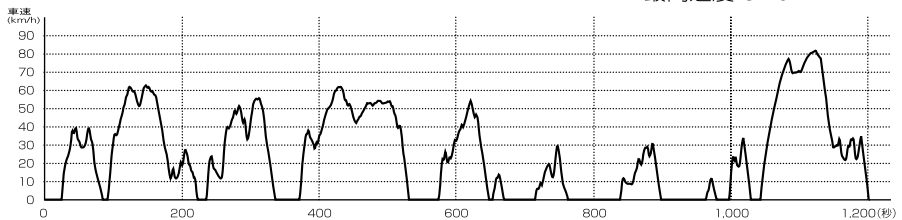
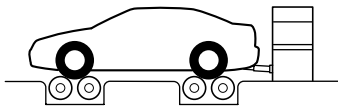


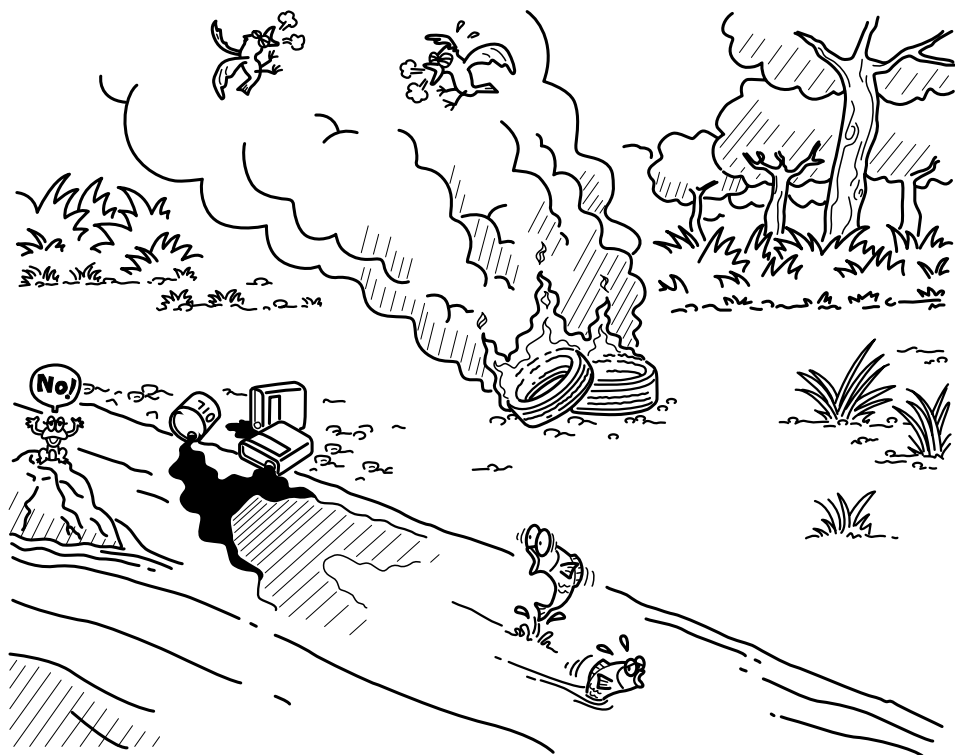
図2. シャシーダイナモーター



廃棄物进行处理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済みバッテリーは新品バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルやクーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。交換済みのエンジンオイルは新品エンジンオイルを購入した販売店に処分を依頼してください。また、クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンにはオゾン層を破壊しない代替フロンガスを使用しています。それでも代替フロンガスには地球を温暖化するはたらきがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店が専門の修理業者に依頼してください。



MEMO

サービスデータ

燃料、オイル、液類

■燃料

使用燃料については、67ページの「燃料補給口」もあわせてお読みください。

項目	サービスデータ
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
タンク容量 (参考値)	58L

■フューエルフィルター

項目	サービスデータ
交換時期	100,000km走行ごと

■エンジンオイル

オイル量の確認は、レベルゲージで行なってください。
 交換時期は走行kmまたは年月のどちらか早い方で交換してください。
 寒冷地では、エンジンオイルが劣化しやすいので、早めにオイルを交換してください。

項目		サービスデータ	
交換時期		標準	15,000 kmまたは1年ごと
		シビアコンディション*1	7,500 kmまたは6か月ごと
オイルグレード	純正モーターオイルゴールデンSM	API SM/ILSAC GF-4, SAE 5W-20	
	純正モーターオイルゴールデンSN	API SN/ILSAC GF-5, SAE 0W-20	
		API SN/ILSAC GF-5, SAE 5W-30	
交換量 (参考値)	オイルのみ	4.05 L	
	オイルとオイルフィルター	4.45 L	

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表にもとづき使用してください。



サービスデータ

■エンジンオイルフィルター

交換時期は走行kmまたは年月のどちらか早い方で交換してください。

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	15,000kmまたは1年ごと
	シビアコンディション*1	7,500kmまたは6か月ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

■マニュアルトランスミッションオイル

項目	サービスデータ
交換時期	40,000km走行ごと
推奨オイル	純正ロングライフ SAE 75W-90 (GL-4)
容量 (参考値)	2.5L

■オートマチックトランスミッションフルード

項目	サービスデータ
推奨フルード	純正ATF マチックフルードS
容量 (参考値)	10L

■ディファレンシャルオイル

項目			サービスデータ
交換時期			40,000km走行ごと
推奨オイル	LSD車		純正スリップレスギヤオイルSAE90 (GL-6)
	LSD車以外		純正ロングライフハイポイド [®] SAE90 (GL-5)
容量 (参考値)	2WD車	フロント	—
		リヤ	1.3L
	4WD車	フロント	1.05L
		リヤ	1.3L

■トランスファーオイル (4WD車)

項目		サービスデータ
推奨オイル		純正ロングライフ SAE 75W-90 (GL-4)
容量 (参考値)	マニュアル車	1.6L
	オートマチック車	2.0L

■パワーステアリングフルード

液量の確認は、リザーバタンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
推奨フルード		純正ATF M-III、純正ATF M-V
容量 (参考値)	2WD車	0.8L
	4WD車	0.9L

サービスデータ

■ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2年ごと
推奨液	純正ブレーキフルードBF-3 (DOT-3)

■冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント	2年ごと
	純正ロングライフクーラント (ゴールドen)*1	100,000km走行または3年ごと (初回は180,000km走行または7年)
推奨液		純正ロングライフクーラント、 純正ロングライフクーラント (ゴールドen)*1
容量 (参考値)	マニュアル車	7.4L
	オートマチック車	7.8L

*1 ラジエーターキャップまたはその付近に「FL22」のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールドen) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

■ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージやリザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
タンク容量 (参考値)	2.2L

各部の点検値、交換時期

■ブレーキペダル

項目	サービスデータ
遊び	6.6～16.3mm
床板とのすき間 (踏力147N {15kgf})	81mm以上

■パーキングブレーキ

項目	サービスデータ
引きしろ (操作力196N {20kgf})	7～9ノッチ

■クラッチペダル

項目	サービスデータ
遊び	5.0～17.0mm
床板とのすき間	0mm以上

■オルタネーターベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度をこえているものは交換)

■パワーステアリングベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度をこえているものは交換)

サービスデータ

■エアクリーナーエレメント

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	50,000km走行ごと
	シビアコンディション*1	25,000km走行ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

電気部品/電球 (バルブ)

■スパークプラグ

項目		サービスデータ
型式	NGK	TR5AI13

注意

イリジウムプラグを使用していますので、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。

■バッテリー

項目	サービスデータ
型式、容量	80D26L, 65Ah (20時間率)

■電球 (バルブ) の容量

電球 (バルブ)	W数 (12V用)	規格 (UNECE*1 (SAE))
ヘッドランプ	60/55 W	H4 (—)
車幅灯	21/5 W	P21/5W (—)
前面方向指示灯/非常点滅灯	21 W	PY21W (—)
側面方向指示灯/非常点滅灯	5 W	— (—)
後面方向指示灯/非常点滅灯	21 W	— (—)
制動灯/尾灯	21/5 W	— (—)
後退灯	21 W	— (—)
番号灯	7.5 W	— (—)
ルームランプ	10 W	— (—)

*1 UNECEはUnited Nations Economic Commission for Europe (国連欧州経済委員会) の略です。

サービスデータ

■ヒューズ

→214ページ「ヒューズの受け持つ装置」

タイヤ/ホイール

■タイヤ/ホイールサイズ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ		ホイール		
		サイズ	インセット (オフセット)	ピッチサークル 直径
185/80R14 97/95 N LT	2WD車	14×5J	50mm	139.7mm
	4WD車	14×5J	50mm	114.3mm
185/80R14 102/100 N LT	2WD車	14×5J	50mm	139.7mm
	4WD車	14×5J	50mm	114.3mm

■タイヤ空気圧

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

→12ページ「日常点検としてタイヤを定期的に点検する」

前輪		後輪	
タイヤサイズ	タイヤ空気圧	タイヤサイズ	タイヤ空気圧
185/80R14 97/95 N LT	350 kPa (3.5 kgf/cm ²)	185/80R14 102/100 N LT	425kPa (4.25 kgf/cm ²)

■ホイールナットの締め付けトルク

タイヤを取り付けるときは、次のトルクでホイールナットを締め付けてください。

89N・m～117N・m (9kgf・m～12kgf・m)

■ブレーキディスク、ブレーキドラムの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値、ブレーキドラムの摩耗限度値、およびそれぞれの測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

さくいん

A

ABS (アンチロックブレーキシステム)	56
警告灯	57

S

SRSエアバッグシステム	49
--------------------	----

ア

R.F.W.ロック表示灯	110
アンチロックブレーキシステム (ABS)	56
警告灯	57
アンテナ	123

イ

EDR (イベントデータレコーダー)	55
イグニッション (エンジン)	
キー	60
スイッチ	97
インテリアライト (室内照明)	180
インナーミラー (ルームミラー)	76

ウ

ウインカー (方向指示器)	
レバー	93
W (ワット) 数	255
ウインドー	
曇ったとき	122
手入れ	232
パワーウインドー	66
ウォッシャー液	
ウォッシャースイッチ	94
タンク容量	252
冬にそなえて (濃度の調節)	236
補充	227

エ

エアコン (空調)	118
上手に使用するために	118
マニュアルエアコン	121
エアバッグシステム	49
AM/FMラジオ	134
SRSエアバッグシステム	
警告灯	55
エンジン	
かけかた	98
カバー	70
キー	60
スイッチ	97
エンジンオイル	
交換時期、オイルグレード、交換量	249
冬にそなえて	236
油圧警告灯	84
エンスト (故障したとき)	187

オ

オーディオ	
AM/FMラジオ	134
CD一体型ラジオ	140
上手に使用するために	123
オートマチック車	
運転するとき	104
オートマチックトランスミッション	
シフトロック装置	102
セレクトレバー	101
ホールドモード	103
オートマチックトランスミッションフルード	
AT油温警告灯	87
推奨フルード、容量	250
オーバーヒートしたとき	199

オ

お子さま専用シートについて	
シートの種類	46
選択の目安	48
お子さまの安全	
お子さま専用シートについて	45
オドメーター	79
オルタネーターベルト	
点検基準値	253

カ

夏期の取り扱い	242
ガソリン(燃料)	
使用燃料、容量	248
燃料補給口	67
カップホルダー	182
ガラス	
曇ったとき	122
手入れ	232
環境保護のために	243
寒冷時の取り扱い	236

キ

キー	60
キーナンバープレート	60
リトラクタブルタイプキー	60
キーレスエントリーシステム	
リトラクタブルタイプキー	61
キックダウン	23
緊急用具の取り扱い	188

ク

空気圧(タイヤ)	12
空調(エアコン)	118
クラクション(ホーン)	95
クリープ現象	23
グローブボックス	182

ケ

警告灯	
エアバッグ警告灯	86
AT油温警告灯	87
ABS警告灯	85
エンジン警告灯	85
故障警告表示灯	83
シートベルト警告灯	87
充電警告灯	84
燃料残量警告灯	86
プリテンショナー警告灯	86
ブレーキ警告灯	83
油圧警告灯	84

警報音	
キー抜き忘れ防止チャイム	90
ブレーキパッド摩耗警報	90
ランプ消し忘れ防止チャイム	90
リバースポジションチャイム	90
けん引	218

コ

工具	189
後退灯(バックランプ)	
W(ワット)数	255
故障したとき	186

サ

サービホールカバー	71
サイドブレーキ	99
サイドミラー(ドアミラー)	75
サンバイザー	180

シ

CD一体型ラジオ	140
シート	37
正しい運転姿勢	36

シ

シートベルト	
緊急時固定機構 (ELR) 付	
シートベルト	42
警告灯	41
3点式シートベルト	41
正しい着用のしかた	38
プリテンショナー付	
シートベルト	42
ロードリミッター付	
シートベルト	44
シガーライター	181
事故が起きたときは	220
室内照明	180
室内灯 (ルームランプ)	
スイッチ	180
W (ワット) 数	255
シフトロック装置	102
ジャッキ	189
車幅灯 (スモールランプ)	
スイッチ	91
W (ワット) 数	255
収納	182
グローブボックス	182
センターコンソールボックス	
(カップホルダー付)	183

ス

水温計	79
ストップランプ (制動灯)	
W (ワット) 数	255
スノータイヤ	236
スピードメーター	79
スベアタイヤ	194
スモールランプ (車幅灯)	
スイッチ	91
W (ワット) 数	255

セ

制動灯 (ストップランプ)	
W (ワット) 数	255
積雪、寒冷時の取り扱い	236
セレクトレバー	101
洗車	231
前照灯 (ヘッドランプ)	
スイッチ	91
レベリングスイッチ	91
W (ワット) 数	255
センターコンソールボックス	
(カップホルダー付)	183

ソ

速度計 (スピードメーター)	79
----------------	----

タ

ターンシグナル (方向指示器)	
レバー	93
W (ワット) 数	255
タイヤ	
空気圧	12
交換	196
サイズ	257
チェーン	240
点検	227
冬にそなえて	236
ローテーション (位置交換)	235

チ

チェーン (タイヤチェーン)	240
チャイルドシート	45
シートの種類	46
選択の目安	17, 48

チ

駐車するとき

オートマチック車	106
坂道駐車	28
積雪、寒冷時	239

駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)

警告灯	100
操作方法	99
点検基準値	253

テ

定期点検	222
------------	-----

ディファレンシャルオイル

交換時期、推奨オイル、容量	251
---------------------	-----

手入れ

インストルメントパネル上部	234
外装	230
ガラス	232
シートベルト	233
樹脂部分	234
内装	233
布張り部分	234
パネル	234
ビニール	234
ミラー	232

テールランプ (尾灯)

スイッチ	91
W (ワット) 数	255

電球

W (ワット) 数	255
点検整備について	222
電動ミラー (ドアミラー)	75

ト

ドア	63
パワードアロック	65
ドアミラー	75

ト

トランスファーオイル

推奨オイル、容量	251
トリップメーター	79

ナ

ナンバープレートランプ (番号灯)

スイッチ	91
W (ワット) 数	255

ニ

荷台	72
----------	----

日常点検	223
------------	-----

ネ

燃料

使用燃料、容量	248
燃料計	80
燃料残量警告灯	86
燃料補給口	67

ハ

パーキングブレーキ

警告灯	100
操作方法	99
点検基準値	253

灰皿	181
----------	-----

ハイビーム (ヘッドランプ上向き)

スイッチ	91
W (ワット) 数	255

ハザードランプ (非常点滅灯)

スイッチ	96
W (ワット) 数	255

発炎筒	188
-----------	-----

バックミラー (ルームミラー)	76
-----------------------	----

パッシング合図	93
---------------	----

ハ

バッテリー	
あがったとき	201
型式、容量	255
冬にそなえて	236
バルブ(電球)	
W(ワット)数	255
パワーウインドー	66
パワーステアリングフルード	
推奨フルード、容量	251
パワーステアリングベルト	
点検基準値	253
パワードアロック	65
パンクしたとき	196
番号灯(ナンバープレートランプ)	
スイッチ	91
W(ワット)数	255

ヒ

非常点滅灯	
スイッチ	96
W(ワット)数	255
尾灯(テールランプ)	
スイッチ	91
W(ワット)数	255
ヒューズ	203
表示灯	
R.F.W.(リモートフリー	
ホイール)ロック表示灯	89
セレクトレバー位置表示灯	88
ハイビーム	
(ヘッドランプ上向き)表示灯	87
方向指示/非常点滅表示灯	87
ホールドモード表示灯	88
4WD表示灯	88

フ

ブースターケーブルのつなぎ方	201
吹き出し口(空調)	119
フック(けん引)	218
踏切内で動けなくなったとき	187
フューエルキャップ	69
冬にそなえて	236
冬用タイヤ(スノータイヤ)	236
ブレーキ	99
警告灯	100
ブレーキ液(フルード)	
交換時期、推奨液	252
ブレーキペダル	
点検基準値	253
ブレーキランプ	
W(ワット)数	255
フロントアンダーミラー	76

ヘ

ヘッドランプ(前照灯)	
スイッチ	91
レベリングスイッチ	91
W(ワット)数	255

ホ

ホイール	
サイズ	257
方向指示器	
レバー	93
W(ワット)数	255
ホールドモード	
スイッチ	103
ホーン	95

マ

マニュアルトランスミッション	100
マニュアルトランスミッション	
オイル	250

ミ

ミラー	
手入れ	232
ドアミラー	75
フロントアンダーミラー	76
ルームミラー	76

ヤ

ヨ

4WD	107
R.F.W. (リモートフリー	
ホイール) ロック表示灯	110
セレクトレバー	109
表示灯の点滅の仕方	111
フロントディファレンシャル油	
温警告	110
4WD表示灯	109

ラ

ライセンスプレートランプ (番号灯)	
W (ワット) 数	255
ライター	181
ランプ	
消し忘れ防止チャイム	92
スイッチ	91
点灯しないとき	203
レベリングスイッチ	91
W (ワット) 数	255

リ

リパースポジションチャイム	90
リモートフリーホイール (R.F.W.)	
ロック表示灯	89

ル

ルームミラー	76
ルームランプ	180

レ

冷却水	
交換時期、推奨液、容量	252
冬にそなえて (濃度の調節)	236

ロ

ロードレストストッパー	74
-------------------	----

ワ

ワイパー	
寒冷地用ワイパーブレード	241
スイッチ	94
ワックスがけ	232

お問い合わせ、ご相談はお近くのマツダ販売店または、
下記へお願いいたします。

マツダ(株)コールセンター
全国共通フリーダイヤル

 0120-386-919

受付時間

平日 9:00～17:00

土・日・祝日 9:00～12:00 13:00～17:00

携帯電話からもご利用になれます。

弊社における個人情報の取扱いは、
弊社ウェブサイトに掲載しています。
(<http://www.mazda.co.jp>)

発行元 **マツダ株式会社**

〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3-1

発行 2016年 1月

印刷 2016年 1月

263頁 初版